

493

特202

385

第七十回帝國議會貴族院議事報告書

貴族院議員 佐々木八十八

(以活版換謄寫)



0006161000

0006161-000

特202-385

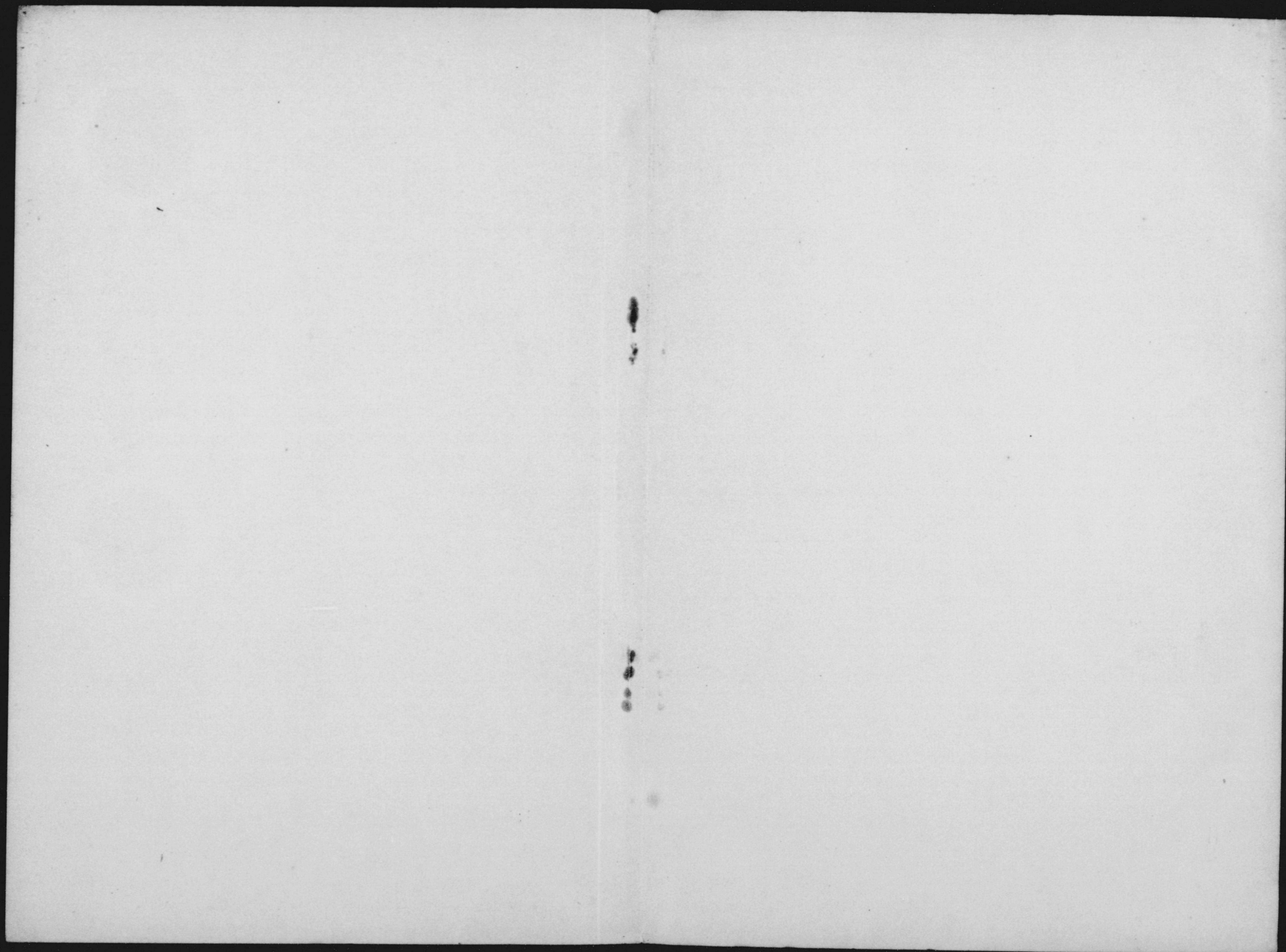
第七十回帝國議會貴族院議事報告書

佐々木八十八・〔著〕

三浦安藏

昭和12

ABE



特 202
385



第七十回帝國議會貴族院議事報告書



謹呈

開會劈頭、内閣の更迭あり、其の前後の情勢より推して、早期解散、避け難かるべしと観測されたる今期議會は、意外にも一轉して平穩裡に經過し、劃期的大豫算、成立して無事、其の大團圓を告げむとする會期の最終日に至り、更に再轉して意外の解散を観ること、相成り申候。小生は之れに關する批判を差控へ候へども、洵に不可解至極なる政界の動向と申すべく、多數、重要議案の審議未了に終りたるも畢竟、此の政争の犠牲にして、其の責任の何れにあるを問はず、浩歎すへき事象と存し候。吾人は議會不成績に依る事の全部を、直ちに政府に負擔せしむべしと主張するものにあらざるも、聊か記して當局、今後の輕舉を戒め、議會の自省を要望するものに御座候。

茲に例に依りて議事の概要を並録したる第七十議會報告書一部、御座右に拜呈、仕り候間、何卒、御叱留、下されたく若し御寸暇に御一覽を蒙むることを得ば、無上の光榮に存し奉り候。

敬具。

昭和十二年六月中浣

貴族院議員

佐々木八十八

(昭和十二年五月廿九日誌)

第七十回帝國議會貴族院議事報告書

目次

第一章 緒言	一頁
第二章 政府の施政方針	二頁
第一節 廣田内閣の施政方針	三頁
第二節 林内閣の施政方針	一三頁
第三章 政府の外交方針	一七頁
第一節 廣田内閣の外交方針	一七頁
第二節 林内閣の外交方針	二六頁
第四章 財政	四三頁
第一節 豫算	四三頁
一、昭和十二年度豫算	四三頁
イ、歳入	四三頁
ロ、歳出	四四頁

- 二、昭和十二年度豫算修正綱要……………四五頁
- 三、昭和十一年度總豫算追加……………五七頁
 - イ、昭和十一年度豫算追加(第一號)……………五八頁
 - ロ、昭和十一年度各特別會計豫算追加(第一號)……………五九頁
- 四、昭和十二年度總豫算追加……………六二頁
 - イ、昭和十二年度豫算追加(第一號)……………六二頁
 - ロ、昭和十二年度特別會計豫算追加(第一號)……………六七頁
- 第二節 決算及國有財産……………一二四頁
 - 一、昭和十年度決算……………一二四頁
 - イ、歳入……………一二五頁
 - ロ、歳出……………一二五頁
 - 二、豫備金及豫算外支出……………一二七頁
 - 三、國有財産……………一二九頁
- 第五章 法律案……………一三五頁
 - 第一節 貴族院及衆議院に於て可決したる法案……………一三五頁

- 第二節 貴族院にて可決し衆議院にて審議未了の法案……………一五六頁
- 第三節 衆議院にて可決し貴族院にて審議未了の法案……………一五七頁
- 第六章 建議案……………一五九頁
- 第七章 決議案……………一五九頁
- 第八章 請願……………一六一頁

第七十回帝國議會貴族院議事報告書

第一章 緒言

第七十回帝國議會は廣田内閣に採つては最初の通常議會であり、豪莊華麗を極めた新議事堂に開かる。最初の議會である許りでなく、廣田内閣の對「ソ」並に對支外交、馬場藏相の財政政策及び増税計畫、賴母木遞相の電力國營案等に對する世論は高潮に達し居る爲め波瀾は豫想せられ、世間注目焦點となつて居つたが、果して休會明け間近の二大政黨の大會に於ける宣言決議には政府攻撃の旗幟が鮮明となり、寺内陸相は「既成政黨とは時局に對する認識を異にす」と言明し、陸軍と政黨との衝突は所詮免れ難い情勢となつた、休會明け議會の第一日、即ち昭和十二年一月二十一日、貴族院では内閣總理大臣廣田弘毅君の施政方針演說並に外務大臣有田八郎君の外交演說に對して子爵渡邊千冬君の質疑演說で散會したが、その日の午後衆議院に於ては貴族院同様首相、外相の施政方針演說並に大藏大臣馬場鑓一君の財政演說の後濱田國松君の質疑演說之れに對する陸軍大臣寺内壽一君の應答が導火線となつて意外の大波紋を捲き起し、帝國議會は一月二十二日より二日間の停會を命ぜられ、その翌日廣田内閣は總辭職をなした、陸軍の強腰では衆議院の解散は到底免れ難い情勢であつたが、陸軍の強

氣に對して海軍が協調的に局面を打開しようとする意圖を指示して兩者の意見の不一致が議會の解散がわりに内閣の總辭職となつた次第である。

後繼内閣組織の大命は一度陸軍大將宇垣一成君に降下したが、陸軍首腦部の全面的反對に遇ひ陸軍大臣の候補者を得る能はずして一月二十九日遂に大命を拜辭し、翌三十日陸軍大將林 銑十郎君組閣の大命を拜して二月二日林 内閣は成立した。

今回の政變の動機は廣田首相に對し、寺内陸相が衆議院の解散を要求したことにある、陸相はこの解散要求を議會の休會明け前から廣田首相に提出してゐた、休會明け當日衆議院でなされた濱田國松君の質疑演説、それに續いて彼と寺内陸相との間に交はされた應答は解散要求の原因ではなく（それは寺内陸相自身が言明してゐた）、只それを表面化する機會を與へたに過ぎない。

議會開會中政變の起つた例はこれまで三度しかない、一つは大正二年二月二十日第三次桂 内閣が政友會と國民黨との護憲運動による不信任案によつて倒れたものと、一つはその翌年の大正三年三月二十四日第一次山本權兵衛内閣が彼のシーメンス事件に關聯して貴族院の不信任的反對により總豫算案の不成立により投げ出したるもの、而して最後の一つは第五十二議會加藤高明内閣の時で、加藤首相は病氣を押して登院して居つたが議會中に倒れ休會明け間もない一月二十八日薨去した、大命は加藤内閣の内相若槻男に降下して憲政會の延長内閣が出來上つた、今度の廣田内閣の總辭職は以上の三

例と加へて四度目になる。

斯の如く議會開會中の政變により議會は一月二十四日より二月三日迄休會となり、更に二月四日より十日迄の七日間と、二月十一日より十四日迄の四日間と再度停會を命せられ、其の間政府は前内閣の提出したる昭和十二年度總豫算案並に其の他の法律案を撤回して新なる方針に基き檢討を遂げ相當修正を加へて再提出をなした、議會は休會、停會により著しく審議期間を短縮せられ、未曾有の大豫算其の他の重要法案の審議に甚だしく不便を感じたるも、我等は時局の容易ならざるものあるに鑑み、銳意審議を進め不満足ながらも總豫算案及びそれに關連せる臨時租税増徴法案を議決し、三月三十一日迄會期延長を命せられたる六日の期間に尙ほ幾多の重要法案の議了に勉めたるも、三月三十一日政府は意外にも議會最終日の本會議開會直前に、突如解散を奏請し衆議院は解散を命せられ貴族院は停會を命せられ、波亂を豫想せられたる第七十回帝國議會は無事終了の最後の日に至り多數の法案を審議未了の儘萬丈の波瀾を捲き起して其の終りを告げた。

第二章 政府の施政方針

第一節 廣田内閣の施政方針

内閣總理大臣 廣田弘毅君

諸君、茲に昭和十二年の新春を迎へ、我 皇室の御隆昌を拜しますことは、我等國民の齊しく慶賀し奉るところで御座います。殊に 聖上陛下には、天機彌々御麗はしく、玉體益々御健かに涉らせられ、帝國の隆昌、國民の福祉と世界の平和との爲に日夜 御宸念あらせ給ふことは、洵に恐懼に堪へぬ次第で御座います。

本日、此の新議事堂に於て政府の所信を披瀝し、諸君と共に洪猷輔翼の重責を竭し、國運の進暢を圖りますことは、私の最も光榮とする所であります。

帝國は正を執り邪を斥け、萬邦協和、共存共榮以て世界の恒久的平和確立に寄與することを其の使命と致すのであります。皇室の御稜威と國民の勵精努力とに依り、國力は愈々充實し、國際的地位は益々向上して、凡ゆる方面に於て躍進を續け、我高遠なる使命達成に向つて進みつゝあることは、寔に御同慶に堪へぬところであります。

併し乍ら熟々帝國内外の情勢を稽へまするに、一方國內的には思想、國防、産業、經濟、財政、教育其の他幾多の問題を控へ、他方世界の現状は、混沌たる状態に在り、帝國を繞る國際政局は愈々機微を加へ、各種の對外問題は益々複雑化しつゝある情況でありまして、帝國の前途には幾多の難關あるを覺悟せねばならぬと存するのであります。此等の難關を排して、我國運の進暢を期せんが爲には、外に向つては克く帝國の崇高なる使命を世界に宣揚して正しき認識を深め、内に於ては諸般の施

設經營の徹底を期して庶政一新の實を擧げ、以て國力の充實を圖らねばなりません。而して其の根本は光輝ある國體觀念を愈々明徴にし、内外諸般の方策をして總て之に朝宗せしめ、又國民精神を振作し、我 皇室を中心として、國民一致團結不退轉の決意を以て淬礪の誠を輸すに在りと考ふるのであります。是れ即ち政府が邦家興新の 聖謨を翼賛し奉るの基調を爲すものであります。

帝國外交の方針は、前述致しましたる帝國の使命に則り、終始一貫渝らざる所であります。政府は右根本方針に基き、滿洲國との特殊不可分の關係を益々強化して、日支國交を調整するの肝要なるを信じ、善隣協調和親の實を擧げんと努力しつゝあるのであります。

帝國政府は我尊嚴なる國體に悖り、且人類の福祉を害する共產主義的活動に對しては、嚴重なる取締を爲し來つたのであります。所謂コミンテルンの危険性は近來益々増大の兆候あり、其の國際的赤化宣傳工作は、愈々巧妙深刻となりつゝある状態に鑑みまして、國際的協力に依る防衛の必要を痛感し、今回先づ對コミンテルン關係に於て、我國と立場を同じくする獨逸との間に、防共協定の締結を見るに至つたのであります。

帝國政府としては日蘇關係の調整は依然之を重視し、大いに努力致して居りますし、又對英、對米の親善關係も益々敦厚ならしむるの決意を有する次第でありまして、國際信義に立脚し列國との交誼を敦くするは言を俟たざる所であります。

次に現内閣が昭和十二年度以降、豫算に關聯して實現を圖らんとする重要政策に就て申述べ度いこと存じます。昨春第六十九回帝國議會に於て開陳致しましたる方針に基き、其の後政策の具體化に銳意力を致して參つたのであります。其の結果、政府は國防の充實以下七項目に亘る具體的政策を決定し其の實行の爲に必要な豫算案及法律案を今期議會に提出することに致しました。前議會に於きましても申述べました通り、庶政各般に亘り施設改善すべき事項は多々あるのであります。現下内外の情勢と財政の現状とに鑑みまして、是非とも實現せねばならぬ最も緊切なるものに集中することに致したのであります。

第一は**國防の充實**であります。我邦が其の生存を確保し、諸般國策の遂行に遺憾なきを期し、名實共に眞に東亞の安定勢力たるの實を擧げ、平和の裡に躍進を遂げんが爲には、國防上些の缺陷あるを許さないであります。

殊に現下の國際情勢に顧みれば、一層其の緊要なるを痛感致すのであります。陸軍としては急速に軍備を充實して、大陸方面の國防の安固を期せねばならず、海軍としては本年一月一日以降の軍備無條約の時代に處して、所謂不脅威不侵略の根本方針に則り、而も國防上必要なる軍備を整へねばならぬのであります。尤も帝國は自ら進んで軍備競争に乗り出すの意思なきことは勿論であります。國防の充實を圖るは、國際情勢の變轉に對應し、戰爭の慘禍を未然に防止し、帝國の使命を達成し、國

運の隆昌を期する所以なりと考ふるのであります。

第二は**教育の刷新改善**であります。文教を刷新して時代の要求に適合せしめ、以て國民精神を作興することは、特に現下の時局に處して緊切なるを信ずるのであります。國民教育は一切の教育の根幹であり、爾餘の教育施設は、斯の教育の健全なる基礎の上に立つものでありますから、茲に義務教育の年限を延長し且つ其の内容を改善することを以て、教育の根本的刷新の先決要件とし、之が實施を圖ることに決定致したのであります。而して之に伴うて教育の他の方面にも切適なる改善を加へて行きたいと考へて居ります。又國體の本義を闡明し、之を基として、現下我邦教學の缺陷を匡正すること共に、進んで國運の具現を以て其の精神とする眞の我邦教學の興隆を圖ることは、現下の國情に鑑み緊要なるものと認めまして、昨年十一月教學刷新評議會に於て議定せられました教學刷新に關する答申の趣旨を實現するに勉めつゝある次第であります。

第三は**中央地方を通ずる租稅制度の整備**であります。租稅制度の改正は從來屢々企圖せられた所でありましたが、今回政府は國防の充實、國力の伸張、國本の培養上、幾多重要な施設經營を爲さんが爲に、租稅收入の増加を圖ると共に、國民租稅負擔の均衡、弾力性ある稅制の樹立を目標として、中央地方を通ずる租稅制度の整備を期し、改革案を樹てたのであります。案の内容に就ては、大藏大臣より詳細説明せらるゝことと思ひます。

第四は國民生活の安定であります。國運の進暢を期せんが爲には、進んで國民生活の安定を圖らねばならぬこと固より言を俟たざる所であります。而して其の方策は一にして足らぬのであります。差し當り災害防除対策、保健施設の擴充、農山漁村經濟の更生振興及中小商工業の振興等を中心として、國民生活の安定に資せんことを期したのであります。

災害防除対策と致しましては、近年頻發する水害の脅威に顧み、治川治水に關する施設の充實に力を效し、保健施設としては結核豫防施設の擴充、國民健康保險制度の創設、救護法及軍事救護法の改正等を企圖し、以て健康の増進、國民體位の向上を期したのであります。又自作農創設維持制度の整備、農地の使用收益關係の適正を圖ると共に、農山漁村經濟の更生振興に力を竭し、中小商工業者組織の擴充強化、資金融通損失補償制度の實施、工業の地方化等諸般の施設を講じて、中小商工業の振興助長を企畫致したのであります。

此等の諸方策の外、政府は窮乏甚しき東北地方の振興の爲、東北振興綜合計畫を樹立して實施に着手し、庶民金庫恩給金庫を創設して、金融難の緩和を圖り、又後に申述ふる如く、産業の振興貿易の伸張に關して幾多の施設を講じ、勉めて國民生活の安定に寄與する所多からんことを期したのであります。

第五は産業の振興及貿易の伸張であります。産業を振興し、貿易の伸張を圖り、國力の根幹を培ふ

ことは國民生活の安定に資すると共に、國家の躍進に缺くべからざる要件であります。其の方策固より多種多様であります。政府が今回特に力を注いだ事項を次に申述べたいと思ひます。

先づ電力の統制強化であります。晩近電氣科學の進歩發達著しく、電氣の重要性は各方面に加重されたのであります。而して電氣の普遍性と電氣事業の公共性とに鑑み、電力の國家管理を行ひ以て水力資源の合理的開發、大送電網の完成、料金政策の確立、國防上の必要充足等の諸方途を講せんとするものであります。是は産業振興の上に極めて緊要なるのみならず、又國家の興隆、國民生活の安定に資する所少くないのであります。

次に液體燃料及鐵鋼に付しましては、現下内外の情勢より液體燃料の自給促進を圖るの要愈々緊切なるに鑑み、從來の施設を擴充すると共に、人造石油工業の確立振興方策を樹立して之が實現に勉め一面燃料國策實施機關の擴充整備を圖り、又鐵鋼の自給自足、鐵鋼業獨立の爲に、日滿兩國に亘る綜合的鐵鋼政策の樹立、本邦製鐵業の改善竝之が適當なる統制、製鐵原料資源の開發確保等、各般の根本的施設の擴充強化を圖りつゝあるのであります。此の如きは常に産業振興上のみならず、我邦資源の保育其の他統制運用準備の上よりするも大切なことであります。

更に纖維資源に關しましては、棉花羊毛等の重要工業原料の確保又は之が代用原料の自給を圖る爲には、原料供給地の開拓、代用原料工業の確立等に關し力を致す所存であります。

帝國の通商貿易が世界的經濟不況裡に年々増進を續け、順調の發展を遂げましたことは、偏に國民多年の勤勉努力と生産技術の進歩に依るものでありまして、甚だ心強く感ずる所であります。併し乍ら國際通商は猶依然として各種の障礙に依て制限せられて居り、本邦貿易の前途は必ずしも樂觀を許さざるものがあるのであります。仍て各國と協調して通商障礙の除去乃至緩和を期すると共に、國內に於ても官民一致して貿易の振興に資すべき各般の措置を講せねばなりません。即ち政府に於きましては、貿易統制を強化し、相手國の産業と本邦産業との調和を圖り、取引上の諸弊害を矯正し、本邦貿易の圓滿なる發展を期し、併せて海外販路の開拓、内地産業の輸出産業化、海外市場の擁護開發の爲に積極的努力を拂はんことを次第であります。

次に航空及海運事業の消長は、國運の隆替に至大の關係を有するのでありまして、今や速に民間航空事業の振興を企畫し、又我海運の積極的進出に一段の努力を拂ふの急務なるを認むるのであります。仍て政府は航空路の完備擴張、航空機工業の助長統制、定期航空の開設改善、優秀船舶の建造及遠洋航海の助成等諸般の施設の實現を期すること、致したのであります。

以上の外、邦人の海外移住並に企業進出に對する助長の方途を講じて、産業の振興に資すると共に人口資源の問題を緩和し、郵便事業の改善、電信電話事業の擴充又は鐵道運輸施設の整備を實施して産業の發達に寄與せんことを期して居ります。

又組閣以來、逐次實施致しました低金利政策は、國民全般の金融上の負擔を輕減し、併せて公債政策の圓滑なる遂行に資せるのみならず、又實に一般産業を振興助長し、産業經濟の發展に寄與することを得たのでありまして、今後も尙之を繼續致したいと存じて居ります。

第六は對滿重要策の確立であります。滿洲移民を獎勵するは、即ち兩國の不可分關係を強化し、滿洲國の健全なる發達に寄與する所以であり、又滿洲國の經濟發展を援助するは、日滿經濟提携の實現を圖る捷徑でありますから、多數移民送出の計畫を樹立し、對滿投資助長の方策を講じたのであります。

第七は行政機構の整備改善であります。抑々時代の推移に伴うて複雑化する行政を最も妥當圓滑に遂行して國利民福に寄與するには、之に相應じて行政機構の整備改善を緊要とするは言を俟たぬ所であります。殊に上述致しました各般の施設經營を有効適切ならしめ、其の實績を擧げんが爲には一層緊切なるを覺ゆるのであります。仍て中央及地方行政機構を整備改善し、以て行政の圓滑なる遂行を期する爲、目下鋭意考究を重ねて居る次第でありまして、成案を得次第、順次實現せしむる所存であります。

行政機構の整備改善と共に、議院の機構制度改善の必要も認められ、前議會に於ては、之に關して建議案が決議せられたのであります。仍て政府は曩に議院制度調査會、選舉制度調査會、貴族院制度

調査會の三調査會を内閣に設置し、朝野有識の方々を委員に奏請して調査を進めつゝある次第であります。其の中議院制度及選舉制度に就きましては、改正を要する諸點に關し答申を得ましたので、之に基きまして夫々の手續を経たる上、本議會に改正法律案を提出し御審議を煩はしたいと考へて居ります。願ふに憲政の發達を期するが爲には、平素から國民をして憲政及自治に對する理解と責任觀念とを深からしむることが肝要でありまして、此の方面にも一段の力を効したいと考へて居る次第であります。如何なる事情の許に於ても、政治が苟も我が憲法政治の本義に背くやうな事があつては、斷じて許すべからざることでありませぬ。萬邦無比の國體の下に於ける立憲の洪猷は、國民擧げて之が翼賛に勉むべきものと考へて居るのであります。

以上縷々申述べましたが、要するに諸般の部門に亘て國力の充實を圖り、國民生活の安定と國防の完璧とを期するは、内外の時局に處し、躍進日本の前途を保護する爲、刻下の急務であります。今回政府の施設せんとする所は、右の目的から見て、規模に於ても決して十全であるとは申されませんが、少くも此の程度の施設は、萬難を排して實現することが必要と信じて居るのであります。

之が實現の爲には、眞に舉國一致邁進するの決意と氣魄とが必要であります。政府は此の見地に於きまして全力を盡し報效の誠を輸さねばならぬと考へ、諸君の國家的立場よりせらるゝ嚴肅なる御意見を十分に傾聴し尊重致しまして、重要な國策の遂行に過誤なきを期し、國運の進暢に力を効した

いと考ふるのであります。幸に時勢の須要に顧みられまして政府の意の存する所を諒とせられ、政府提出の諸案に對し、速に協賛を與へられんことを切望致す次第であります。

曩に述べたるが如く一月二十一日休會明け議會に於て時の内閣總理大臣廣田弘毅君の施政方針演説並に次章に述べるところの外務大臣有田八郎君の外交演説に對し、子爵渡邊千冬君の質疑演説ありたるのみにて帝國議會は停會を命ぜられ續いて廣田内閣の總辭職となり、陸軍大將林銑十郎君大命を拜して後繼内閣を組織し、二月十五日停會明け議會に於て次ぎの施政方針演説をなせり。

第二節 林 内閣の施政方針

内閣總理大臣 林 銑十郎君

諸君、今回圖らざる政變に際會して、不肖拙らすらも大命を拜し重任を辱う致したことは洵に恐懼感激の至に勝へません。内外時局の極めて重大なるに顧みまして、大御心を奉體し、微衷を盡して報效を萬一に期せんとする覺悟であります。

内閣の更迭は時適々第七十回帝國議會の會期中に生じまして、爲に休會に停會を重ね、折角洪猷翼賛の道を盡されんとする議員諸君の日を曠しくせらるゝの已むなきに至りましたことは、甚だ遺憾に存するのであります。組閣後茲に旬日餘、漸く諸君に見えて、新内閣の所信を披瀝し、諸君と共に時難克服の重責に任じます事は私の眞に光榮とする所であります。

新内閣の政綱は去る八日聲明致した通りであります。如何なる内閣たるを問はず我が國體の本義に基き肇國の理想を顯現することは、總て施政を奉行するの根本であります。従つて第一に國體觀念の明徹、敬神尊皇の大義闡明に力を竭すことは申す迄ありません。而して尊嚴なる我が國體の下に、萬古不磨の欽定憲法が嚴として存するのであります。我が立憲政治が萬邦無比の我が國體に即した獨特のものとして、世界に渦く如何なる思潮の流にも毅然として健實なる發達を爲さんことを期して居るのであります。又帝國の外交が國際正義に則り東亞の安定萬邦の共榮を具現せしむるに在る事は確固不動の方針であります。現内閣は諸般の對外事項の處理に當つて、此の方針の下に朝野文武協力一致して有效適切なる成果を收め、國際關係を明朗に致したいと考へて居るのであります。又諸般の情勢に顧み、帝國を安泰にし其の興隆を擁護し國是の貫徹を期する爲には國防軍備の充實は極めて喫緊の要務であります。而して國力發展の基礎は剛健なる國民精神であり旺盛なる生産力でありますから、此等國力の基根を十分に培ふべきものと考ふるのであります。産業の振興は内外の經濟情勢に適應せしめ、保護の施設を講ずると共に適切なる統制を実施することが緊要であります。尤も之が爲に國民の創造力や企業心を沈滯萎靡せしむることがあつてはならぬのであります。寧ろ進んで之を助長すべきであると存するのであります。

新内閣は此等の大方針に則して、懸案たる庶政一新の實を舉げ特に國民生活の安定を圖らねばなら

ぬと考ふるのであります。それが爲には、是非とも公明な政治を遂行して時世に適合した革新を行ひたいと思つて居ります。因循を戒め矯激を排して宿弊の革新を爲さんことは、如何なる方面に於ても異論なきのみか、國民舉つて待望せらるゝ所と思ふのであります。因習の久しき利害錯綜して仲々容易でないことは、過去に於て既に經驗されて居ります。寔に私を滅し公に奉ずるの心を以て各方面協力戮力するに非ざれば完うし難きことを痛感されるのであります。私は是非諸君の御協力を得て之が實現を期したのであります。

新内閣は議會の會期中に成立致しました爲に、前内閣に於て既に提出された豫算案や法律案等は一應之を撤回し、再検討を加ふること、致したのであります。何分にも僅少の日子に於て之を十分に行ふ事は不可能であります。仍て豫算案に就きましては、國民生活の安定を圖る意味から、物價騰貴の趨勢を抑制する事の急務なるに鑑み、之が一部金額の使用見合せを企圖致しました。其の金額は凡そ金二億七千萬圓に近いのであります。然し乍ら時運に適應せる諸政策は着々之が實現を期し前内閣に於て計畫した諸方策に就ても實施に支障なき様極力配意致して居るのであります。又税制整理に就きましては前内閣に於て改正案を提出致したのであります。全體に涉り修正を行はんと考へました處、到底時日が之を許さず、さりとて國防の整備充實其の他喫緊の事務遂行の爲には、歳入の缺陷に對し何とせよはや増税に俟つより外途がありませんので、暫定的に現行税制に於ける税率の引上

を行ふこととし臨時租税増徴法案を提出し併せて若干の新税を起すこと、致したのであります。

政府は今後更に政綱の具體化を圖り國運の進暢に力を效したいと考へて居るのであります。幸に克く政府の意の存する所を諒とせられ、政府の提出する諸案に對し、速に協賛を與へられん事を望む次第であります。

第三章 政府の外交方針

第一節 廣田内閣の外交方針

外務大臣 有田八郎君

本日茲に本院に於て帝國外交の方針及現況に關し、其の概略を陳述するの機會を得ましたことは私の光榮とする所であります。

客年五月の特別議會に於て申上げました通り、帝國の國是は東亞の安定を確保し依て以て世界平和に貢獻すると共に國際正義の確立に依り人類の福祉を増進するにあり、爾來之が實現の爲鋭意努力して來た次第であります。

現下の世界情勢を大觀致しますに、國際政局は依然として安定を缺き、殊に共産インターナショナル即ちコミンテルンの活動に依り益々險惡となりつゝある様に觀測せらるゝのであります。此の秋に當り我國が獨逸國と客年十一月二十五日共産インターナショナルに對する協定を締結しましたことは誠に意義あるものと申さなければなりません、本協定は我國體と背馳し且人類の本然と相容れざる共產主義的活動に對する共同防衛を本旨とするものであります。

共產運動は夙に我國にも侵入し來り、帝國政府に於ては常に其の彈壓に力めて參りましたことは御

承知の通りであります。支那に於きましては、國民黨の容共政策以來漸次猖獗を加へ、數年前江西福建の諸地方にはソヴェト區の設立を見、又所謂共匪軍は各地に跳梁しつゝあつたのでありまして帝國としては隣邦赤化の狀態に對し、尠からず憂慮して居たのであります。然るに一昨年夏モスコウに開かれた第七回コミンテルン大會は、其の活動の主たる目標を日本及獨逸等に置くべきことを公然決議宣言すると共に、所謂人民戦線結成なる新戦術を採用致し、歐洲に於ては二三諸國に於て右戦術が成功し、特に西班牙に於きましては、之が爲に内亂の勃發を見、今尙同胞相搏つゝの悲惨事を見出して居るの實狀であります。他面東亞に於きましては支那全國に亘る所謂抗日人民戦線運動に依て日支關係を阻害すると共に、巧に支那の赤化を企て滿洲國及我國に於てもコミンテルン策動の兆候更に顯著となつたのであります。

此の事態に直面し、政府としてはコミンテルンの巧妙且執拗なる活動に對し、從來よりも一層嚴重なる防衛措置を講じ、國體を擁護し、東亞の安定に資するの策を立てざるを得なかつた次第であります。

帝國政府は國內の機關に依り、之が查察防衛に遺憾無きを期するは勿論であります。が、コミンテルンの組織は國際的でありまして、全世界に多數の支部を有し、相互に極めて密接なる連繫を保ち本部指導の下に各國特異の狀況を巧に利用致して居るのでありますから、之に對する防衛措置も亦自ら國

際的協力に迄進まねばならないのであります。之今回獨逸との間に防共協定を締結し、情報を交換し必要な措置を講究することになつた所以であります。

今回の協定はコミンテルンに對する共同防衛を目的とし、此の目的の範圍内に於きましては、何れの國とも進んで協定を爲さんとするものであります。右目的の範圍外に亘つて、何等帝國政府を拘束するもので無いことは云ふ迄も無い所であります。

本協定の性質に付、誤解を有し、又危懼の念を抱いた向も有つた様であります。が、本協定は國體の擁護及東亞の安定の爲必要に基きましたものであります。固より萬邦協和の精神に基く各國との親善方針には、何等變更は無いのであります。

前議會に於て申述べました通、帝國政府は益々日滿兩國民の融和を圖り、兩國善隣不可分の關係を鞏固ならしめんとするものであります。之が爲滿洲國に於ける治外法權の撤廢、南滿洲鐵道附屬地行政權の調整乃至移讓を実施する方針の下に、其の第一階梯として客年六月十日滿洲國との間に治外法權の一部撤廢及滿鐵附屬地行政權の調整に関する條約を締結したのであります。然るに右は滿洲國民に大なる満足をして迎へられ、其の實施の狀況亦極めて良好であります。

滿洲國が國內各部門に於て着々健實なる發達を遂げつゝあり、又日滿經濟通商關係が益々緊密の度を増しつゝあるのを見ますことは慶賀に堪へぬ次第であります。

帝國政府は曩に日支國交を調整するの重要なを認め、對支三原則を提唱して其の方針の下に調整を期せんとして居つたのでありますが、昨年八月成都事件の發生を見、引續き北海其の他に於て不祥事件が頻發したのであります、熟々此等事件を考察しますと、何れも單なる殺傷事件ではなく、排日的政策の結果であることが明瞭でありますので此等事件自體の解決は固より必要であります、之と共に其の根柢に横はる原因を除去するに非ざれば、其の再發を防ぎ、我在留民の生命財産の安全と、帝國權益の保護を全うし得ず従つて又日支國交の親善融和を期待し得ないと認めましたので、帝國政府は南京政府をして、進んで不祥事件の再發を、其の源に於て防止せしむる爲、事件發生の根本原因たる排日策動の取締に關し、誠意實行に當ることを要求する一方、國交調整に必要な諸問題に對する考慮を求めたのであります、即ち消極的なる排日取締より一步を進めて排日策動の原因たる南京政府の對日態度を改めしむると共に、日支國交改善に關する同政府の誠意を具體的問題に付表示することを慫慂したのであります、九月初旬より三ヶ月餘に亘り、南京に於て彼我代表者の間に折衝が重ねられたのでありますが、支那側の態度に鑑み徒に交渉を遅延せしむることは事態を紛糾せしむるに過ぎずと思考致しまして、十二月上旬に至り從來の話合に依て双方意見の一致せる點は、南京政府に於て速に之を實行に移さんことを要求すると同時に、爾餘の點は引續き話合を進むること、致しました其の結果成都及北海事件自體は十二月三十日解決を見たる次第であります。

唯今申上げました通、交渉は未だ所期の成果を收むるに至らずして目下停頓の状態にありますが、今日迄の交渉は來る可き展開への段階として大なる意義を有して居るものと信するのであります、日本の支那に對する根本方針が日支提携であり、共存共榮であることは云ふを待たないのでありますから、努力を新にして更に調整に乗り出すことは、兩國政府の義務であると共に、又兩國々民の希望であると信するものであります。

西安に於ける異變に際して、帝國政府は公明正大なる態度と重大なる關心を以て、事態の推移を靜觀したのであります、大事に至らずして收拾されんとしつゝあるは隣邦の爲誠に慶賀すべきことであります、此の事件の當初に於て、張學良は容共抗日を標榜した経緯もあり、本事件の始末如何は東亞の大局より見て重大なる影響がありますから、帝國政府としては之が成行を注視してゐるのであります。

ソヴィエト聯邦に對する帝國の方針が正常關係を維持確立するにあることは勿論であります、帝國政府は日ソ間の諸懸案を解決することが、兩國善隣の關係を増進する所以であるとの見地より昨年中漁業條約の修正、滿ソ國境劃定並に紛争處理問題等に付交渉を進め、傍ら北樺太油田試掘延長問題に關する我當業者代表とソ政府當局との間の交渉を援助したのであります。

石油問題は昨年十月我當業者代表とソ政府當局との間の試掘期限五ヶ年延長の契約成立し、又新

漁業協定も一年有半に亘る商議の結果、昨年十一月中旬案文の確定を見、將に調印せられんとしたのでありますが、其の間際に至りソヴェエト政府は國內手續未了なりとて調印の延期方を申出で、其の後容易に調印に應じませんので、我方より北洋漁業權の本質及び之が行使規定たる漁業條約は不斷に存続すべき建前なることに付、再三先方の注意を喚起し、折衝致しました結果、舊臘二十八日暫定取極の締結を見、本年の出漁に支障無きこととなつたのであります、新協定の調印に關する交渉は勿論之を繼續し、其の解決を期する次第であります。

尙滿ソ國境劃定並に紛争處理委員會 の設置は、日滿ソ三國間紛争防止に多大の貢獻を爲し、三國間の國交調整に益すること鮮からざるべしとの見地に基き、曩に我方より進んで提唱したるものであります、之に關する原則的問題に付きましては、一、二の點を除くの外、意見の合致を見たので、ありまして、帝國政府に於ては本問題の成る可く速かに解決せられんことを希望してゐるのであります。

斯くの如く帝國政府に於きましては、ソヴェエト聯邦との平和關係を確立することに力を致して居るのであります、之れに拘らずソ聯邦側に於て滿、ソ國境に不釣合な軍備を維持するのみならず、我方の行動を以て侵略的なるかに言觸らすことさへありますことは甚だ遺憾とする所であります。

ソヴェエト聯邦側に於て帝國の平和的意圖を諒解し、自己從來の態度を反省し、兩國間諸問題の解

決を計るに於ては、日ソ關係の正常化は期して待つべきものと信するのであります。

英國に對しましては 日英兩國の傳統的關係を鞏固ならしめんとする帝國の方針は不變であります兩國が大局的見地に立つて、英國は日本の、又日本は英國の立場に付、充分同情ある考慮を惜まざるに於ては、兩國の利害關係は、自ら調整の途あるを疑はないのであります、帝國政府は此の目的の爲めに更に一段の努力を致さんとするものであります。

米國との關係 は最近益々良好となつて居ります、之は一方相共に太平洋の平和確保に寄與せむと致しまする帝國既定の方針と、他方米國側に於ても東亞の事態に對する理解が漸次深まるに至りました結果であるに認めらるゝのであります、此の友好關係は今後愈々之を増進せしむることを期して居る次第であります。

世界の三大海軍國たる日英米間に於ては、海軍々縮條約も昨年末限り失効することになりましたが帝國政府の不脅威不侵略の方針は不變であり、又我方より進んで建艦競争の意無きは勿論であります尙又帝國政府の海軍々縮に對する熱意は、從來機會ある毎に表明し來つた所でありましたが、關係諸國に公正妥當なる軍縮條約が成る可く速に締結せられ、世界平和の増進に貢獻するに至らんことは今尙帝國政府の衷心より希望する所であります。

先般帝國政府は、在エチオピア帝國公使館を廢し、領事館を設置する旨、伊國政府に通告致しまし

たが、右と同時に同國政府はエチオピアに於ける帝國の通商上其の他の利益保護に對し、好意的考量を加ふべき旨言明致しまして、目下其の主旨に基き協定締結の爲、商議が進められて居る次第であります。右は帝國政府に於て現實の事態に即し、且伊國との親交關係を考慮致しまして、適當なる措置を執つたものに外ならぬのであります。

帝國政府は又、南洋方面との經濟關係を密接にせんことを希望して居るのでありますが、此の希望に付、種々中傷又は誤解する向もありますが、帝國政府は何等侵略的意圖を藏することなく、偏に平和友好關係の増進に依つて、通商の發展を期し、資源の開發に寄與せんことを希望して居るのであります。

我通商貿易 は諸外國の採用せる各種の制限にも拘らず、客年に於て未曾有の高額に達して居ります、之は我國經濟及産業の極めて活潑なることを示すものでありまして、御同慶に堪へぬ所であります。此等制限は専ら外交交渉に依らざれば、打開し得ざる性質のものでありますので、帝國政府は外交上最善の努力を拂ひつゝあるのであります。今其の顯著なるものを挙げますれば、帝國政府は濠洲の本邦品防遏措置に對抗致しまして、曩に同國に對し通商擁護法を發動するの止むなきに至つたのであります。其の後通商交渉を開始し、折衝數ヶ月の後客年末に至りまして圓滿なる諒解に達し、正常關係に復歸するに至つたのであります。

蘭領印度 に付きましては、客年中帝國政府及蘭領印度政府の斡旋に依つて、蘭印側が通商交渉の前提と主張して居りました彼我海運業者間の協定が、成立を見るに至りまして、茲に兩國間に通商々議を開始し得ることとなり目下引續き折衝を繼續し、相當進展を示して居りますし、又英領印度との通商交渉も、大いに進捗して居るのであります。

此等外交交渉の外、政府は舊市場の維持發展の爲には勿論、世界各地の有望な新市場を開拓せんが爲にも鋭意各般の努力を傾注し我貿易一段の躍進を期して居る次第であります。

昨春特別議會に於きまして、國際貿易の障害と爲るが如き措置が其の節圍を擴大する傾向にありますことは我國の如く原料品の供給と製品の販路とを海外に確保することに依り國民の經濟的生存を維持せざるを得ざる國にとりましては、事態甚だ重大なるものありとこのことを述べたのであります。其の後此等の障害措置緩和の曙光とも認め得る事態が生じつゝある様ではありますが一般には依然として之に逆行する各種の制限が存續して居ります。私は此の際最も必要なることは各國が尠くとも先づ進んで通商の自由を實現する爲、コンゴ盆地條約の如き公正なる條約の精神を其の殖民地市場に適用すると云ふことであると信するのであります。之は最近眞面目に取扱はれんとしつゝある原料資源分配問題の考究實現と並んで、世界の焦燥氣分を緩和し、平和に寄與する最も有效適切なる一方法なりと思考するのであります。

最後に文化事業に付て一言致します、一國の文化は其の國民性の表現であり、之を諒解しますことは根本的に其の國を認識する所以でありまして、茲に始めて國際正義を確立し、眞の國際協力を實現し得るのであります、殊に帝國の如き古き特殊の文化を有する國に於きましては、之を廣く海外に宣揚しますことは、即ち我國家的活動の精神を世界に知らしむるの道でありまして、頗る緊要と存じます、政府は此の見地より益々本事業に努力せんことを期する次第であります。

以上は政府の外交方針及最近に於ける外交經過の大要であります、複雑機微なる現下の内外情勢に於て、帝國の總會する幾多の困難に對しましては、朝野共慎重に對處して苟も誤らざるを期すべきことは申す迄も無い所であります、國策の遂行に付きましては、舉國一致充分の決意を以て、之に當らねばならぬと信するのでありまして、茲に衷心より諸君の御協力を冀望する次第であります。

第二節 林 内閣の外交方針

兼攝外務大臣 林 銑十郎君

外務大臣として所見を述べ度いと存じます。政府の外交方針は只今申述べた通りであります、(施政演説參照)此の方針の遂行に當りましては、滿洲國との親善不可分の關係を益々鞏固ならしめ對支對ソの關係を調整することに特に意を用ひんとするものであります。

先づ支那に對する關係に付きましては、帝國は同國と共に東亞の安定を確保することを念として努

力し來つたのであります、支那側に於ては帝國の眞意を十分理解するに至らず兩國間に種々の問題を發生しましたことは甚だ遺憾とする所であります、此の際兩國民間の感情を融和し國交關係の明朗化を計り互に手を携へて東亞安定の實現を期することが肝要であると思ふのであります、之れが爲めには相互に兩國の立場の理解に勉め單に政府のみならず特に民間の接觸を繁くし、日支提携共助の實績を擧ぐると同時に、苟も之を阻害せんとするものは進んで排除するの覺悟を持ち、以て兩國々交の調整を圖り度い決心であります。

次にソヴィエト聯邦との關係に付て一言致しますれば東洋平和の爲には同聯邦が東亞に於ける帝國の地位を正當に認識し、兩國互に融和に勉むるの要あること勿論であります、此の際兩國間に横たはる諸懸案の友好的解決を促進することは右目的に合致するものであります、従つて私はソヴィエト聯邦當局に於ても大局的見地に立脚し、右に協力せんことを要望するものであります。

先般獨逸國政府との間に防共協定の成立を見ましたことは近時世界殊に東亞に於けるコミンテルンの活動顯著なるものがあるに顧み、東亞安定の責任を有する帝國として當然執らざるを得なかつた措置であり、誠に時宜に適するものであります、政府と致しましては本協定の運用を錯らす以て之が十分の効果を收めんが爲最善の努力を竭したき所存であります。

帝國の二大友邦たる英米兩國との關係を益々鞏固ならしめんとする帝國の方針は不變であります

日英兩國間には調整を要する諸問題が存するのでありますが、何れも日英親善關係の根本を害ふが如き性質のものでなく、兩國の相互理解に依り調整せらるべきものであることを確信するのであります。尙海軍縮問題に付て、帝國は本年より條約の外に立つこととなりましたが、不脅威不侵略の方針を堅持する從來の態度に何等の變りなきは申す迄もない所であります。

終りに對外貿易の伸展を圖ることは帝國の發展に缺くべからざる要件であり、特に現下の我國經濟情勢に徴して其の急務なるを痛感する次第であります。仍て政府は尙も貿易の伸張に對する障害は極力之を排除すると共に進んで貿易の促進の爲適切なる施設を講せんとするものであります。

以上の諸方針を實行するに當つては舉國一致の力に依らすんば所期の成果を擧げ得ないのでありますから、茲に諸君の御協力を切望する次第であります。

前佛蘭西駐在全權大使 佐藤尙武君三月七日外務大臣に任せられ、大河内子爵の質疑に對する應答は、質問者の云はれたやうに、新外務大臣の施政方針の發表と見做すべきものなるが故に次に掲載する。

外務大臣 佐藤尙武君

只今大河内子爵から私が外務大臣の重責に任せましたに付きまして、御鄭重な御言葉を頂戴致しました、私自身深く感謝をし、且恐縮に存じて居ります、丁度同子爵がお話になりました通りに、私自

身は全く外の意味合で歸つて参りましたところ、圖らず總理大臣閣下からの御推獎に依りまして、此の重任に任ずると云ふことになりまして、誠に匆々の際、且何等の準備なしにお受け致した次第でござりまして、私自身は誠に無準備の點に於てお受けに遲疑を感じて居つた譯でござりまするが、此の時局多端の際、何人も責任を引受けなさいことでありましては、上御一人に對し奉りまして誠に申譯のない次第であると考へまするし、又國民の前に起ちましたも誠に責任を虚しうすると云ふ風に考へましたので、及ばずながら又微力も顧みず、御獎めをお受けした譯でござります。

斯様な情況でございますから、殊に又私自身は海外に出て居りますことが久しく、又大變長くなりましたして、國內の政治に關與しましたことは一回もござりませぬ、又議會に關係したることもござりませぬ、政府側として議會に御説明を申上げると云ふやうな任務に就いたこともござりませぬので、従つて少くとも最初の間は議會の手續、其の他慣例等に不慣れもござりまして、或はさう云ふ點に於て失態を演ずると云ふやうなことがあり得るかも知れませぬ、此の點は豫め御諒承を願ひたいと同時に、又貴族院諸賢の御寛容を願ひたいのでござります。

問題の内容に入りまして、只今種々重要な點に於て御質問がござりました、林 内閣が成立の當初に當りまして、議會に於て既に外交の方針の大綱に付きまして御説明がござりました、私は新任此の方右方針に基きまして、外交の繼續性を保たせて行きたいと云ふ風に考へて居ります、と申します

るのは林 首相兼外務大臣の御説明の大體の範圍に於きまして、従前前内閣の執りました外交方針を再び検討致しまして、其の中で繼續性を保たせ得るものならば私は其の儘續けて行きたいと思ふのでございます、何故かなれば政府が更ります度に前内閣の立てた方針を其の根柢から覆へすと云ふやうなことでありましては、單に國內に於て國民其のものが去就に迷ふのみならず、外國から見まして、日本政府の態度に種々變化が起るのを見ては、決して其の國に對し、詰り日本に對して安心して交渉をすると云ふことが出来なくなると思ひまするので、私は出来るだけ繼續性を保たせることに努力をしたいと思ふのであります、但し事態が常に變化して參りますので、其の前内閣の方針等に付きましても、十分の検討を要すると云ふことも亦已むを得ませぬ次第でありまして、而して現在の情況に合はず、又將來も多少の變更を加へて實施する方が宜いと云ふことに意見が纏りました場合には、已むを得ず只今の繼續性に對しまして除外例を設けねばならぬと云ふ風に考へて居ります。

斯う云ふ見地から致しまして、私は只今の御質問に出来ませぬ御返事を申し上げたいのであります、何分にも先ほど申しましたやうな事情で、就任以來まだ日も淺く、省内の意見も十分に取纏めて居ない問題が多々ござりまするし、又閣僚諸君とも十分に打合せを遂げて居らないのでござりまする、従つて私の説明は遺憾ながら本日では極く大體の點で御説明を申し上げる外ないのでござりまする、其の點豫め御含みを願ひます。

只今大河内子爵の御話の根本は、是ほど國民の負擔を増加させると云ふ風になつて來たのは、是は從來の外交其のものが宜しきを得なかつたに依るのであると云ふお話でござりまする、私は果して是で外交の方針が宜しきを得ず、若しくは其の實行に當つて、機宜の處置を缺いて而して其の結果世間が是ほど不安になつて來たと言へるかどうかと云ふことに付きまして、私はかなりの疑問を持つて居ります、是は何も私は前内閣の方針を此處で辯護すると云ふ地位に立つて居る譯でもなし、又其の義務もない譯でござりませうが、併し極く常識論から考へて見まして、外交と云ふものが果して何等の困難なしに、何等の障礙に逢着せず、極く順調にのみ行き得るものと考へるのは、是は誰しも非常な冒險的な考と申す外ないと思ふのでありまして、皆様も御同感のことと思ひます、私は外交の問題に付きましては、常に紆餘曲折若しくは非常な大きな障礙に突當りまして、或場合には停頓し、或場合には全然將來の進路を見出すことが困難となるやうな場合に逢着すると云ふことは、決して珍しくないものであります、而して種々の困難に遭遇し、或時は全然行詰りになつたかのやうに見える、其の中で再び打開策を講ずると云ふことの爲に全力を擧げると云ふことも當然必要なことであるし、又度々繰返されて今日まで來つた所であります、外交には常に相手方があると云ふことを忘れてはならぬのでありますから、是は何も私は珍しいことを申上げるのでも何でもござりませぬ、當然な話であります、併し動もすれば國內の輿論は非常に激昂したり、強硬意見が世の中に行はれたり致します場合

には、動もすれば相手方のあると云ふことを忘れ勝でございます、自分達の註文に對し其の註文が如何なる形式に依らうとも、又如何なる程度であらうとも、それは十分に強くさへ相手方へぶつかつて行けばそれで物事が解決され、我の満足を得ることも困難でないと思ふ風に屢々思はれるのであります、併しながら是は只今申上げました通りに、相手方には相手方の事情もございませうし、又相手方の輿論もございませう、此の輿論の手前としても、此方の註文に應ずることが出来ないと思ふ場合も亦多々あるのであります、従つて先ほど申しましたやうに、外交が一時行詰ると云ふことも已むを得ないのであります、此の見地から見ますと云ふと、今日是非は政情が困難になりました、國際間の關係が甚だ不安になつた、其の結果國民負擔の増大と云ふやうなことも起きて來たのでありませうが其の直接の原因が總て外交に在りと思はれるのは、私は少く外交其のものに對して、酷ではないかと云ふ風に考へます、今日の如く不安の状態を來しましたのに關しましては、種々雑多の原因があると思ひますので、併し是等に關しまして、唯私が今無準備のお話を申し上げました所で餘り御參考にもならないこと、思ひますし、又議員諸君御自身既に從來の歴史を篤と御存じのこと、思ひますから、私はそれを申しませぬ。

更に進みまして二三の問題に關して大河内子爵から御尋がございました、其の第一はソ聯邦との關係に於て、彼が帝國と妥協握手を求めて居つた時代があつたにも拘らず、日本は態々彼を敵に廻すや

うな態度を執つた、其の爲に今、日「ソ」間の關係が是ほど面倒になり、且不安になつて來た、其の點に關しては私の意見はごうだと云ふ様なお話であつたと心得ます、成るほど此の數年來「ソヴェエト」聯邦との關係が可なりの紆餘曲折を経たのであります、或場合彼から我に對して種々の提議をしたこともあるやうに心得て居りますし、又東支鐵道の賣却問題なども持上つて來た、即ち其の事實それ自身、「ソヴェエト」が日本に對して挑戰的態度を執るのでなかつたと云ふ證據であると云ふ風に觀察する向きもあります、之に關しては、既往の事實に對して彼此追窮をして見た所で、問題自體の解決が直ぐ其處に見付かる譯でもなし、私は寧ろ現在の状態に到達した以上、之を如何にして打開するか、現状を此の儘續けて行くと思ふことは、兩國の爲に好ましくないと云ふことは、私も全然同感でございます、其處にながしかの打開策を見付けなければならぬと云ふことは、私は痛感して居ります、果してそれならば如何にすべきか、是には前内閣に於きましても、種々畫策された所があります、又我々としても何か此の前内閣の方針の上に附加する手段があつたならば、それをも附加して、「ソヴェエト」との關係を好くすることに盡力して見たいと思ふ希望は、私も十分に持つて居ります、而して是は林 總理大臣からの最初の御説明にもあります通りに、日本政府としての意見であると思ひます、唯茲に一つ誠に機微な點ではあります、私に言はせれば大きな問題であります、それは「ソヴェエト」聯邦内に、所謂國際共產主義と云ふもの、存在

することであり、國際共產主義、即ち「インターナショナル、コムニニズム」若しくは俗に「コミンテルン」と申されて居る、其の問題であります、我々は各國獨立して居る以上、他國の國の建て方、若しくは國の組織等に付きまして、容喙する権利もなければ、必要もないと云ふことは明かであり、す、「ソヴェエト」聯邦に於て特殊の國家的組織を持つて居ると云ふことに對しても、我々は何等容喙の権利を持たないのであります、又其の必要も認めませぬ、或國は共和國である如く、或國は立憲政治を基礎とする如く、又或國は君主政治を持つて居る如く、例へば「ソヴェエト」聯邦は一つの特殊なる政體でござります、「ソヴェエト」が特殊の組織を持つて居つた所で、それは「ソヴェエト」聯邦一箇國のみに關する問題であります、併し其の國の中に世界革命を目的とする一つの有力なる、強力なる團體でありまして、而して「ソヴェエト」聯邦が、其の團體の存在を容認して居ると云ふ所に、種々の困難が生じ、種々の疑惑が起り不安が之に伴ふのであります、成程「ソヴェエト」聯邦の首腦者は、政府の首腦部は全部共產黨でありまして、而も其の「コミンテルン」の首腦部であります、「ソヴェエト」政府と此の特殊の團體である、「コミンテルン」なるものとは全然別箇のもので關係はないのだと云ふことが、常に「ソヴェエト」政府に依つて與へられる釋明要點であります、然し只今申し上げました通り、政府と又此の團體の幹部とは常に密接の關係にあり、且或點に於ては兩者不可分であると云ふ風に見られます、而して此の特別の團體が國際革命を叫んで居り、殊に或特定の國に向つて、而して

其の特定の國の中には日本も入つて居るやうでござります、特に或種の對抗策を講ずると云ふことを決議して居りますやうな状態に於ては、國と國との關係は頗る困難になると云ふことも已むを得ない次第であります、私は此の點から生じます疑惑及不安と云ふものが、或時代に、或時期に消滅すると云ふことが出来たならば、「ソヴェエト」聯邦との國交も、單に日本と「ソヴェエト」との關係のみならず、各國と「ソヴェエト」との關係に於きましても同様でありまして、而してさう云ふ場合には國交の改善と云ふ上に大きな利益が齎されること、深く信するのであります、私は「ソヴェエト」聯邦が此の特別團體である「コミンテルン」に對して、今後さう云ふ風な處置を執るかどうかと云ふことに付ては何等承知して居りませぬ、併し極く普通の知識から考へまして、若し「ソヴェエト」其のものがその團體の存在を認めない、或は「ソヴェエト」聯邦から外に出て貰ふとか云ふやうなことが假に他日出來たとしますならば、私は日「ソ」關係のみならず「ソヴェエト」聯邦を對象とする國際關係の上に非常に大きな明朗性が現れて來るだらうと云ふ風に常々考へて居ります、果して私の此の考が實現するべきものであるかどうかと云ふことは、是は私自身存じませぬ、それは「ソヴェエト」聯邦のことでありますけれども、大體論と致しまして、「ソヴェエト」の國外から觀察しますると、只今申し上げましたやうな、さう云ふ新事態が生ずることがありとすれば、誠に是は好ましいことであると申しまして一向差支ないと思ふのであります、果して實現するかどうかと云ふことは、是は全く將來の問題

でありまするが、若しさう云ふ事態に立至りましたならば、私は「ソヴェイト」聯邦と日本との關係に於きましても、大きにやり良くなり、又之を歓迎すべき問題だと思つて居ります。

第二の點に移りまして英吉利と日本との關係 はどうであるか、是亦過去に於て、最近の過去、何と申しますか、餘り遠からざる過去に於きまして、英國側から日本と共に協力するのでなければ自國の爲にも不利である、日本とは寧ろ協定した方が宜い、協調的態度を以て進んだ方が宜いと云ふ風に英吉利側では考へて居つたに拘らず日本の態度は之に反して居る、其の英吉利の差伸べた手を握らなかつたと云ふ風に見える、而して此の状態を前にして、現政府はどうか云ふ風に考へるかと云ふ御質問であつたと私は了解致しました、英吉利との問題に關しまして、日本が出来るだけ協調を保ち、出来るだけ親善の關係を續けて行きたいと云ふことは、單に現政府の方針として、既に當時の林外相からもお話がありましたのみならず、是は官邊と云はず、民間と云はず、日本全體の希望であり、意嚮であると云ふ風に考へて、若しくは申しまして誤りないと云ふ風に私は感じて居ります、政府の立場と致しましては、全然其の方向に向つて進むべき決意もし、且努力しつゝあるのであります、唯近年不幸にして兩國の間には色々な誤解が生じました、若しくは國交上の困難が生じました、一つは支那に關する問題であります、第二は經濟上の問題でございます、それに加へて又もう一つ大きな問題は軍縮の問題であります、支那に於きましては、英吉利人の感じとして私が了解して居る所に依りますれ

ば日本は滿洲國の建設以來、長城以東に止つて居るとのみ考へて居つた所が、何時の間にか長城を越え北支に進出し、種々の施設を其處で施して居る、此の儘放任すれば、何處まで日本は行くのであらうか、自分達の北支、中支若しくは進んで南支に於て有する所の權益と云ふものに對して、侵害を受けるやうなことはないものであらうか、さう云ふ點に於て大なる危懼を感じて居ると云ふ風に私は了解して居りますが、誠に是は英吉利に取りましては重大なことに違ひござりませぬ、若しさう云ふ風な危懼を懷かなければならぬ状態であるとすれば、勿論英吉利として大なる關心を持たざるを得ないのでありませう、之に付きましては既に林外相及陸軍大臣等からお説明があつたこと、考へます、北支に關する日本の態度に付きまして、概括的ではあつたかも知れませぬけれども、政府として執るべき方針に關して、明かなるお説明があつたと私は記憶して居ります、私は英吉利のみならず、支那に利害關係を有する各國に對して、彼等に無用の危懼を與へ無用に焦燥、焦り氣分に彼等を陥れると云ふやうな必要は、何れの點に於ても認め得ないのであります、之と反對に、出来るだけ彼等の必要の點も考慮し、十分に彼等の持つ權益を尊重することに努め、而して平和的に我々が支那に發展して行く排他的でなく平和的に發展して行くこと云ふことに付きまして、是等諸國の十分なる諒解を得る、詰り我々の態度に關して十分なる諒解を持たせると云ふ風に仕向けて行くのが、是が日本の眞の利益を擁護する所以であると云ふ風に私は固く信じます、唯個々の具體的問題に當りまして、これ／＼の間

題に關しては斯う云ふ處置を執る、此の問題に關しては斯う云ふ態度を執ると云ふ巨細の問題に關しましては、是は又他日お説明を申し上げます機会があるかも知れませぬ、又事情の許す限り、日本の態度として差支ない限り、國民にも諒解を願ふと云ふことが必要だと感じます、今日は此の問題に關しましては、詳細に入ることを避けまして概括的お説明に依つて御容赦を願ふと云ふことにしたいと思いますのでございます。

第三の點は支那に關して 居ります、支那に關した御質問でございました、此の數年來對支外交と云ふものは總て失敗に終つて居る、前内閣に於て或種の交渉が日支間に繼續されて來て居つたが、それも或事實の爲に中止せられざるを得なかつた、ところが現在に於ては其の種の交渉が行はれて居るか、行はれて居ないか、若しくはさう云ふやうな交渉を將來に於ても續けて行く積りであるかどうであるか、政府の意嚮如何と云ふ御質問であつたと私は了解致しました、概括的に申しまして、日支の交渉が行詰りに逢着して居ると云ふことも、是は何人も認めざるを得ぬ事實でありまして、之を以て日支間の外交、いや支那に對する日本の外交が行詰つて居り、従つて失敗であると云ふ風に御結論になると云ふことは、先ほども申しました大きな點から考へますと、果して妥當であるかどうであるかと云ふことに付きまして私は疑惑を持つて居ります、總て二國間の交渉に於て、或場合には順當に進み、或場合には大きな困難に逢着することの已むを得ないことは既に申し上げました、丁度現在の状態

は不幸にして其の大きな困難に逢着した其の瞬間であると申さなければなりません、之を如何にして打開するか、先づ先決問題として打開する必要があるかないか、又其の必要がありとすれば如何にして之を打開すべきかと云ふことが、現下の我々の直面して居る所の大きな問題であります、何人と雖も此の停頓した交渉から日支兩國を救ひ出して、而して何等かの其處に妥協點を見付けるべく努力しなければならぬと云ふ必要性に關しましては、何等御異議のない所だと私は固く信じます、此の政治上、經濟上、密接なる關係を持つて居る日支兩國の關係を此の儘何時までも停頓状態に置くと云ふことは、單に政治上、經濟上から見まして、我に取り利益でないのみならず、又支那に取りまして、私は決して喜ぶべき状態でないだらうと想像致します、是は中華民國の方の觀察でありますから、私はさうであらうと想像する外ないのであります、常識から考へましても、さうでない、斯う云ふ停頓状態を續けて居る方が利益であるのだと云ふ風にはどうも考へられないのであります、然らば打開の必要がありとして打開策如何、勿論是は非常に大きな問題であります、殊に滿洲國の問題以來、種々の困難が相錯綜しまして、重なり合ひまして、非常な紛糾を來して居ります、今日、何人が外交の衝に當りまして、之を一朝一夕に打開すると云ふやうな名案を所持すると云ふことは、殆ど困難なこと、思ひますが、種々の考もありませうし、又此の議場に於ても、日支問題に關しまして種々有益なる意見が議員諸君に依つて發表され、又打開策に關しまして御考があつたと云ふ風に、私は議事

録で承知して居ります、中には私自身大きな参考になりました御考も多々あるやうに見えます、が、私の極めて卑近なる考を申し上げることをお許下さるならば、日支間の問題は、私の考では出發點を、新しき出發點から見直してみたいと云ふ風に考へるのであります、是はさう申上げました所で、私は何も新奇を銜ふ譯では決してないのであります、極く平凡なことを申上げるのでありますからお驚き下さらぬやうに御願ひ致します、私は各國が完全に獨立してさうして、交渉を開始する以上、各國が平等の立場に立つて交渉すべしと云ふことは、是は國際間の常道でありまして、何等其の間に新奇なこともなければ不思議もありません、が、動もすれば此の當然過ぎるほど當然なる考が忘れられまするので、或場合には、殊に國民と國民との間の關係に於きましては、屢々對等關係を相手方に認めると云ふことを躊躇する、甚だしきに至つては相手方に對して自分が優越な地位に居ると云ふ風に考へる、而してさう云ふやうな優越感が、常に國際間の關係を常道に導く上に於て大きな障礙を齎して居ると云ふことも屢々見受けられる事實だと私は思ふのであります、支那との關係に於て從來果して我々の日本としての考はさうであつたか、日支の交渉に於て、日支間の國民と國民との關係に於て、日本の國民が果して平等の立場に立つて從來交渉をしたであらうか、是はあなた方の御判斷に委ねたいと思ふのであります、私は從來の其の點に於きまする行懸りを水に流しまして、平等の立場に立つて一つ改めて交渉をするものなら交渉をして見たいと云ふ風に考へます、是は決して特別の讓歩を

する譯でもない、極く普通のことを、普通の考で普通にやらうと云ふだけのことでございます、何等其の間に新し味は一つもございませぬけれども、若し從來支那側で度々苦情を述べたが如く、日本は支那に對して平等權を認めてない、交渉は須く平等の地位に立つべしと云ふ風に、最近種々の機會に於て支那側の意見として發表されて居りますが、斯く屢々言はざるを得ない如く、支那側に於て其の點に於て満足を得てなかつたとするならば、私は日支間の交渉を順調に運んで行く上に於て、非常な大きな障礙であつたのに相違ないと思ふのであります、私は此の點に付きまして、十分に支那側の要求に對しまして、對等であるとか對等でないとか云ふ觀念を捨て、相對づくで彼等の要求、彼等の註文、若しくは彼等の緊密なる利益に關しまして、考量を加へたいと思ふのであります、又我々の方から申しましたも相對づくで自分達の欲する所を、自分等の緊密なる利益と考へられる所を、出来るだけ丁寧の説明して、其の立場に於て、幸に交渉が再開されるならばやつて見たいと云ふ風に感じ居ります、果してそれが打開の上に大きな助力となるかどうかと云ふことは、是は私は存じませぬやつて見た上でさうならむことを切に希望する次第であります、併しそれが果してどれ程に中華民國側に響くかと云ふことは、豫め豫斷の限りではないと思ふのであります、併し極く公平に考へまして、其の立場に於て話をする決心が我々に付いたならば、交渉の内容に關しても種々の變化を來し、種々の便宜も生じて來ると云ふ風に私は感ずるのであります、其の意味合を以て私は是から支那全

體の問題、北支の問題、その他日本との間に懸案の儘存在して居る諸問題に關しまして再検討を加へ自分等の緊密なる利益を犠牲にしない範圍内に於きましては、十分に協調の態度を執りまして、而して民國側と折衝して見たいと云ふ風に感じて居ります、此の點亦政府に於きまして、私の態度に對しまして御異議があらうとは思ひませず、又政府として私の態度を是認されるだらうと云ふ風に私は信じて居りますので、斯う云ふ方針で以てやつて行きたいと云ふことを私の説明に加へまして御話申上げます。

以上の施政方針に關して

子爵渡邊千冬君 外交と憲法政治擁護及教育に關する概論的質問（首相、外相、文相）、男爵阪谷芳郎君一、財政計畫の大體殊に將來の見込如何に就て、二、外交方針の大體に就て、三、紀元二千六百年祝典に關する方針に就て、（首相、外相、藏相）、小久保喜七君 一、人權問題、二、議權縮小問題、三、外交問題（首相、内相、陸相、外相）、菅原通敬君 財政及稅制方針に關して、（首相、藏相、内相、陸相、外相）田中館愛橋君 一、ローマ字に關する件（文相）二、地壤豫防に關する件、（内相）、子爵大河内輝耕君 施政方針に就て、（首相、外相、藏相、陸相、内相、商相）山隈康君 一、稅制改革問題（藏相、内相）二、陪審法問題（藏相、内相）三、尋常小學校教員俸給費府縣道移管問題、四、前記教員推撰問題（文相）男爵園田武彦君 施政方針に就て、（首相）二、産業統制並自動車工業に就て

（陸相、海相、商相）水野甚次郎君 國防に關して、（首相、陸相、海相）内藤久寛君 石油事業に就て、（首相、陸相、海相、商相）加藤政之助君 電力統制に就て、（首相、遞相）南水洋捕鯨に就て、（首相、農相）青木才次郎君 一、農村問題に就て、（首相）二、衆議院議員選舉法に就て、（首相）三上參次君 國體明徴日本精神作興の用意を政治の各方面に普遍ならしめたまき儀に就て、（首相、文相、外相、内相、商相）伯爵二荒芳徳君 民族精神の高揚に關して、（首相、文相）田中館愛橋君 航空豫算に就て、（陸相、海相、藏相）の諸君十一日に亘りて質疑應答を重ねたり

第四章 財政

第一節 豫算

一、昭和十二年度豫算

昭和十二年度歳入歳出總豫算に掲上する所の歳入歳出は各貳拾八億千五百參拾六萬八千百貳拾壹圓なり。

イ、歳入

昭和十二年度歳入は貳拾八億千五百參拾六萬八千百貳拾壹圓にして、其の經常部に屬するもの拾八億千四百六拾九萬六千四拾四圓其の臨時部に屬するもの拾億六拾七萬貳千七拾七圓なり今之を前年度

豫算に比較すれば左の如し。

歳入	昭和十二年度豫算		前年度豫算		比較増減(△印ハ減)	
	施行豫算	實行豫算	施行豫算	實行豫算	施行豫算ニ比シ	實行豫算ニ比シ
經常部	一、八二四、六九六、〇四四 ^円	一、三五七、七四九、九八九 ^円	一、四五〇、〇五九、〇三六 ^円	四五六、九〇一、〇五五 ^円	三六四、六三七、〇〇八 ^円	
臨時部	一、〇〇〇、六七二、〇七七	一、一三三、二二五、三九一	八五五、五二五、一五九	△三二一、五三三、三四	一四五、一五六、九一八	
計	二、八二五、三六八、二二二	二、五八〇、〇一〇、三八〇	二、三〇五、五七四、一九五	二三五、三五七、七四一	五〇九、七七三、九一六	

備考 前年度豫算額中經常部と臨時部との間に組替掲記せるものあるを以て該年度決定金額と符合せず。

ロ、歳出

昭和十二年度歳出は貳拾八億千五百參拾六萬八千百貳拾壹圓にして其の經常部に屬するもの拾四億六千貳百七拾參圓其の臨時部に屬するもの拾參億五千貳百六拾貳萬七千貳百四拾八圓なり今之を前年度豫算に比較すれば左の如し。

歳出	昭和十二年度豫算		前年度豫算		比較増減(△印ハ減)	
	施行豫算	實行豫算	施行豫算	實行豫算	施行豫算ニ比シ	實行豫算ニ比シ
經常部	一、四六二、七四〇、八七三 ^円	一、三七二、八〇一、七〇三 ^円	一、三六〇、七三二、三七七 ^円	九〇、九三九、一七〇 ^円	一〇一、〇〇八、四九六 ^円	
臨時部	一、三五二、六三七、二四八	一、〇三九、六三八、七〇六	九五〇、七八四、九二〇	三二一、九八八、五四二	四〇一、八四三、三三八	
計	二、八一五、三六八、二二二	二、四一一、四四〇、四〇九	二、三一一、五二七、二九七	四〇三、九二七、七二二	五〇三、八五〇、八三四	

備考 前年度豫算額中經常部と臨時部との間に組替掲記せるものあるを以て該年度決定金額と符合せず。

二、昭和十二年度豫算修正綱要

第一 今次の内閣更迭は當第七十回帝國議會の會期中に屬し現内閣は成立後日尙淺く爲に前内閣の編

成に依る昭和十二年度歳入歳出總豫算に對し新なる方針に基き検討を遂げ之が編成替を爲さんとす
るも到底其の違なきを以て已むを得ず臨機の措置として該豫算案に對し最近に於ける我が國經濟界
の實情等に鑑み大體左記に依り相當の修正を加ふることとせり。

一 歳入豫算に在りては前内閣の計畫に依る租稅制度の改革及關稅制度の改革に伴ふ收入の計
上は此の際之を取止め差當り別に暫定的なる計畫を樹て之に基く收入を計上し其の他の歳
入に付ては概ね前内閣の計畫を踏襲すること。

二 歳出豫算に在りては

(イ) 恒久的なる地方財政調整制度の確立は中央地方を通ずる稅制の整備及地方制度の改正
と密接なる關聯あるに依り更に慎重考究を要すと認むるを以て姑く之を取止め差當り
地方財政に對する補給金として七千萬圓を計上し主として町村に於ける過重なる稅負
擔の輕減に充つること。

(ロ) 物資需要の急激なる増加を緩和する等の趣旨に依り成るべく經費使用の減少を圖るこ
と尙各特別會計に付ても大體右の方針に倣ひ適宜修正を加ふることとせり。

第二 昭和十二年度歳入歳出修正豫算の總額を示せば左の如し。

歳入	經常部	一、八一四、六九六、〇四四
	臨時部	九九九、二四一、九二七
普通歳入		二二八、四一八、二五〇
公債金		七七〇、八二三、六七七
計		二、八一三、九三七、九七一
歳出	經常部	一、四六二、七一二、〇三四
	臨時部	一、三五一、二二五、九三七
計		二、八一三、九三七、九七一

右修正豫算に付ては其の實行上陸海軍兩省所管に於て各貳千參百萬圓を下らざる金額の使用を見合
はさんとする決心なるを以て假りに其の歳出中より該四千六百萬圓を同歳入中より之が財源に相當
する公債金收入四千六百萬圓を控除し昭和十二年度の所謂實際豫算額を示せば歳入歳出各

二、七六七、九三七、九七一

となるものなり

第三 昭和十二年度歳入歳出修正豫算の大體及其の原豫算に對する増減を示せば左の如し。

區分		原豫算額	修正豫算額	修正豫算額原豫算額ニ對スル
				増 減
歳入	經常部	二、〇四、九七、六二三	一、八四、六九六、〇四四	〇 円
	臨時部	一、〇三、五九四、二二二	九九九、二四一、九七	〇 円
普通歳入		三二、三二、七三三	二八、四一八、二五〇	〇 円
公債金		八〇一、四五二、四九九	七七〇、八三、六七七	〇 円
計		三、〇八、五九一、八二五	二、八三、九七、九七二	〇 円
歳出	經常部	一、七〇、九一〇、四〇〇	一、四六二、七二、〇三四	〇 円
	臨時部	一、三三、七、六七二、三八五	一、三五二、二五、九三七	〇 円
計		三、〇三、八、五九一、八二五	二、八一三、九七、九七二	〇 円
				増 減
				二〇〇、三〇一、五六九 円
				二四、三四一、二八五 円
				〇 円
				三二、六八、八三三 円
				三四、六四三、八五四 円
				〇 円
				二三八、一九、四〇六 円
				〇 円
				二四、六四三、八五四 円

本表に掲記したる修正豫算額の歳出中より陸海軍兩省所管に於て實行上使用を見合はさんとする金額四千六百萬圓を同歳入中より之が財源に相當する公債金收入四千六百萬圓を控除するときは歳入歳出各

二、七六七、九三七、九七一 円

となり之を原豫算額に比較すれば

二七〇、六四三、八五四 円

の減少となるものなり。

第四 昭和十二年度歳入修正豫算額及原豫算額の科目別内譯を比較すれば左の如し。

昭和十二年度歳入修正豫算額及原豫算額比較表

科 目	原 豫 算 額	修 正 豫 算 額	修正豫算額ノ原豫算額ニ對スル	
			増	減
租 所 得 税	一、四〇〇、七七、九九五 ^円	一、二五〇、七三、三五四 ^円	〇	一六九、三五五、六四一 ^円
地 租	五五、九〇一、八六五	四三九、五四、三八一	〇	九六、三七七、四八四
營 業 收 益 税	五、三九八、〇七一	五八、七六〇、六九七	三六二、六二六	〇
資 本 利 子 税	七、一六四、四三二	七三、四七五、一六七	二、三二〇、七三六	〇
財 產 税	三、三六一、七六六	二九、一七六、七〇四	〇	三、一八五、〇三二
法 人 資 本 税	二〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	二〇、〇〇〇、〇〇〇
相 續 税	〇	一五、四五四、九八〇	一五、四五四、九八〇	〇
鑛 業 税	三三、二九七、三四	三三、四七五、六七六	一七八、三五二	〇
外 貨 債 持 別 税	六、九〇四、五三七	五、八五九、〇二八	〇	一、〇四五、五〇九
	五、三五二、一四五	二、七三三、七三九	〇	二、五五八、四〇六

科 目	原 豫 算 額	修 正 豫 算 額	修正豫算額ノ原豫算額ニ對スル	
			増	減
酒 税	三三、二七〇、三三八	三三、二二〇、七四	〇	〇
清 涼 飲 料 税	四、三九、五九一	四、三九、五九一	〇	〇
砂 糖 消 費 税	二二、四二一、〇四八	九八、七四三、六〇七	〇	二二、六六七、四四一
織 物 消 費 税	四九、二三四、二三三	四三、〇四〇、八四九	〇	六、一九三、三八四
揮 發 油 税	一四、九三、八五五	一四、九三、八五五	〇	〇
取 引 所 税	二〇、二一〇、九〇三	一九、二七九、八五八	〇	九三一、〇四五
取 引 税	三〇、二五〇、〇八三	〇	〇	三〇、二五〇、〇八三
有 價 證 券 移 轉 税	〇	四、六四、七二七	四、六四、七二七	〇
關 稅	一六、〇三六、三六三	一七九、三〇〇、六二二	〇	一六、七三七、七五二
噸 稅	二、九四八、九〇一	二、九四八、一九	〇	七八二
外 國 貿 易 統 計 稅	四、二八〇、五七一	〇	〇	四、二八〇、五七一
印 紙 收 入	九九、〇六一、八三三	八六、六八、一七一	〇	一二、四四三、六五二
官 業 及 官 有 財 產 收 入	三四二、七九六、四〇〇	三四、六三、八〇四	〇	一八、一七二、五九六

森林收入	四五、四八〇、〇三三	四五、四八〇、〇三三	〇	〇
專賣局益金	二五二、一四一、四一五	二五三、九六八、八一九	〇	一八、一七二、五九六
配當金收入	二八、九五六、九〇二	二八、九五六、九〇二	〇	〇
刑務所收入	一一、二四九、五二二	一一、二四九、五二二	〇	〇
其他	四、九六六、五三八	四、九六六、五三八	〇	〇
通信事業特別會計納付金	八一、〇〇〇、〇〇〇	八一、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇
日本銀行納付金	一三、〇八七、五六一	一三、〇八七、五六一	〇	〇
雜收入	五二、四七八、五二七	五一、一四八、八四七	〇	三九、六八〇
小計	二、〇〇七、五〇二、三〇六	一、八〇七、二〇〇、七七七	〇	二〇〇、三〇一、五二九
教育改善及農村振興基金特別會計ヨリ繰入	七、四九五、三〇七	七、四九五、三〇七	〇	〇
合計	二、〇一四、九一七、六三三	一、八二四、六九六、〇四四	〇	二〇〇、三〇一、五二九
臨時部	六、四九五、六六九	六、四九五、六六九	〇	〇
官有物拂下代	四一、九三六、一〇九	四〇、九九一、二八	〇	九四三、八八一
雜收入				

公共團體工事費納付金	七、五五〇、三三九	七、二二一、四三九	〇	四七、八〇〇
公共團體工事費分擔金	一一、三九六、〇六〇	一〇、六四五、九六六	〇	七五〇、〇九四
學術研究獎勵金受入	二六、〇〇〇	二六、〇〇〇	〇	〇
特別會計ヨリ繰入	一〇、八二六、四三八	八、八七五、三六八	〇	一、九四一、〇七〇
保險會社納付金	三、一六二、六五二	三、一六二、六五二	〇	〇
輸出補償收入	一、一〇一、〇〇〇	一、一〇一、〇〇〇	〇	〇
滿洲國國防費分擔金受入	一九、五〇〇、〇〇〇	一九、五〇〇、〇〇〇	〇	〇
臨時利得税	四三、一七三、二六六	五八、五三二、六九八	一五、三四九、三九二	〇
輸出統制税	三、九八三、二八〇	三、九八三、二八〇	〇	〇
特別會計ヨリ一般財源受入	七二、八九〇、〇〇〇	六七、八九〇、〇〇〇	〇	四、〇〇〇、〇〇〇
小計	三三二、三三一、七三三	二八、四一八、二五〇	七、二八六、五三七	〇
公債金	八〇二、四五二、四九九	七七〇、八三三、六七七	〇	三二、六二八、八二二
合計	一、〇三三、五八四、二二二	九九九、二四一、九七七	〇	二四、三四二、二八五

修正豫算額ノ原豫算額ニ對スル
増
減

總計	三、〇三八、五八一、八五五	二、八二三、九三七、九七一	〇	三、〇三八、五八一、八五五
----	---------------	---------------	---	---------------

第五 昭和十二年度歳出修正豫算額及原豫算額の各省所管別總額を比較し併せて前掲の所謂實際豫算額を示せば左の如し。

所管別	原豫算額	修正豫算額	實際豫算額	修正豫算額ノ對スル増△減	
				原豫算額ニ對スル増△減	實際豫算額
皇室費	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	〇	〇
外務省	三六、二九九、三三二	三三、五七一、七六一	三三、五七一、七六一	二、六九六、五四九△	二、六九六、五四九△
内務省	四三、〇九三、三三四	二六、〇五一、六八〇	二六、〇五一、六八〇	一六二、〇四一、五四四△	一六二、〇四一、五四四△
大藏省	五七〇、六七、二五八	五四四、八九六、五七七	五四四、八九六、五七七	二五、七三〇、六八一△	二五、七三〇、六八一△
陸軍省	七七、九六五、三四〇	七七、九六五、三四〇	七〇四、九六五、三四〇	〇	三三、〇〇〇、〇〇〇
海軍省	六八一、六五三、六一六	六八一、六五三、六一六	六八八、六五三、六一六	〇	三三、〇〇〇、〇〇〇
司法省	四三、〇〇七、〇四九	四二、一〇八、七八二	四二、一〇八、七八二	八九八、二六七△	八九八、二六七△

文部省	一四六、七五四、三八〇	一四四、四八四、三八〇	一四四、四八四、三八〇	二、二七〇、〇〇〇△	二、二七〇、〇〇〇△
農林省	二六、五四、三四	一五、六八四、二七八	一五、六八四、二七八	一〇、八四〇、〇三六△	一〇、八四〇、〇三六△
商工省	四二、四三、八六一	二六、八二四、二四	二六、八二四、二四	一五、五九八、六四七△	一五、五九八、六四七△
逓信省	二二、二九七、八〇八	二〇七、四四七、〇二二	二〇七、四四七、〇二二	三、八五〇、七八七△	三、八五〇、七八七△
拓務省	一四、四七、六四四	二二、七九九、三〇一	二二、七九九、三〇一	七二七、三四三△	七二七、三四三△
計	三、〇三八、五八一、八五五	二、八二三、九三七、九七一	二、七七七、九三七、九七一	二三四、六四三、八五四△	二七〇、六四三、八五四△

第六 昭和十二年度歳出修正豫算額及原豫算額の各省所管別内譯を比較すれば左の如し。

所管別	原豫算額	修正豫算額	修正豫算額ノ對スル増△減	
			原豫算額ニ對スル増	減
皇室費	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	〇	〇
外務省	一八、二五五、六四四	一七、九三五、〇三六	〇	三〇〇、六〇八
内務省	二八三、三三二、五五一	六〇、六一三、八八〇	〇	二二二、七〇八、六七一

大藏省	陸軍省	海軍省	司法部	文部省	農林省	商工省	逓信省	拓務省	臨時計	外務省	內務省
四九〇、七六一、一七七	二二七、八〇四、〇七一	二七三、九五三、三八〇	三九、四四五、八一	一三三、四二一、〇八三	四、七九二、六九六	六、七六六、八七八	一八五、五八八、二九〇	二、二七七、八五九	一、七〇〇、九一〇、四四〇	一八、〇三三、六八七	一三九、七七〇、六七三
四八一、八九四、四三四	二二七、八〇四、〇七一	二七三、九五三、三八〇	三九、〇二一、二六九	一三三、一八四、八九二	三九、三三〇、二六	六、六八九、九〇一	一八五、四八五、九八六	二、二六九、〇五九	一、四六二、七二二、〇三四	一五、六三七、七四六	二〇〇、四三七、八〇〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	六〇、六六七、二七
八、八八七、七四三	〇	〇	四二四、五四二	二三六、一九一	五、四三二、五七〇	七六、九七七	一〇一、三〇四	八、八〇〇	二三八、一九八、四〇六	二、三七五、九四二	〇

三、昭和十一年度總豫算追加

大藏省	陸軍省	海軍省	司法部	文部省	農林省	商工省	逓信省	拓務省	合計
七九、八四五、〇八一	五二〇、一六一、二六九	四〇七、七〇〇、二二六	三、五六一、二三八	一三、三三三、二九七	八一、七三一、六一八	三五、六四五、九八三	二五、七〇九、五二八	三三、一九八、七八五	一、三三七、六七二、三八五
六三、〇〇二、一四三	五二〇、一六一、二六九	四〇七、七〇〇、二二六	三、〇八七、五二三	一一、二九九、四八八	七六、三四一、一五二	二〇、二四三、三二三	二二、九六一、〇三五	二二、四九〇、二四二	一、三五一、二三五、九三七
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一三、五五四、五五二
一六、八四一、九三八	〇	〇	四七三、七五	二、〇三三、八〇九	五、四〇七、四六六	一五、五二一、六七〇	三、七四八、四八三	七〇八、五四三	二三四、六四三、八五四

イ、昭和十一年度歳入歳出總豫算追加（第一號）

昭和十一年度歳入歳出總豫算追加として計上する所の金額は歳出六百貳拾萬七千百四拾貳圓にして其の追加を要する事項金額左の如し。

但し右は昭和十一年度豫算實行上の歳入超過額を以て之を支辨する計畫なり。

歳出經常部

外務省所管

電信料に要する經費の増加

二一三、四五八

内務省所管

警察費連帶支辨金の増加

二、一六四、八七三

大藏省所管

議院事務費の増加

二〇、〇〇〇

遞信省所管

恩給の増加

一、九八四、三七〇

歳出臨時部

外務省所管

北支領事館警察充實に要する經費

一三、三二五

内務省所管

府縣災害旅費の増加

二五、〇〇〇

海軍省所管

滿洲事件費の増加

一、七八六、一一六

ロ、昭和十一年度各特別會計豫算追加（第一號）

大藏省所管

關東局

歳入

經常部

第二款 官業及官有財産收入

三二、七八三

第一項 通信收入

一九、五九六

第四項 刑務所收入

一三、一八七

臨時部

第四款 前年度剩餘金繰入

一八、九九五

財政

第一項 前年度剩餘金繰入

合計

歲出

經常部

第二款 法院及刑務所

第四項 收容費

第七款 通信費

第二項 遞信事業費

經常部合計

拓務省所管

朝鮮總督府

歲入

臨時部

第七款 前年度剩餘金繰入

第一項 前年度剩餘金繰入

六〇

一八、九九五

五一、七七八

三五、四一五

三五、四一五

一六、三六三

一一六、三六三

五一、七七八

六二六、一八四

六二六、一八四

歲出

經常部

第十七款 專賣局

第二項 事業費

臨時部

第二十款 災害費

第九項 邑面其他歲入缺陷補填補助

合計

臺灣總督府

歲入

經常部

第三款 官業及官有財產收入

第一項 郵便電信及電話收入

第二項 鐵道及自動車收入

第三項 專賣收入

財政

六一

九、七九五、三一七

六四、六九六

三、一五二、四三四

六、三八〇、二五〇

第七項 度量衡收入

六二

一九七、九三七

歳出

經常部

第二款 總督府

一二五、四七九

第四項 度量衡費

一二五、四七九

第十三款 交通局

一、〇二九、二一〇

第二項 鐵道事業費

四一八、四七一

第三項 遞信事業費

六一、四六二

第七項 諸拂戻及立替金

五四九、二七七

第十四款 專賣局

二、三二八、〇〇二

第三項 專賣品補償及購買費

二、三二八、〇〇二

經常部合計

三、四八二、六九一

四、昭和十二年度歳入歳出總豫算追加

イ、昭和十二年度歳入歳出總豫算追加（第一號）

昭和十二年度歳入歳出總豫算追加として計上する所の金額は歳入歳出各五千八百拾九萬七千九百貳

圓にして其の追加を要する事項金額左の如し。

歳入經常部

五、八四〇、〇〇〇

貨幣交換差増の増加

歳入臨時部

三〇、〇〇〇

帝國燃料興業株式會社設立準備費立替金

官立大學特別會計資金部より繰入

七〇〇、〇〇〇

滿洲事件費の財源に充つべき公債金の増加

四三五、九四八

歳入補填の財源に充つべき公債金の増加

五一、一九一、九五四

歳出經常部

外務省所管

國際司法裁判所釀出金に要する經費

四八、三九一

在滿大使館敎務部設置に要する經費

三七、四四五

大藏省所管

議院事務局職員増置に關する經費

一〇五、四五一

貨幣交換差減の増加

四八、三九一

國債整理基金特別會計へ繰入の増加

六四

司法省所管

四五七、六八二

司法保護事業獎勵に關する經費の増加

一〇〇、〇〇〇

文部省所管

帝國學士院學術研究獎勵費支出金の増加

五、〇〇〇

商工省所管

鑛山災害防止に關する經費

四二、三八七

製鐵事業委員會設置に要する經費

七、〇〇〇

逓信省所管

改正船員法施行に要する經費

一六、四〇二

歳出臨時部

外務省所管

在外公館臨時諸費

九〇、〇〇〇

漢口日本租界護岸改修に要する經費

五七、六六二

内務省所管

地方財政援助に要する經費の増加

三〇、〇〇〇、〇〇〇

國際勞働會議參列に要する經費の増加

二五、三〇九

國際農村衛生會議參列に要する經費

六、〇〇〇

府縣災害旅費の増加

一〇〇、〇〇〇

災害土木費補助の増加

五、六九〇、〇〇〇

北海道災害復舊に關する經費の増加

七一〇、〇〇〇

第二區道縣立癩療養所火災復舊補助に要する經費

四六、〇〇〇

東京府小笠原島及新島道路其の他災害復舊に要する經費

二五、〇〇〇

防空法實施準備に要する經費

二〇、〇〇〇

大藏省所管

輸入貨物代金の決濟等の制限に關する命令施行に伴ふ經費

四〇、二九四

憲法發布五十年記念祝典に關する經費

八五、〇〇〇

在滿日本人教育費國庫負擔に要する經費

三〇〇、〇〇〇

北海道罹災救助基金補助に要する經費

三二、〇〇〇

海軍省所管

英國皇帝陛下戴冠式記念觀艦式參列軍艦派遣に要する經費
 滿洲事件費の増加
 災害復舊に要する經費

八二〇、〇〇〇
 四三五、九四八
 二〇〇、〇〇〇

文部省所管

第十二回オノムビツク大會費補助に要する經費
 文部本省汽罐改修に要する經費

七五〇、〇〇〇
 一七、〇〇〇

農林省所管

米穀配給新機構調査に關する經費
 九州地方其他各地風水害復舊施設費
 沖繩縣振興事業に關する經費の増加
 日「ソ」漁業條約整備に要する經費

八、〇〇〇
 二、〇七七、五〇〇
 四三〇、〇〇〇
 一九、〇六八

商工省所管

北樺太石油資源開發助成に要する經費の増加
 帝國燃料興業株式會社設立に關する經費
 紀元二千六百年紀念萬國博覽會開催助成に關する經費

六五三、〇〇〇
 五、〇三〇、〇〇〇
 五〇〇、〇〇〇

遞信省所管

京城大連線定期航空輸送補助に要する經費
 電氣事業統制調査に要する經費

一三〇、〇〇〇
 三〇、〇〇〇

拓務省所管

滿洲拓殖會社出資拂込金

九、〇〇〇、〇〇〇

ロ、昭和十二年度各特別會計歳入歳出豫算追加（第一號）

大藏省所管

國債整理基金

歳入

第一款 國債整理基金收入

四五七、六八二

第一項 一般會計より受入

四五七、六八二

歳出

第一款 國債整理基金支出

四五七、六八二

第一項 國債整理基金支出

四五七、六八二

公債金

歲入

第一款 公債金收入

第一項 公債金

歲出

第一款 公債金支出

第一項 一般會計へ繰入

關東局

歲入

臨時部

第五款 前年度剩餘金繰入

第一項 前年度剩餘金繰入

歲出

臨時部

第二款 補助費

第五項 航空輸送補助

五一、六二七、九〇二
五一、六二七、九〇二

五一、六二七、九〇二
五一、六二七、九〇二

一二五、〇〇〇
一二五、〇〇〇

一二五、〇〇〇
一二五、〇〇〇

文部省所管

帝國大學

歲入

經常部

第二款 京都帝國大學

第二項 諸收入

歲出

經常部

第二款 京都帝國大學

第一項 俸給

第二項 校費

資金部歲入

第二款 京都帝國大學

第二項 特別資金收入

資金部歲出

二、五〇〇
二、五〇〇

二、五〇〇
九一八
一、五八二

二、五〇〇
二、五〇〇

財政

第二款 京都帝國大學

七〇

第二項 特別資金支出

二、五〇〇

官立大學

二、五〇〇

資金部歲入

第一款 維持資金收入

七〇〇、〇〇〇

第二項 財產賣却代

七〇〇、〇〇〇

資金部歲出

七〇〇、〇〇〇

第一款 維持資金支出

拓務省所管

七〇〇、〇〇〇

朝鮮總督府

歲入

臨時部

第八款 前年度剩餘金繰入

第一項 前年度剩餘金繰入

二、一〇七、四九六

歲出

二、一〇七、四九六

第三款 總督府

二二、三六三

第一項 俸給

三、六七二

第二項 事務費

一八、六九一

第二十二款 稅務監督局稅務署

第一項 俸給

一、二五一

第二項 事務費

三九四

經常部合計

八五七

臨時部

二二、六一四

第三款 調查及試驗費

三三、一一六

第十九項 無水酒精調查費

三三、一一六

第四款 補助及獎勵費

一五九、五二二

第五項 勸業補助

一一、九三八

第十八項 朝鮮林業開發株式會社補助

二二、五八四

第十九項 航空輸送補助

一二五、〇〇〇

第七款 土木費

一、五〇〇、〇〇〇

財政

七一

第二項 港灣修築改良費

第十六款 臨時特別手當

第一項 臨時特別手當

第十九款 臨時取締費

第一項 臨時取締費

第三十款 災害費

第七項 江界道立醫院火災復舊及新營費補助

臨時部合計

合計

拓務省所管

朝鮮總督府

港灣修築改良費

既定總額

追加額

計

一、五〇〇、〇〇〇

三、八九二

三、八九二

三〇七、一六九

三〇七、一六九

八〇、一八三

八〇、一八三

二、〇八三、八八二

二、一〇七、四九六

四五、六〇三、六二九

六、八〇〇、〇〇〇

五二、四〇三、六二九

内

昭和十一年度迄支出額

六、一二二、六二九

昭和十二年度以降支出額

(款) 土木費

(項) 港灣修築改良費

四六、二八一、〇〇〇

昭和十二年度

九、六一一、〇〇〇

昭和十三年度

九、五六〇、〇〇〇

昭和十四年度

八、七八〇、〇〇〇

昭和十五年度

七、六一〇、〇〇〇

昭和十六年度

四、二〇〇、〇〇〇

昭和十七年度

三、三〇〇、〇〇〇

昭和十八年度

三、二二〇、〇〇〇

説明

前記の費途は昭和十年度より同十八年度に亘る繼續費なるも新に清津西港防波堤築造工事をなす爲前記金額を追加するに依り昭和十二年度以降前掲の如く總額及年割額の改定を要す。

大藏省所管

關東局

航空輸送補助 歳出臨時部第二款補助費第五項

説明

航空輸送補助は航空未了又は證明書提出遅延等の爲年度内に之が支出を了するを期し難し依て本年度の支出残額を翌年度に繰越使用するを要す。

拓務省所管

朝鮮總督府

航空輸送補助 歳出臨時部第四款補助及獎勵費第十九項

説明

航空輸送補助は航空未了又は航空に關する證明書提出遅延其他終了の航空に對しても調査を要する等の爲年度内に支出を了すること能はざるものなしとせず依て本年度の支出残額を翌年度に繰越使用するを要す。

大藏大臣 結城豊太郎君

諸君、今般揣らずも大藏大臣の重任を拜し、茲に豫算竝に財政經濟に關する方針に付申述べます

ことは、私の最も光榮とする所であります。

昭和十二年度歳入歳出豫算は更に之を編成替するの餘日がありませぬ爲に、已むなく曩に撤回致しましたるものを其の儘之を提出することに致したのであります、其の計數等に關しましては、既に諸君御承知のことゝ存じますが故に、此の場合重ねて之を説明することを省略致します、然しながら政府は右の總豫算を其の儘踏襲致しますことは最近に於ける我が經濟界の實情に照しまして必ずしも適當ならざるものありと信じますが故に、之に對し相當の變更を加ふるの必要あることを認むるのであります。

諸君、刻下内外の情勢より觀まするときは、既に内閣總理大臣の聲明にも在りますが如く國是の貫徹に必須なる國防軍備を充實するの要緊なるものあることは、言ふを須たぬ所でありませぬ、然しながら國防の充實は、必ずや其の背後に充實せる國民經濟力あることを必要とするのでありませぬ、國防の充實と國民經濟力の充實とは恰も車の兩輪の如く、一あつて初めて他は全きを得るのであります、此の見地より致しまして、産業の發達並に貿易の伸展を圖ることは我邦刻下の急務であります、尙現今の社會情勢に顧み國民生活の安定を圖るも之亦頗る緊要なることを痛感致すのであります、其の他今日政府として施設せねばならぬ事項は尙甚だ多いのでありませぬ、國防の充實其他の施設の爲に歳出の膨脹を見ますことに付きましては充分覺悟せねばならぬと考へるのであります。



而して此等増加する歳出を支辨するが爲には、國債の増發、増税の斷行は洵に已むを得ざる所であり、國債に付きましては我國現在の國民經濟力を以てしますれば、相當程度之を發行するも、之が消化に懸念なきものと確信致して居るのであります。増税の斷行も亦此の際國民の忍ばなければならぬ所と存するのであります。國民としては何人も各々其の分に應じ舉つて納税に依り奉公の誠を效すべきであると考へるのであります。唯、租税の増徴は其の及ぼす所の影響が極めて甚大でありますから、之が實行に當りましては、慎重事に當り、人心に不安を與へぬことに留意すると共に十分經濟界の實情を察し、出來得る限り之に依る悪影響の防止に努むべきであります。企業心の萎縮、生産力の減退を來すが如きことなきを期すること極めて肝要なりと信するのであります。

斯の如くに致しまして歳出の増加は眞に已むを得ざるものであり、歳入をして之に相應せしむるに努めまするに付きましては、財政と經濟との調和連繫には特に深く意を用ひるの要ありと考へるのであります。此の際に於きましても、歳出は成るべく需用の程度切實なるものに重點を置き不急の剩費あらしめざることには特に意を用ふべきであると考へるのであります。

政府は此等の諸點に顧みまして、昭和十二年度歳出に於て議會に提案してあります金額
三十億三千八百五十餘萬圓

の内

約 二億六千九百萬圓

だけ年度内に於て使用を見合せんとする考へであります。歳出豫算に付きましては時日があります。ならば、固より全般に亘りまして詳細に再検討を試みるのが適當であるのであります。差當り新規増加額の大體に付て觀察致しまして、少くとも右に掲げました金額使用を見合せ度い考へであります。

次に歳入豫算に付きましては、政府は經濟界の實情に顧み、前内閣の計畫に係る税制改革及び關稅制度の改革に付ては更に之を慎重に考究するの要ありと認めますが、餘日なき今日、一先づ右の計畫に依ることなく、別に暫定的なる計畫を樹てることに致したのであります。

右計畫に依る歳入の増加は、大體

臨時租税増徴に依る増加 二億三千三十餘萬圓

新税創設に依る増加 三千九百二十餘萬圓

關稅改正等に依る増加 二千二百五十餘萬圓

合計 二億九千二百十餘萬圓

であります。次に此の計畫の内容には、大體の説明を致したいと存じます。

先づ其の一は臨時租税増徴であります。之は財政の基礎を鞏固に致します爲には漫然として公債に依存することなく普通歳入の増加を圖るの要あること洵に緊切なりと考へられるのであります。差

當り所得税、法人營業收益税、資本利子税、相續税、礦業税、臨時利得税、酒税、砂糖消費税及び取引所税に付きまして臨時増税を行はんとするものであります。

其の二は新税の創設であります、新税に付きましては前内閣に於きまして取引税、財産税の計畫もあつたのでありますが、此等の租税に付きましては、尙考究を要するものありと考へられますので、今回は法人資本税、外貨債特別税、揮發油税及び有價證券移轉税を創設するに止めたのであります。其の三は關稅の改正であります、關稅の一般改正は之を行ひませず、礦油、自動車等數品目の税率を改正することとし、尙、鋼材の需給状態に顧み銑鐵と同様に當分の内鋼材の關稅を免除することと致したのであります、又曩に計畫せられて居りました外國貿易統計税は之を取止め、輸出統制税のみを創設するに止めました次第であります。

今回の計畫は大體右の如くであります、地方財政の調整に關しましては、農山漁村の過重なる負擔を軽減することに付ては特に意を用ふるの要ありと認められますので、昭和十二年度に於ては七千萬圓を主として町村に交付することとし、其の負擔を軽減することと致したのであります。

諸君、我國經濟界は、重大なる時期に遭遇して居りますから、之が根本對策の樹立は極めて慎重を期するの要があるのであります、經濟界の組織は本來極めて微妙なるものであります、一部の不調和は忽ち全體の運営の圓滑を阻害するものでありますから、單に一部の觀察に基き部分的必要の爲

に全體の發展を阻害するが如きは嚴に戒むべきであります、故に、政府と致しましては、今後の經濟政策の樹立に當りましては常に全體と一部との双方に留意し、先づ全體としての歸趨を考察し、其の方向其の線に沿うて各部門の調和的漸進を期し度いと考へて居るのであります、尙之と同時に、凡そ經濟政策の實施に當りましては、經濟界に急激なる變化を與へざることを以て要諦とすべきものでありまして、事を急ぐの餘り徒らに平地に波瀾を生ずるが如きことは努めて之を避くべきものであると信するのであります、何事も極端な事は行ひ易いので中庸を得ることは困難であります、私は其難きを執る心構をして居るのであります。

近年我國產業界が極めて順調なる發達を遂げつゝありますことは洵に欣快とする所であります、が、產業界を健全に發展せしめ、以て經濟界の基調を牢固たるものたらしむるが爲には、產業の各部門に付尙一層之が綜合的振興の方途を講ずるを以て緊急の要務と信するのであります、農山漁村の状況に付きましては近來の推移稍々順調なるものある様認められるのであります、尙怠ることなく其の振興に努力すべきであると思へるのであります、又中小商工業に付きましては我國の實情に顧み其の向上發展を策する爲には不斷の注意を拂ふの必要があると思へるのであります、要は農に偏せず、商工に偏せず、我國產業全體の發達を企圖すべきであると思へるのであります、而して産業の助長發展の爲には政府の諸施設の外、生産力の擴充等の爲に金融機關の活躍を期待して已まぬ次第であります。

す、尙金利政策に付きましては、人爲的手段は成るべく之を避け徐々に低金利を誘導するの方針を採り、金融機關の統制の如きも、今直ちに急激なる手段に訴ふるが如きことなく、自然に其の本來の機能を發揮するが如き方向に導き度いと考へて居るのであります。

最近我國の外國貿易が目覺しき發展を見ましたことは我國が數年來良質廉價の商品を以て國際市場に活躍致したことに因るのであります。將來は單に良質廉價のみを以て頼みとすることは不可能でありまして、今後は適當なる統制を実施することに依りまして、外國の貿易障礙手段の激化を避くると共に、對外的には適宜外交交渉に依り互惠的協定の締結を圖り、一方必要なる輸入を消化すると共に、他方一層の輸出増加に努むべきものと考へるのであります。

昨年末より本年初頭にかけて爲替相場は稍々變調を呈しましたが昨今に至り次第に其の安定を回復して來て居るのであります。爲替相場の維持は最も必要と認められますので、之に對しては萬全の方策を講ずる積りであり、又最近施行せられました外國爲替に關する臨時應急の措置に付きましては尙當分引續き其の経過を見て行き度い考へてあります。勿論之が實際の運用に當りましては産業並に貿易に對し障礙を與ふることなき様最善の注意を拂ふ方針であります。

國際經濟に付きましては根本的考慮を拂ふの要ありと考へるのであります。最近に於ける状態を観まするに、經濟的國家主義の思想は尙一般を支配し、國際經濟の思想には殆ど耳を傾くるものなき

實情に在るのであります。現在國際間に不透明なる空氣の醸成せられて居りますものも、其の一半は此の經濟鎖國に基因するものと言ひ得るのであります。國際經濟の行詰りを打開し通商關係を明朗に致しますことは、緊迫せる國際關係を緩和し、延いては世界平和に貢獻する所尠からざるものと考へるのであります。國際經濟の回復を圖りますことは刻下の急務なりと考へて居るのであります。

物價の騰勢は現在世界的傾向ではあります。物價の不自然なる急騰は産業貿易上重大なる惡影響を及ぼすのみならず、延いては豫算の施行にも大なる支障を來し、尙國民生活の安定をも害することと大なるものがあることは、更めて申す迄もないのであります。最近に於ける我國物價の騰勢に關しましては、思惑に依る假需要が之に拍車をかけつゝあることは勿論であります。急激なる豫算の増加が其の原因を爲せることも亦否むべからざる所であります。それ故に政府は前にも申述べました如く極力歳出の膨脹を防止すべく努力致したのであります。元來物價騰貴に對する人爲的手段は往々にして期待に反するが如き結果を生ずることがありますから、寧ろ根本對策を考究する必要があると認めらるるのであります。

滿洲國が建國後着々として發展の一路を辿つて居りますことは洵に慶賀に堪へぬ所であります。我國の資本並に技術に依りまして、滿洲國資源を開發しますことは兩國共存共榮の實を擧ぐる所以な

りと信するのでありまして、政府と致しましては此の方面の努力を惜まない考へであります。

我國現下内外の諸情勢は極めて多事多難であります。之は一面我國が更に一段の飛躍を遂ぐる爲の一の試練なりとも解し得るのであります。時難を克服して更に一層の發展を齎らす爲には官民一致の努力が最も必要でありまして、複雑なる機構を持つて居ります財政經濟の方面に於きましては、特に其の必要の緊切なることを思ふのであります。洵に今や正に全國民和衷協同して、此の重大時局を乗切るの覺悟を固むべき時であることを痛感する次第であります。

終りに臨み、今回の豫算に付きましては、就任匆匆且極めて短時日の間に、之が再検討を行はざるを得ざる餘儀なき事情にありました爲、其の意を得ざる點の多々ありますことを深く遺憾に存するのであります。政府と致しましては御審議に當り、誠意を盡して事に當りたい考へでありますから、時局に顧み、何等速に御協賛を與へられんことを切に希望して已まない次第であります。

菅原通敬君

諸君、有史以來未曾有の大負擔を國民に課せむとする大増稅案が、會期切迫の今日に於て本院に上程せらるゝことになりました其の事態に付ては、本院として甚だ不都合と感するのでございます。それに付きまして、本院に於きましては會期の如何を問はず、盡し得らるゝだけの審議を、十分之を盡すと云ふことにならなければならぬと思ふのでございます。

私は是より此の増稅案を中心として、政府の所見を質したいと思ふのでございます。結城藏相が馬場財政を修正せむとして第一著に目指されましたのは、龐大なる豫算を壓縮すること、急激なる増稅を緩和すること、赤字公債の増發を減少すること、其の三點であつたと思ひます。此の着眼は確かに時宜に適するものでありましたから、財界よりは御承知の通り大なる好感を以て迎へられたのであります。而して此の財政方針は藏相の抱懷されて居る所の物價政策なり、金融政策なり、爲替政策なり、其の他の經濟政策と相俟つて、財界に向つて明朗性を與へたのであります。併し此の明朗性は馬場財政に對する反動的のものであつたのでありますから、馬場財政に對する修正が國民の期待に副はないやうなことになりますれば、此の明朗性は段々霞に掩はれ、世人は却て馬場財政なるものを振り返つて見るやうなことになるのであります。

それでは結城藏相は如何に馬場財政を修正されたかと云ひますと、藏相が非常に熱心に努力されたに拘らず、歳出に於ては二億二千四百萬圓を減じましたけれども、地方交付金勘定を差引いて見ますと云ふと、僅かに七千四百萬圓に過ぎない、又増稅に於ては一億九千百萬圓に減じて居りますけれども、之に若しも是も、地方交付金勘定を差引いて見ますと云ふと、四千百萬圓に過ぎないのであります。之に若し關稅其の他の増稅、增收等を加へて考へますと云ふと、私の計算に依りますと、却て馬場財政當時の増稅計畫よりも、國民負擔に屬するものが多くなると思ふのであります。而して公債に於きましては

僅かに三千百萬圓を減じたに止まり、而して藏相が信條として居られましたる所の物價騰貴の抑制と云ふものは、大した効果が現れて居らぬ、而も其の結果は、此處まで持つて來られる迄の経過を見ますと云ふと、豫算の形式の上に於て憲法違反であるとか、或は會計法違反であるとか云ふやうな、重大問題を惹き起して居りまするし、又税制改革の問題は之を他日に残されて、姑息的の臨時租税増徴法案なるものを施行して、國民の負擔の安定を其の間攪亂せしむるやうなことになるのであります、斯う云ふことでありますると云ふと、國民の期待に副ふ所以ではないのではないかと、云ふやうな疑を、世人が起して來ると云ふことも無理もないのでありまして、結城財政の爲に甚だ取らざる所でありませぬ。

思ふに馬場財政の特徴は税制改革と云ふものであつた、其の税制改革なるものは豫算案の根幹を成して居るのであります、豫算案と税制改革案とは兩者不可分の關係にあつたのでありますから、若し豫算案を踏襲するならば税制改革案をも踏襲すべく、若し税制改革案が踏襲が出來ぬと云ふならば、豫算案も踏襲せぬのが當然であるのであり、又それが常識であるのであります、然るに單に豫算案のみを踏襲して、税制改革案を踏襲されなかつたが爲に、そこに色々な矛盾が起り、無理が出て參つたのであらうと思ふのであります、無論其の豫算案に付ても、税制改革案に付ても、各々相當の修正を要するものがあつたのでありませう、ところが豫算案に付ては何等の修正を加へず、何等の變更をも

爲さず、其の儘提出されて後に至つて修正案を出されて居る、又税制改革案は全部之を廢棄されて、別案を提出せられて居ると云ふやうなことになりましたが故に、色々問題を繁くすることになつたのであります。

私は是より項を分つて質問致さうと思ふのでありますが、之に對する御答辯は、此の前の如き綜合的とか云ふやうなことに依つて「カモフラージュ」されるやうな答辯法に依らず、各項に付て一々御答を願ひたいと思ふのであります、就ては甚だ御面倒でございませうが、私のお尋したい事項は十項になつて居ります「メモ」にでも其の項目を豫め書いて置いて戴いた方が都合好いと思ひます、第一は馬場税制改革案の廢棄に付て、第二は臨時租税の増徴に付て、第三は公債と租税との權衡に付て、第四は國防公債に付て、第五は國債の民衆化に付て、第六は將來の財源に付て、第七は直接國税の體系に付て、第八は所得税に付て、其の一は源泉課税、其の二は綜合課税、それから第九は法人資本税、第十は輸出統制税、是だけのことに付て御尋ね申上げたいと思ふのであります、面して最後に結論を申上げたいと思ひます。

第一馬場税制改革案の廢棄に付て 私は馬場財政を辯護するものではないのであります、寧ろ私は馬場財政に對しては、反對の意思を表示して居つたのであります、併し其の税制改革案は所謂革新的精神を取入れて居る所の、進歩したる理想案であると云ふことは見られるのでありまして、私は其

の中より採用すべきものが甚だ少くないと思ふのであります、現内閣は全部之を廢棄されたと云ふことは誠に惜むべきことであります、馬場税制改革案の世間より非難されましたのは、大體に於て理想に走り過ぎて實際に疎い、部分的に見る時には技巧に過ぎて居つて、全體的に見る時分には調和が缺けて居る、又税制の組織が餘りに複雑多岐である、従つてそこに重複も出て來れば矛盾もある、小なる均衡を正さむとして却て大なる不均衡に陥つて居ると云ふやうな、色々な點もあつたやうであります、併し特に人氣の惡かつたのは何であるかと云ふと、増税が高度にして餘りに急激である、又國情に適せざる財産税であるとか、取引税であるとか、輸出税であるとか云ふものを創設することがよくない、更に地方の自治權を無視して、中央地方の財政統制を行ふと云ふことが宜くないと云ふやうな色々な非難もあつたのであります、要するに財界に急激なる變動を與へると云ふこと、餘り行き過ぎた改革であると云ふことが、反對の焦點であつたやうに思ふのであります、それでありませうから若し是等の諸點に能く注意して、其の行き過ぎたる所を矯め其の急激なる所を抑へて、相當な修正を加へましたならばは、立派な税制に私はなつたらうと思ふのであります、政府に於ては之を検討する日時がなかつたと言はれて居りますけれども、新たに斯様な案を編み出すと云ふのであらずして、既に是だけの原案を持つて居る、而もそれには二億圓近くの収入も減らして宜しと云ふ餘裕の付いて居る案であります之を修正することは決して難事ではない、思ひ切つて削るものは削つてやつて行

つても、落着く所には落付き得る案になつて居るのである、でありますから新たに臨時増徴案を作る日時があつたならば、馬場案の検討を爲すことは決してむづかしいことぢやなかつた、若しそれでも日時が足りなかつたと云ふならば、もつと日時を延ばしておやりになつても宜しい、臨時租税増徴法案が提出されてから後になつて、而も十一月も過ぎた後に於て、豫算の修正案が出されて居る、増徴法案が提案されてから十一月も経つた後に於て、豫算の修正案が出されて居ると云ふやうな經過から推して見ましても、此の税制改革案に對する検討の日時が無かつたとはどうも見られぬのであります或は出來ざるにあらず、爲さざるなりと云ふのぢやないかと思はれるのであります。

茲にお尋ね致さなければならぬのは、税制改革案を踏襲しなかつた理由、又はそれを基礎として修正案を作らなかつた理由はどうか云ふ譯であつたのか、税制改革案に對して根本的に方針を異にするものがあつたのであるか、或は部分的に意見を異にするものがあつたのか、若し根本的に其の方針を異にするものがあつたと云ふならば、其の理由を伺ひたい、又部分的に意見を異にするものであつたと云ふならば、其の事項を伺ひたい、兎も角、之に付ては世間に多少の誤解を持つて居る者がありますから、其の誤解を御解きになることも、結城藏相の爲に必ずしも、不得策ぢやないと思ふのでございます。

第二は臨時租税の増徴に付て であります、馬場税制改革案のことは今申した通りであります

翻つて今度政府から提出されました臨時租税増徴法に付て見ますと云ふと、我が經濟界の實情に適せざるものとして、夙に整理改革の必要ありと認められて居る現行税制の上に二億七千萬圓と云ふ大増税を行はんとするのでありますから、負擔の不均衡は益々甚だしくなるのであります、假令一年度限りの暫定的のものであると致しましても、國民の忍ぶ能はざる所のものであります、税制の改革案は次の議會に提出すると言明されて居られますが、元來租税法と云ふものは云ふ迄もなく恒久的のものでなければならぬのであります、一年度限りの税制なんと云ふものは、租税の本質に反するのであります、一年度限りの租税と云ふものは租税ぢやありません、徵發に外ならぬものである、斯様な税制と云ふものが世にあつてはならぬものである、朝令暮改に依つて國民の負擔を變更すると云ふやうなことは、大なる禁物でなければならぬ、斯の如き杜撰な増税を斷行すると云ふことは、藏相が過日財政演説に於て租税の増徴に關し縷々述べられた、あの方針には全く相反するものであると思ひます、一年度限りのものであるから我慢しろと云ふのは甚だ無理である、是が一年度限りでお終ひになつて後に増税と云ふものは無くなると云ふことであるならば、まだしもでありませうが、それが後に税制改革が来るぞ、其の時には増税を續けて行くぞと云ふことになりますと云ふと、其の間國民は租税負擔の不安定の境に彷徨うて居らなければならぬ、何故に斯様な暫定的とか、過渡的とか云ふ様な、臨時増徴などと云ふものをやられたのであるか、私には分らぬのであります、議會開會中の政變に因つて

更迭なされた現内閣とされては、豫算案にしても、増税案にしても、強ひて此の會期に成立をせなければならぬと云ふ絶對の理由も必要もなかつたらうと思ふ、現内閣の爲に圖れば、私は寧ろ此の場合に於て、前の馬場財政と云ふものが宜くないと云ふならば馬場財政の打切なり、其の實現を阻止することに止めて置いて、結城財政の理想を豫算案と税制改革案とに十分に盛込んで、さうして税制の整理と云ふこと、増税と云ふことを同時に行ふ、さうして一日も早く國民負擔の安定を圖ると云ふことが、國家國民の爲に善政となつたのではなからうか、間に暫定的な過渡的な挟みものを置くが爲に、茲に國民に對する不安と云ふものが増大されることになるのであります、而も其の挟みものは今申し通り極めて杜撰なるものである、それは無理もないことでもあります、一體言ふと事務的にも技術的にも、私などは人間業ではさう云ふことが出来なと思ふやうな、さう云ふやうな無理なことをしたものでありますから、遂に不完全なる、不十分なるものを捏つて上げなければならぬと云ふやうなことになつたのであります、其の爲に却て現内閣の爲に善政を施すことが出来ないやうなことに……此の場合です此の問題に限つてとあります、あつたことは言ひませぬ……なりましたことは、現内閣の爲に甚だ惜しまざるを得ないと思ふのであります、之に付ては特に總理大臣からの御所感を伺ひたいのであります。

第三 公債と租税との權衡 是は釣合とでも申しますか、政府は馬場財政を修正されて、前に申し

た通り歳出に於て二億二千四百萬圓を減じ、同時に歳入に於て増稅收入一億九千萬圓、公債收入三千百萬圓と云ふものを減せられた、此の歳出減額の結果を、租稅の收入の減と公債の收入の減とに割振られたのは、何を標準としてなされたのであるか、租稅負擔力の方から先に見られたのか、公債消化力の方から先に見られたのか、或は兩方から見合ふてやられたのであるか、何か其處に目途がなければならぬと思ふのでありますが、どう云ふ標準でどう云ふ目途でそれをおやりになつたのであるか何て見たい、藏相は公債消化力のことには斯う言はれて居る、相當程度發行するも之が消化に懸念なきものと確信すると、而して其の相當程度と云ふ中には、十二億とか十五億とか云ふものも含まれて居るやうに述べられて居る、即ち公債消化力に付ては相當樂觀的な見方をされて居る、之に反して租稅の負擔力のことには、國民としては何人も其の分に應じて擧つて納稅に依つて奉公の誠を効さなければならぬと云ふ御趣意を述べられると同時に、其の租稅の増徴と云ふものが極めて重大なることである、而して其の影響の及ぶ所極めて甚大なるものであると云ふことで増稅のことに付ては寧ろ悲觀的な見方をされて居るやうにあるのであります、私の伺ひたいのは、藏相は一體我が國の租稅負擔力をどう見て居らる、か、又公債消化力と租稅負擔力との「バランス」はどの邊にあると御覽になつて居るのであるか、是等のことは將來の財政計畫を立つる上に於て、極めて重大なることであり常に之を觀測して置く必要があると思ふのであります、それ等を觀測して居られる所はどの邊にある

かそれを伺ひたいのであります。

第四 國防公債に付て 公債は租稅の前拂方法と見ることが出來ます、又租稅は公債の濟し崩し方法であると見ることが出來ます、何れも國民の負擔に歸するのは同一であることは言ふ迄もないのであります、此の公債の消化力に限度があるが如く、國民の負擔力にも自ら限度があります、國家緊急の場合に、茲に國費の増加を要する時に、公債を先にするか、増稅を先にするか、新たに増加したる國費中のどれだけの部分を公債に求むべきか、どれだけの部分を増稅に求むべきかと云ふとは、是は金額の多少其の他内外に於ける客觀的情勢に依つて十分考慮して定めて行かなければならぬこと、思ふのであります、なか／＼むづかしい問題ではあります、茲に私は考へて見てもどうかと思ふのは、此度の國防充實費のやうなものは全く所謂戰時に準すべき國家非常の必要に基くものでありますから、而して將來六、七年に亘る繼續費を見ましただけでも、三十二億以上になつて居ると云ふ巨額を占めて居るのでありますから、之を現代國民の負擔のみに歸するやうなことでは、非常な重荷となりまして、貯蓄は減退し、産業は衰退し國力は疲弊し、財政と經濟との調和を缺き、所謂國防の充實と國民經濟の充實との兩全を得ざることになるのであります、而して此の國防充實費の如きは後世子孫に負擔を分つべき相當な理由のあるものでありますから、其の財源は先づ之を國防公債に依ることとして、此の國防公債には同時に國防増稅を併せ行ひます、國防公債に國防増稅を伴はしめて其の利

拂及償還計畫を樹て、之を別途に整理する方法を考へるのであります。此の方法は往年行はれし海軍公債とは全く性質を異にするものでありまして、利拂及び償還計畫が之に伴つて居るのでありますから、其の整理は確實に行はれます、而してそれに依つて國防充實の安固も期することが出来る而して又直接には急激なる増税の高壓を除くことも出来る、従つて又健全なる産業の發達を期することも出来る、同時に又間接には國防觀念を國民に注入することが出来ること云ふやうな各種の利益も伴ふやうになるのでありますから、此の問題は相當研究の價值あるものと思はれますが、結城藏相は之に對してどう云ふ御考を御持ちになるかそれを伺ひたいのであります。

第五は國債の民衆化に付て であります。此問題に付ては過日、私は藏相に質問したのであります。したが、それに對しては何等の御答辨を得なかつたのであります。然るに結城藏相は過日衆議院に於て、公債民衆化の一方法として、郵便局を通じて一般國民に公債の賣出、買入を行ふ計畫であること云ふことを言明されたと言ふことであります。是は誠に私の意を得た所でありましたので、其計畫に付て尙此處で、詳細と申しましては餘りに過ぎますが、其の概要を伺ふことが出来たならば仕合せと思ひます。過日申しました通り、國債の民衆化を計ると云ふとは、單に國債の消化力と云ふばかりでなしに、色々な意味に於て良き効果があらうと思ふのであります。「フランス」人の愛國心の強いのは公債が「フランス」人を國家に結び付けて居る紐になつて居ると云ふとさへも言はれて居るのであります。

我が國に於ては國債の八割までが銀行其の他の金融機關が持つて居る、一般國民と云ふものは殆ど國債と云ふものを持つて居らぬと云ふやうな現狀でありますから、此の民衆化の方法を積極的に講ずる必要が茲にあらうと思ふのであります。就ては單に郵便局に於て國債の賣出、買入をやると云ふ生温いやうなことではなしに、過日も申しました通り、先づ預金部を公債消化の第一線に立たしめて、郵便貯金を大いに奨勵して其の貯金の一定額、例へば五十圓とか百圓とか云ふものに達したものは國債證券を以て其の貯金に振り替へる途を開いて、同時に其の國債證券は何時にても、資金化することが出来るやうに便宜な方法を考へて郵便局をして直ちにそれを買ひ取らしめるやうなことにするのが一番便利であると思ふさう致したならば、國民一般が茲に財政上の理解を持ち、同時に民衆が國債を持つて居ると云ふことに付て、是は愛國心の發露であること云ふ其の衿持心を持たしめることにもなり、非常に利益する所が多からうと思はれるのであります。殊に一般民衆は銀行等の金融機關とは異なつて利廻り勘定と云ふやうなことには餘り敏感でありませぬから、厘毛の利廻り勘定が悪くなつたからと云ふて、直ちに其の國債を市場に賣り出して、市價を攪亂するやうな虞もないのであります。従つて浮動國債と云ふものを防止する一つの助けにもならうと思ふのでありますから、一つ大いに御考へて願ひたいと思ふのであります。藏相の御意見を御尋ねするのであります。

第六は將來の財源に付て 財政計畫のない財政は誠に困つたものでございます。併し藏相には將來

の見透しが付かないから財政計畫の樹てやうがない、斯う言はれるので、これ以上申上げることも出来ませぬが、唯此處では其の不満足の意を表して置く外致し方ないと思ひます、但し是から増税案の審議を進めるに當りましては、どうしても伺つて置かなければならぬことがあると云ふのは、將來に對する増税計畫はどうなつて居るか、一般の財政計畫は御樹てになることがむづかしいとしても、此の増税計畫と云ふものに付てはどう云ふ御考を持つて居るかと云ふことを伺つて居らぬと見當が付かぬと云ふことになるのであります、次に行はるべき税制改革の場合に於ては、今回臨時増税されたもの及びあの新税として創設されたものを合せて約二億七千萬圓ばかりになるやうであります、此の上は尙増税をなさる目的であるか、或は減税をなさる目的であるか、或は又収入の増減を來さざることを目標としてやる積りであるか、何かそこに御見當があるだらうと思ひます、それから又馬場前藏相は、將來五、六年の間は増税の必要無かるべしと云ふことを言はれて居つたが、是は結城藏相も同様か、其の邊も伺つて見たい、次に將來の財源に付ては、單に増税財源と云ふのみならず、色々な方面も考へて行かなければならぬと思ふ、先づ第一には、歳出を削減すると云ふこと、是は最も有力なる一方法であると思ひますが、藏相は既に一部行はれたのであります、日時の關係上、既定經費には一切手を御觸れにならなかつたと云ふことであります、何れ是は後年度に於て實行せらるべきものと

信ずるのであります、之をやられるに付いて一體如何なる方法を以てなさる御積りであるか、例へば行政機構の改革と相俟つてやるとか、或は調査會を設けて能く調査研究してやるとか、何等かそこに考案を持つて居らるゝことであらうと思ひますが、如何でございますか、それから又租税の外に、例へば國營又は官營制度の擴充に依つて國庫の收入を上ぐると云ふ方法も考へられなければならぬ、煙草の値上は既に實行され、郵便料の引上も將に實行せられむとして居りますが、他日に備ふる爲に有力な財源を考へて置くことと云ふことは、之は是非必要なことであらうと思ふ、今日に於て將來を思ふ時、何か此處に有力なる財源がなければならぬと云ふことを覺悟して、それに對する用意をし、それに對する研究調査をして、之を保留して居ると云ふことが大事なことであらうと思ひます、それらに付てはどう云ふ御考をお持ちであるか伺ひたい。

第七には、直接國税の體系に關すること 其の直接國税の體系は御承知の通り、所得税を中樞として、國税たる地租、營業收益税、資本利子税と、地方税たる家屋税とより成る所の収益税を以て之を補完することになつて居ります、然るに前内閣の税制改革案に於きましては、地方税たる家屋税を國税に引上げ、さうして直接國税の體系を整へ、更に其の上に財産税を創設して、第二次的に之を補完せしむることになつて居つたのであります、私思ふに、直接税の體系を整ふる爲に、今まで地方税であつた家屋税を國税に移管して來ねばならぬと云ふ理由には甚だ乏しいと思ひます、従前のやうに、

地方の財政、中央の財政と云ふものが全く没交渉の如き状態の時は格別であります。將來大いに中央地方の税制を通じて之を整理して、中央及地方の間の緊密なる協調を保たしめむとして居る今日に於て、家屋税を何も今地方税から國税に移管せぬければ、所得税に對する補完の作用を爲さしむることが出来ない。云ふやうなものではないと思ふのであります。若し家屋税が地方税の財源として必要であると云ふならば、それは其の儘に差し置いて、以て國税たる地租及營業收益税等相俟つて、所得税を補完せしむるに於て、何等差支ないと思ふのであります。又所得税を第二次的に補完せしむる爲に、財産税を創設すると云ふことに至つては、全く私は其の理由を解することが出来ないものであります。所得税を補完するには収益税があればそれで澤山だ、収益税を以て補完せしめた外に、更に財産税を以て第二次的に補完せしめると云ふやうなことは、是は蛇足であるばかりぢやない、寧ろ弊害がある、さう云ふ例はどこを尋ねても、外國にも例はありません。元來収益税と云ふものは所得税を補完するが故に存在の意義がある、収益税は何であるか、所得税を補完することが目的である、若し其の補完の作用を爲さないやうな収益税があつたならば、それは其の機能を發揮せしむることが出来るやうに適當な改正を加ふるが宜い、茲に我が國情に適せざる、而も頗る人氣の悪い財産税を所得税補完の爲なりと稱して、之を新設すると云ふやうなことは甚だ面白くないことであると思ふのであります。此の問題は何れ此の税制改革の場合に於ても考へなければならぬ問題と思ひますから、直接國税

體系に付ての自分の考を申述べると同時に、藏相の御考をも伺ひたいのであります。

第八 所得税に付て

其の一が源泉課税のことです。所得税は直接税の中樞でありますから、何處までも一般所得税主義で進んで行かなければならぬと思ひます。即ち綜合課税にすることが原則であつて、源泉課税と云ふことは變則である、それ故に課税技術上から或は其の他の理由から源泉課税を爲す場合がありと致しましても、綜合課税と、源泉課税との重複はどうしても避けなければならぬ、法人と個人との負擔均衡と云ふことが此の頃やかましくなつて居りますが、此の問題を論ずるに當つても、此の考の基礎は持つて居らなければならぬのであります。本來第一種所得税、即ち法人課税と云ふのは、法人を個人の營利手段としての集合體と見て、法人から個人の受くる配當に對する源泉課税の方法として制定されたものであつたのであります。然るに先年法人より個人の受くる配當に對して綜合課税をする。と云ふことに改正されました時、法人課税、即ち第一種所得税と云ふものが、其の儘形を残して居つたと云ふ時に初めて此の法人と云ふものをば獨立經濟の主體として見ると云ふ主義が吹込まれたのであります。従つて茲に獨立したる法人の課税と云ふものが存在することになつたのであります。法人の實在説とか、擬制説とか、色々な學説はごうありまして、兎に角も實體から之を見ますと云ふと、個人が出資して法人を組織するのでありますから、出資者の財産と法人の財産と二つの財産が

ある釋ではない、従つて財産より生じた法人の所得と云ふものは、個人に配當すべき所得であつて其の外にはない、従つて個人に配當すべき所得であるから、法人に於て此の資金を活動させる譯にいかない、さう云ふものでありますから、其の配當を受けたる所得に對して、個人に綜合課税する以上は法人に課税すると致しましても、法人が法人たるが故に、詰り法人たる機能に依つて、個人としてよりも有利な條件を以て經營することが出来る、従つてそこに幾分の擔税力を増すと云ふ、其の觀點以上には課税する理由はないのであります、法人には擔税力ありと人が言ひます、それは擔税力ありと云ふのは私から言ひますと、それは正確な意味ではない、擔税力あるのぢやない、徵税力がある、其處に未だ配當せざる所得が残つて居るから取引いと云ふので、擔税力ではない徵税力があると云ふことが寧ろ正解であると思ふのであります、人の言ふ法人は擔税力を持つて居ると云ふのが、今申したやうに個人に配當する其の所得のあるのを目指して言つて居るのであります、それでありませうから法人に對して餘り重税を課すると云ふことになりませうと云ふと、重複課税の弊と云ふものが甚だ大きくなるのであります、のみならず法人事業の發達を妨げ、産業の發達も妨げられると云ふことになるのであります、既に其の徵候がぼつ／＼見えて來て居るのであります、又第二種所得税を綜合課税と致しますことは、是は理想に向つて進むものであるとして私共大いに喜んで居つたのであります、遂に挫折致しましたことは甚だ残念であります、殊に社債に軽く課税し、株式に重く課税すると云ふ

ことは、法人の基礎を堅實ならしむる所以ぢやないのであります、是は藏相も御承知かも知れませぬが會て東京商工會議所の決議、更に進んで日本商工會議所の決議となつて政府に建議されて居る筈であります。

其二、綜合課税 第三種所得課税に付て考へなければならぬのは、所得算出の方法であります、現行所得税の體型は……形は、舊體依然特別所得税の集合體となつて居ります、一般所得税たるの體型になつて居りませぬから、其の體型の儘で綜合課税を行ふと云ふことになりませうと云ふと、而してそれを強化すると云ふことになりませうと云ふと、種々なる不合理を生じ、課税が重くなれば重くなる程負擔の不均衡を増大ならしむることになるのであります、即ち現行法に於ては、各所得事項毎に所得を算出することになつて居ります、それでありませうから甲の所得事項に所得がありますと、乙の所得事項にどんな損があつても、甲の所得事項に所得ある以上は、乙の所得事項に損が多くありませうと、其の損のあることは全く見ませぬで、甲の方の所得ある其のものに對して課税されると云ふのが現行法であります、それでありませうから個人の全體計算から見ますと云ふと、全く所得のない者までも課税されると云ふことになつて居る、こんな不合理が一體有りやうのない筈であります、そこで綜合課税と云ふものを是から強化することが必要であります、それと同時に此の所得の算出方法と云ふものを大いに改めて、各種の所得事項の損も得もそれを個人經濟を單位としてそこに集めて、さ

うして其の上に利益があり、所得があると云ふ場合に課税し、損がある場合には課税せぬと云ふことにならなければならぬと思ふのであります、従つて借金をして利息を拂ふものがありましたならば、其原因如何を問はず之を所得から控除すると云ふことにならなければならぬのであります、私は先年所得税改正の際から此の説を唱へて居りますが未だ採用にはなつて居らぬのであります、其の政府の反對する理由は、課税技術上困難である、或は租税の収入を減ずるからと云ふことであります、課税技術上困難であると申しましても左程のことがあらうとは考へませぬ、是が各所得事項毎に所得を計算する場合に於て、或は借りた金を何に使つたと云ふやうなことの區分がむづかしいやうなことがありませうけれども、茲に個人經濟を全體計算として所得を算出すると云ふやうなことになるならば、借りた金は何に使はうとそれは構はぬ、唯借りもせぬ金を借りたと云ふことがありはしないかと云ふことを心配されたであらうと思ひますが、借りて利息を拂へば、一方には貸して利息を取つた者がある、貸して利息を取つた者は是は所得税が課せられることになりすから、貸さぬものを貸したと云ふことを言ふ者はないのであります、自らそこに牽制されて調査はそれ程むづかしいものであると思ひませぬ、大藏省では現に借金の利息は、所得を得るに必要な経費として之を控除することになつて居ると言はれて居りますけれども、實際は決して行はれて居りませぬ、凡そ負擔の均衡不均衡の問題があると致しましたならば、左様にして損のあるものに課税すると云ふやうなものは、

先づ第一に改めて行かなければならぬと思ふ、収入が減つて困ると云ふやうなこと、それは一つの財政上の理由であります、今や税制の根本的改革を行ふと云ふ場合に於て、斯様なことを考へることは、少しも理由をなさぬと思ふのであります、此のことに付て藏相の御考を伺つて置いたならば、大變都合が宜しいと思ひます。

第九には法人資本税に付て であります、前内閣の税制改革案の新税の中には、我が國情に適しないものが多かつたのであります、其の中の財産税と取引税と輸出税、是は私は略して二つを含めて申して置きます、貿易統計税と輸出統制税と、是が其の最たるものであります、現内閣に於ては取引税は全然之を廢棄された、但し財産税に付ては、個人に對するものは止めたが、法人に對しては之を行ふそれから輸出税に付ては、統計税の方は止めたが、統制税の方は之を行ふ、斯う云ふことになつて其の一部を採用されることになる私は今一部を……其の採用された二つの税に付て政府の御考を聽きたいのです、財産税の我が國情に適せざる悪税であると云ふことは、殆ど定評があります、財産税は弾力性ありと申しますけれども、若し其の税率が輕微なるものであるならば、税制に弾力性を與ふる力がありませぬ、若し税制に弾力性を與ふる程度に高率に致しましたならば、それは直ちに資本の元本を侵蝕することになるのであります、其の爲に財産税は官民の間に色々な紛擾を醸し、又不動産重課の弊に陥る、既に各國の例に照して見ても明かなことであります、然るに現内閣が個人に對する財

産税を認めなかつたに拘らず、法人に對しては其の名を變へて、資本税と稱して其の實法人財産税を設けられた、茲に甚だしき矛盾がある、何處に課税物權の上に、又課税原理の上に、違ふところがあるか、結城案の第四條と、馬場案の第四條とを比べて見ると、何處にも違ひがない、政府委員は法人資本税は積立金に對する課税であるから、財産税ではない資本税であると説明された云ふことが新聞にありましたが、是はさう云ふ意味であるか分らない、名前こそ財産税と言はないで、資本税と言はれて居るけれども、實際拂込資本金と積立金とに課税すると云ふ財産税に外ならぬのであります、何處に其の違つた所があるか、一向分りませぬ、要するに個人に對する財産税を廢棄しながら、法人に對する財産税を認められたと云ふことは、さう云ふことであるかと云ふことを御伺ひ致したいのであります。

第十は輸出統制税に付て であります、私は之に付ても疑があるのであります、現内閣は貿易統計税を棄て、輸出統制税を採られたが、一つを採つて一つを棄てられた其の理由が分らない、輸出統制税の方は、現在輸出組合が徴収して居る手数料を租税化したに外ならぬのだと云ふことも言はれて居るやうであります、政府の説明に依れば、本税創設の理由は外國貿易の進展を爲るに必要なる經費に充つる爲にするのだと云ふのであつて、本税は所謂目的税と稱するものであります、抑も外國貿易の進展を爲る施設に要する經費の如きは當然國家の一般經費として支出すべきものであつて、輸出

の統制を圖ると云ふことも固より國家貿易上の政策に外ならぬのでありますから、其の經費に充つる目的を以て特別の租税を設けて、其の収入の限度に於て其の施設を行ふとか、或は其の収入の用途を之に限定すると云ふやうなことは、租税の原則に反するばかりではなく財政の本質にも反し、會計法の精神にも反するものと思はれる、財政制度の備つた今日に於て、斯様な時代後れの目的税を創設すると云ふ其の精神が分らぬのであります、又輸出品に對して課税するのは如何なる名義を以てするに拘らず、其の手續の上に、其の負擔の上に、輸出貿易を阻礙するものと思ふのであります、政府に於ては輸出品に對する負擔は外に於て之を轉嫁することが出来る、それであるから輸出業者、或は其の製造者の負擔にはならぬと言はれて居るやうであります、それは時と場所に依つて違ふことにならうと思ふのであります、内に向つてそれが轉嫁することの多きことを思はなければならぬのであります、大藏大臣は輸出品に對して課税するのではなくて、統制に對して課税するのだ、斯う説明された是も新聞にあります、統制に對して課税するのだと云ふことになると、統制を阻止することになりますから、何かの言葉の違ひだらうと思ひます、要するに輸出品に課税して、其の輸出に支障なしとはどうしても信することは出来ないであります、物品の如何を問はず、主義として是は如何なるものであらうかと思ふのであります、貿易伸張の大方針に背馳するものぢやないかと思ふのであります、之に付ての御考を伺ひます。

終りに臨んで一言致しますのは、臨時租税増徴法案は二月の十五日衆議院に提出されました、衆議院にあること三十二日間であります、而して昨日漸く其の決議を経たと云ふので、本院に送附されて今日茲に上程されることになった、衆議院が如何に本案を重要問題として鄭重に取扱はれたかは之に依つて分るのであります、本院に於ても大いに茲に省みる必要があらうと思ひます、又衆議院は本案に對して三四修正の意嚮であつたらしいのでありますが、政府が之に反對の態度を執られた、其の爲に其の折衝に日時を費しまして、數日間其の決議が遅れて居ると云ふことも事實のやうであります、而して其の政府と衆議院との間の争點は何處にあつたかと申しますと云ふと、租税理論と云ふやうなむづかしい問題でなくて、唯收入の減少が百五十萬圓ある、其の百五十萬圓が減つては困ると云ふ、其處に論點があつたやうであります、私は實は衆議院の修正なるものもつと大きな目ぼしいものがあるだらうと思ふて居つたのでありますが、存外根本に觸れたものと云ふものは殆どなく、極めて微細な點に於て修正されて居るのでありますから、此の程度の修正であつたならば、殆どあつてもなくとも、そんなに政府も衆議院も力瘤を入れて争ふ程のものぢやないのではないが、交付金に三千萬圓を抛げ出された雅量があり、それから考へても何でもない、而も百五十萬圓は關税を合せた方の増税額から推せば、三億圓に對する僅か百五十萬圓、二百分の一、所謂九牛の一毛とは斯う云ふことを言ふ斯様な問題の爲に三四日も費して、貴族院に送付することが遅れたと云ふのは、どうも何とも云ひ

やうがない不手際なことぢやないかと思ふ、況して四千六百萬圓の使用見合せと云ふ財源を持つて居る此の財政……、三十二日間もせつせと衆議院に於て慎重審議した結果であるならば其の位のもの大いに尊重されて、あつさりと同意されても宜かつたのではないか、是が所謂政治的解決と云ふものであるだらうと思ふ、それに何んぢや、政府側から修正に依る收入減を補填する爲に、租税の遡及力を及ぼすやうな問題を掲げて、交換に出したとかそれで勿ねられたとか、餘りにみつともない話である又政府は衆議院に於て修正に對する替否の態度を表明しないで、貴族院に於ける善處に俟つ方針であるとか、傳へられて居る、何のことであるか分らぬのであります、如何にも餘りに小策を弄するやうなやり方に見えるのは現内閣の爲に甚だ取らぬと思ひます、此のことに關しては特に總理大臣の御答辯を煩します。

以上の質問に對して大藏大臣は次の如く答辯せられた。

大藏大臣 結城豊太郎君

菅原君の御質問に對して御答を申し上げます、第一は前内閣の税制改革を廢棄したことに付ての御尋であります、前内閣の税制にも缺點はあるが、それを補修して行けば立派な財政と思ふがそれを廢棄すると云ふことはどう云ふ考であるかと云ふお尋でありました、私は廢棄と云ふのは形の上だらうと思ふのであります、一應は撤回しまして、今度は新しい臨時増税案を提出致しました次第であります

前内閣に於ても此の國費の歴大に連れまして、増税の已むを得ぬと云ふことから非常に研究を致しまして、理論的に於ては實に正しい税制案が出来たと私は思ふのであります、併しながら御説にもありましたやうに、それは日本の經濟界の實情に幾らか副はぬ所がありますので、従つて前内閣の案が發表されました時に、世の中に色々な議論もあり、又不安も起つたのであります、それで現内閣と致しましてはそれ等の世論にも聴き、成るべく摩擦の無いことを努めました、今回の案に於て出来る限り、其の邊のことを考慮を拂つた積りであります、決して前内閣の案を何も彼も棄て、新しくやつたと云ふのぢやありません、非常にあれが参考になつたと云ふことを申上げて置きたいと思ふのであります、第二は臨時増税に付き、詰り臨時と云ふやうなことでなしに、出来るならば恒久的根本的に改革案を出すべきではないかと云ふ御趣旨と思ひますが誠に御尤もであります、併しながら何分にも議會開會中に内閣の更迭がありましたので、全く其の検討の違が無かつたのであります、一面には財政の現状は増税を更に一箇年延ばすと云ふやうなことを許しませぬので、政府は短時日であります、其の間に出來得るだけの努力を致しまして、此の案を作成致しましたのであります、暫定的なものではあります、事苟も國民の負擔に關するのでありますから、さう杜撰なものを出したと云ふやうな積りは毛頭ないのであります、第三に公債と租税との權衡に付て御尋がありました、如何なる標準に依つて公債と増税との割合を決定したかと云ふ御尋でありましたが只今のやう

な歳出を賄つて行きますには出来るだけ公債、即ち借金に依らぬで普通歳入に依つて賄つて行きたいのであります、國民の負擔力と云ふことを一面に考へねばなりません、又今度に致しましても二億七千萬圓と云ふ増徴は非常な増徴でありまして、其の邊から考へて是れ以上のことは租税の増徴に俟つことは無理である、已むを得ませぬのでその不足を公債に俟つことに致しましたやうな次第であります、それならば國民の租税の負擔力がどう云ふ所が限度であるか、程度であるか、斯う云ふ御尋になりますと、國民經濟の發展を阻害しないと云ふ見極めの付く程度であらうと思ふのであります、今度の租税増徴は其の程度を眼目と致しまして、あとの不足を公債の増發に俟つた次第であります、第四に國防公債に付ての御尋でありましたが、一朝事が有つた場合には、是はもう申すまでもありません、只今の情勢は誠に多事であると申しながら、之を準戰時であるとか云ふ様なことを申しまして、餘りに非常時を叫ぶこともどうか考へられますので、今直ちに國防公債と云ふやうなものを募りまして、それ等に依つて賄ふと云ふことは考へものであらうと思ふのであります、國防費に付きましては御意見も誠に傾聴すべきものがあると思ふのであります、矢張り是は綜合的に考へた方が宜いのぢやないかと思ふのであります、第五に國債の民衆化に付きましての御尋であります、是は只今の我が國の情勢から申しまして、一面に於ては國民の貯蓄力と云ふものを増加せしむることが大切な政策でありますので、又國債の民衆化と云ふことから、御意見の通り國民に成るべく國債を

持つて貰ふ習慣を付けます意味に於て、郵便局から賣出すことに致しました次第であります、第六に將來の財源に付て御尋でありましたが、是は主として將來の増税計畫に付ての御尋と存じます、是は矢張り税を負擔する階級、主として産業界の芽を摘むとか、或は根を枯らすことのないやうに注意することが必要であらうと思ふのであります、税制の整理に付きましては、嘗て申上げましたやうに、此の中央地方を通じまして、税制の整理を速かに致したいと存じて居る次第でありまして、それには負擔の均衡、衡平と云ふ様な點から整理を致しまするので、增收を目的としての税制の整理ではないのであります、同時に行政費の節約もやる氣がないか、斯う云ふお話であります、是は出来るだけ努めたいと思つて居ります、又國營官營の業務の擴充或は整理等に付ても研究する所ないかと云ふ御尋であります、是等に付きましては十分に研究する必要があらうと思ふのであります、第七には直接國税の體系に付ての御話でありました、所得税を補完する爲には収益税を以てすれば足るのであつて財産税と云ふやうなものは必要でない、此の點に付ては私も御同感であります、體系に付ての御意見は誠に参考になるものが多いのでありますので十分に其の邊を考慮致しまして、中央地方の財政の整理を致したいと考へて居る次第であります、第八には所得税に付ての御意見がありました、源泉課税、又綜合課税、法人課税、個人課税に付て種々御意見の點は、誠に御尤なることが多いと思ふのであります、十分に御意見の點を參酌致しまして、税制の整理に當りたいと存じて居ります、

第九には法人資本税のことに付き御尋でありましたが、個人の財産税は御話の通り、我が國情に適しない、官民の摩擦を招く、不動産に傾く、斯う云ふことに付ては私も至極御同感であります、さう云ふ考から今回見合せましたやうな次第でありまして、唯法人の資本税に付きましては、是は御話の通り積立金に對する課税でありまして、只今は個人の財産税に付ての障礙を齎らすやうなことはないのであります、同時に徵税の上に於ても實行が甚だ容易でありますので、是は設けることに致しました次第であります。

終りに輸出統制税のことに付きましての御尋であります、是は法律案にも掲げて置きましたやうに、輸出に對する税金、輸出を阻碍するやうな爲に設けた税金と云ふのでは毛頭ないのであります、寧ろ日本の輸出を振興する爲には、色々調節をし、統制をして行かなければならぬことが多いのであります、それで比較的輸出力の旺盛なる品目、只今は六品目を選択を致しました次第であります、それ等のものに課税致しますることになると、是は海外に於て轉嫁することが出来るので、何も輸出業者の負擔になる其の税金で以て、色々輸出の調節をする用に立つのであります、此の税を設けましたやうな次第でありまして、輸出振興の一助にもならうと、斯う云ふ意味合から設けました次第であります、御答申上げます。

豫算委員會の経過並に結果

豫算委員長 伯爵林博太郎君

豫算委員會の經過並に結果の概要を御報告致します。

衆議院に於て可決して本院に送付せられました昭和十二年度歳入歳出總豫算の金額は、歳入歳出共に

二十八億一千三百九十餘萬圓であります、當初衆議院に提出されたものに比しまして、歳入歳出共に二億二千四百六十餘萬圓の減額となつて居ります、之を前年度の實行豫算に比べますれば、歳入に於て五億八百三十餘萬圓、歳出に於て五億二百四十餘萬圓の増加となつて居ります、先づ歳入豫算に於て大體を申しますと、普通歳入は經常部に於て十八億一千四百六十餘萬圓、臨時部に於て二億二千八百四十餘萬圓、合計二十億四千三百十餘萬圓となりまして、前内閣の編成しました豫算に比し、經常部に於て二億三十餘萬圓を減少してあります、臨時部に於て七百二十餘萬圓を増加してあります、差引一億九千三百餘萬圓の減少となりますが、之を前年度實行豫算に比較しますれば、經常部に於て三億六千四百六十餘萬圓、臨時部に於て七千六百七十餘萬圓、合計四億四千三百三十餘萬圓の増加となつて居ります、此の増加は主として臨時租税増徴新税創設、其の他の増收計畫に基くものであります、臨時租税増徴並に新税創設に依る増加二億六千九百五十餘萬圓、製造煙草賣渡價格の改正に依る増加二千五百四十餘萬圓、特別會計より一般財源受入六千七百八十餘萬圓、合計三億六千二百九十餘萬圓、此の外關稅改正等に依る増加二千二百五十餘萬圓であります、尙公債金収入は七億七千八十餘萬圓で

ありまして、前内閣の豫定額に比し、三千百六十餘萬圓の減少となりますが、前年度實行豫算額に比較致しますと六千六百九十餘萬圓の増加であります、歳出豫算は經常部十四億六千二百七十餘萬圓、臨時部十三億五千二百十餘萬圓、合計二十八億千三百九十餘萬圓でありまして、前内閣の編成せる豫算に比べますと、經常部に於て二億三千八百十餘萬圓減じ、臨時部に於て千三百五十餘萬圓を増して居りますので、差引二億二千四百六十餘萬圓の減少となります、前年度實行豫算額に比べますれば、經常部に於て一億百九十餘萬圓、臨時部に於て四億四十餘萬圓、合計五億二百四十餘萬圓の増加となつて居ります、政府は今回の豫算の修正に當りましては、最近に於ける物價騰貴の情勢に鑑みまして政府の物資需要の増加を抑制し之に伴つて民間物資の需要をも緩和すると云ふ趣旨に依りまして、其の歳出豫算に於て再検討を爲すと共に産業の振興、國民生活の安定に關する事項に付ては、出来るだけ其の趣旨を尊重する方針を執つたと申して居ります、地方財政に關しましては、中央地方を通ずる税制並に財政の全般に亘りまして更に検討考究する必要がありと致し、前内閣の計畫した地方財政調整金は此際取止めまして、別に農山漁村の負擔輕減の爲に應急の措置として、本豫算中に臨時地方財政補給金七千萬圓を計上してあります、尙陸海軍兩省所管の經費に付ては、前内閣の編成したものに對し何等の修正を致してはありませぬけれども、政府の説明によりますと、其の實行に當り各々二千三百萬圓を下らざる金額の使用を見合せむとする決心であるとのことでありまして、次に各特別會計に

於ける公債の發行豫定額は一億四千三百萬圓でありまして、前内閣の豫定額に比し、千二百萬圓の減少となりますが、前年度實行豫算の豫定額に比し、五千九百三十餘萬圓の増加になつて居ります、今一般會計及特別會計を通じて申し上げますと昭和十二年度の公債發行豫定額九億千三百八十餘萬圓、前内閣に於ける豫定額九億五千七百四十餘萬圓に比べ、四千三百六十餘萬圓の減少と相成つて居りますが、之を前年度實行豫算の豫定額に比較しますれば、一億二千六百三十餘萬圓の増加となつて居ります是より質問應答の概要を申し上げます。

第一、庶政一新に付て、人心の不安は今日より甚だしきものはないのである、殊に下剋上と云ふことが流行して居るのでありまして、従つて國民禮法と云ふものを兎角辨へない嫌がある、政府は國民禮法を規定する意思はないか、之に對して首相は、第一に、國防の充實、國防の充實とは之を甲、乙、丙、丁に分けますと、甲は軍備の充實、乙は國家總動員の準備、丙は國民生活安定、丁は國民精神の昂揚、是が國防の充實である、第二には、國防の發展、第三には國體の眞姿顯現、此の三者を原則として我々は大いにやらなければならないものであります、之を原則として、庶政一新、行政機構の形式を考へます、併しながら未だ結論には達して居りませぬ、是は篤と研究して其の實現を期する積りであると云ふ答辯であります。

又國民に對して國防と申しますと、兎角此の軍備の整備と云ふやうな意味に於ける物質的國防を謂ふのであるが、實は其の前に精神的國防と云ふものがなければならぬ、狹義の國防、即ち軍備の國防に對し精神的國防と云ふのは何であるか、と云ふと即ち軍民一致、官民一致、此の非常時を克服する所の愛國的精神に満ちて、互に對立を克服して行かなければならぬ所の精神的統一が必要である然るに不祥事の續發はごうでありますか、是等は悉く精神的國防の缺陷より生ずるものである、而も此の缺陷あるに乗じて、或は愛國の假面を被つて、益々反國體的思想が横行する機會を與へつゝあるのは誠に奇怪である、之に對して政府の所信はごうであるか、との問に對し、先づ陸相より軍に於きましては、日夜御勅語、御勅諭を奉體させるのである、之に依つて入つては良兵となり、出でては良民となる所の教養に努めて居ります、海相は曰く、軍隊を教育するに當りては、寧ろ明かに今日迄の「コンミニュニズム」の概要を話して、以て益々我が國體の精華を體得せしむると云ふことに努めて居ります、此の故に海軍に於きましては、何等此の點に付てびく／＼する必要はないと云ふ確信を持つて居ることでありまして、首相は精神的國防は誠に必要なことである、是が今日此の點に於て缺陷あるは頗る寒心に堪へない、又遺憾に堪へない次第である、我が國の特色を十分確保せしむることは此の際必要なことである、之に依つて外來思想に穢されざるやう、大いに國民を戒めなければならぬ、特に滿洲事變を以て侵略であると云ふやうなことは、我が國の道義的皇道を知らない爲に起つて來るのである、口舌の論でなく、實に依つて現して行くならば、世界は我が皇道精神の尊ぶべきこと

を知る時が必ず来るであらうと云ふ答辯であります。

肅軍のことに付ての質問に、海相よりの答辯を申しますと、軍紀と云ふものは、軍紀の紀と云ふのは是は織物であつて、織物は縦と横との絲の調和に依つて出来るものである、畏れ多くも大元帥陛下の聖旨を奉體し、之を尊重することは緯である、職責尊重は經である、此の經緯が聚つて軍紀の紀を爲す所以であります、斯う云ふ答辯であります。

軍民一致と云ふことは極めて必要であるが、兎角此の頃は下剋上と云ふ噂がある、是は國防に對して大なる支障を及すものであるが、此の所信はどうであるか、陸相は軍民が不一致とは考へて居りませぬ、軍民不一致と云ふことを世間では故意に言ふ者があるのは、國家の爲に誠に憂ふべきことである、有識者は此の點に付て憂へて下さるのは感謝する所であります、益々軍民一體の實を擧げて時難を克服すべき秋であります、軍は此の信念を以て指導を致して居る。

地方行政機構を改善して、全國畫一の弊と中央集權、此の兩者の弊を矯正する必要はないか、之に對して内相は、地方制度調査會を設けることになつて居る、自治と云ふことは形式的でなくして、實質的からも發達をさせなければならぬ客觀的に形式的に議決したものを直ぐ正しいと云ふことにはないで、自治體の意思表示自體が主觀的精神的に正當であるやうに指導したいと思つて居る、中央地方は相並び、何事も中央に依存すると云ふ風を矯正して行かなければ自治體は發展しない、斯くの如

くにして堅實に自治體を發展させたいのである。

内政 之に付きまして治山、治水と云ふ問題が縦横に論せられました、山中の賊を平ぐるは易く、心中の賊を平ぐるは難しと云ふ古語がある、國防問題を山中の賊とすれば天災は心中の賊である、天災は豫知することが出来ない所に特色がある、明日起るかも知れない、昭和九年十年の風水害の時には十億圓も掛つて居る、内務當局も、農林當局も末流を治むるに止つて、肝腎なる上流の砂防工事等を閑視すると云ふのは如何なることでありませうか、今日のやうな政府の施設を待つて居つては、百年河清を待つものである、昨年第三分科の希望決議を承知して居るかと云ふ質問に對して政府は、現内閣の先づ爲すべきことは人心の安定と云ふことが第一である、人心が安定するのには物價の騰貴を抑へなければならぬ、それでありますから大局から豫算の減額をしなければならなくなつた、農相も之に對しまして、大局上節減した次第であつて、先づ急を要するものに差向けて、其の外は繰延べると云ふことから一億圓を希望したけれども、とうとう八千萬圓で折合つた、併し是は政府に於ても將來十分に考へると云ふことであります。

次に政府の東北振興策は頗る手緩い、積極的にもつと熱心に遂行する意思はないかと、その間に對しては東北振興は昭和九年に内務省の重要國策に數へられたのである、現内閣に於ても其の方針に變りはない、第一に綜合計畫は全面的には認めるが、豫算の上には幾らか變つて居るかも知れぬ、重大

なことであるから出来るだけ尊重して盡して見たい、第一期綜合計畫として六千萬圓が調査會で決定されたのであるが、國防充實で國費尨大を來し、前内閣の時不本意ながら二千三百七十萬圓に削減し現内閣は更に三百萬圓を繰延べることにしたのは、現在の經濟力に副はぬものがあり、又物價騰貴の惡影響を來し爲に已むを得ず繰延をした次第であつて決して忽にする意思はないのであると述べられました。

外交 對支外交は廣田首相が岡田内閣以來局に當つて所謂三大原則を立てたのである、我々は之に期待して居つた、然るに派生的に色々な事件が発生して、近頃外交失敗の聲を聞くのである、此の外交は精神は良かったが、運用が悪かつた爲に、斯くの如き状態になつたのである、今日外交一元化と云ふことを言ふが、それはどう云ふことであらうか、支那の現状はどうであるか、新聞によると、或は司令官が外交の聲明をしたり、軍事の機關で外交に當つて居るやうにも見えるのである、外交は總て外務省が一元的にやつたらどうであるか、之に對して外相は、關係各省と十分協議をして、一度其の方針が決した場合には之を以て外務省が終始する、現内閣當初の聲明通り舉國一致の外交政策に依つて外交當局でやることになつて居ります、首相は先づ國際正義に則り、而して其の後に國防軍備のことを言ふのである、國防第一とは申さない、拔身を突き付けることは面白くない、であるから二月八日の政綱發表に「萬邦の共榮を具現せしむるの目的を以て舉國一致の外交國策を遂行し、國際關係

を明暢ならしむることを期す」と申したのである、之れ我が外交の精神でなければならぬ、國防の充實には好戰的の意思を持つては居りませぬ、帝國の安泰を圖るが爲のみである、世間が之を好戰的に解釋することが誠に不思議である、又陸相は、舉國一致の外交に付ては陸軍も異存がない、唯一言したいことは、最近數年間の支那は全く混沌状態にある、色々な計畫の實行に伴ひ協定が出來、是等の協定の實行に當りましては、情況に依つては直接局に當る者が處置を執ることは今日の場合已むを得ない、勿論軍司令官自體單獨にやるものではありません、重要問題に付ては出先に於ても中央當局の承認を経て實行をすることになつて居ります。

「ソ」聯の關係に付ての質問に對しては誤解を一掃し、懸案を解決し、兩國々交の調節、現下の不安状態を除くことに努めると云ふことであります。

教育問題 明治以來教育は山村僻地迄普及して居る、但し他面より見ると先年は教育疑獄が起つた兵庫縣の視學の如きは殆ど全滅の状態であつた、赤化事件もある、政府の組閣の當初立派に政綱を發表されたのであるが、其の施政方針中に教育問題を少しも書いてないのはどうであるか、義務教育延長は如何、平生前文相が職を賭して迄義務教育八年制を計畫し、十三年度より實施する爲に若干を計上した、それを今度削除してしまつた、義務教育延長は明治初年以來の教育の沿革に依りまして、一等國の現情より見ましても必要である、又他の學校制度の改善と同時に進行しなければならぬと云

ふものではない、政府は如何に考へるか、首相は之に答へて、政綱の全幅悉く教育である、専任文相を置くか否かに付ては文相は非常に重要な位置である、現内閣の生命とも謂ふべきものである、慎重に人選をしなければならぬ、已むを得なければ自分が續いて兼攝しても至當かと考へて居る、義務教育延長は大體賛成して居ります、次の議會迄に提出したい、師範教育の改善に付ても同時に考へたい、と申されました。

財政 日本は慢性赤字病に罹つて居る、其の慢性赤字病もとうとう赤字を出すことが出来なくなつて民間航空か何か富籤をやらうと云ふことまで賛成しようとして居る、窮状も茲に至つて極れりと謂ふべきである、内閣は此の時局をどう認識して居るのか此の先はどうなるかと言つても答辯は出来なだらう、其の點はどうであるか、首相は答へて、時局は重大と考へます、負擔も累年増加する傾向にあります、日本の發展性に鑑みますと日本の財政は只今直ちに覆滅すると云ふが如き貧弱なものではないと考へます、地方財政調整交付金に付ては、政府は地方財政に付きましたは中央の財政よりも改革に迫られて居る、相當交付金の必要を認めて七千萬圓を計上しましたが尙各方面の御説を承りました、都市と農村の負擔均衡の上から、更に追加豫算で三千萬圓を増額致したのであります、戸數割の廢止問題に付きましたは、是非の議論が一定して居らない、地方税制を大きく一般的見地から新しく改革する場合に於て考へることとして此の際は見合せたのである、次に重大問題の一つとして金

の現送に付ての質問には、政府は思惑輸入が今殺到して居る、是が爲替に變動を來して、一時的に弱含みになつたのである、併し今日は段々強含みになつて居るので心配はないと思ふ、正貨を外國に於て決済に充てると云ふことは差支ない、年産一億數千萬圓の金が出ますが之を其の中から賄ひ得る程度と今日は考へて居る、此の故に正貨準備には觸らない、又兌換には影響しないと云ふ考へであります。

拓務行政 拓務行政の重要性に鑑みて、拓務省の擴大を圖るや否や、政府は其の任務は頗る重大である、拓務行政の強化は考へるが、拓務省を擴大すると云ふことは十分に検討すべきものと考へる、其の形を變へるか否かは今日明答は出来ぬ、滿洲移民に付ては著々として好い結果を聞くのであるが前内閣は重要國策として、二十年間に百萬戸、其の第一歩として五箇年間に十萬戸を計畫したが將來に付ての政府の所見はどうか、現内閣に於ても大體之を踏襲し、昭和十二年度には集團移民五千戸、自由移民一千戸として本豫算に計上したのである、其の實行方法は今迄通りやるのである、先づ内地で訓練をしまして滿洲に送る、滿洲では滿洲國政府と滿洲拓殖會社との間に連絡を能く取つて、其の世話をする事になつて居る、滿洲拓殖會社は千五百萬圓で、さう行届いた世話が出来るかどうか政府の答へは之を日滿合併の會社として、増資をしなければならぬ、改組後の滿拓會社は移民國策の代行機關となりまして、形式は株式會社で營利的でありますけれども、其の實質に於ては、營利的では

ない、資金融通も長期低利として、全く國家的見地から活動する國策會社である、移民犠牲者の慰安方法をもう少し考へてはどうか、軍隊には犠牲者に對しては國家は色々に慰安をして居る、然るに軍に屬せざる者で、軍人同様の犠牲となつた者があるし、又今後もあるのであるが慰安の方法を考へたらどうか、當局に於ては十分に考慮すると云ふことであります。

實際豫算に關する問題 最後に一委員より實際豫算に付いて是非確めて置きたいとの質問であります、一、陸海軍兩省所管に關する所謂實際豫算、其の意義は何であるか、二、若し實際に使用する豫算なりとせば、其の使用すると云ふことはどう云ふ意味であるか、三、豫算の使用は契約、處分、命令等に始まり現金の支拂に終る、物品の購入、工事の契約等があるならば現金の支拂なきも既に豫算の實行がある、之を豫算の實際使用と見ざるか、四、斯かる契約も爲さない、命令も行はないとすれば、何の必要あつて之を豫算に計上するか、と云ふ質問であります、之に對する政府の答辯は、「所謂實際豫算と云ふのは法律上の用語ではありません、政府の經濟界の事情に適應する爲め豫算の實行上使用を見合さむとする金額に付きまして、使はないと云ふ決心をしたから法律上即ち形式上豫算額より之を差引いたものを斯く稱したものであります、之を發表することが適當であると認められた次第であります」、是は所謂實際豫算の意味如何と云ふことに對するものであります、第二は使用見合せの意味はどうかと云ふのであるが、使用見合せの金額に付きましては、本年度内に於て將來支出

の原因を爲すべき契約等を絶対に爲さざる意味なりやとの趣旨の質問に對するものであります、「政府が前内閣の編成した豫算に付き之に變更を加へる必要を認められたのは、經濟界の情況殊に物價騰貴の趨勢に鑑みまして、政府支出の減少に依つて直接間接に政府並に民間の物資の需要の減少を圖らむとすることが重要な目的でありますから、陸海軍に於ても困難を忍んで此の目的の達成に努めた次第であります、陸海軍兩省の經費は、金額は多額に上ると雖も、今日の國際情勢、國防上の必要より見ますならば、各款項とも極めて切詰めたものであります、到底此の際何れの款項に於ても之を修正することが出来ませぬ、提案額に付き協賛を求むることを必要とするものであつて、今後實行上苦しきを忍び、有らゆる努力を爲して實行上年度内支出を見合せむとするものであります、元來の趣旨が物資の需要減少に依るのであつて、年度内に於て支拂を爲さざるは固より、國防上忍び得る限度に於て出來得る限り物資購入等の契約をも成るべく後に延ばさむと努むる方針である、即ち購買等の契約の遅ければ遅い程物資需要の急増を防ぎ得るを以てあります、右の趣旨でありますから、支出の原因たる契約をも出來得るだけ後年度に延すべく努力する方針であります、國防上絶対に忍び難きやうな場合には、年度内に契約することは必ずしもないと云ふことを保しない」と云ふ答辯であります、討論に入りまして一委員より豫算の提出には妥當を缺く點があると思ひますが、内閣成立後の現勢か

は前例にならないことを政府に警告します、全幅の満足をして賛成は出来ないけれども、國家の現情に鑑み、國民總動員の覺悟を以て時難を克服すべきを思ひ、豫算各案に對して賛成の意思を表示し、次ぎの希望決議を付して全會一致を以て豫算案全部を可決致しました。

第七十回帝國議會豫算委員會希望決議

一、政府は本豫算を實施するに當り經濟界に急激なる變動を與へ國民生活に不安を生せしめざるやう深甚の注意を拂はれんことを望む。

一、今期議會に於ける豫算提出の方法及其の處置妥當を缺くものと認む政府は將來深く注意すべし前者に付て簡単に申上げて見れば、今回提出されました所の豫算は全く赤字豫算である、増税豫算である、之に依つて物價は上つて來たのは當然であるし、又將來も大いに上るであらう、國民生活に不安を生せしめるやうなことがあつてはいけない、之に付ては將來大いに注意を拂つて貰ひたいと云ふのであります、後者は大體斯う云ふ意味であります、政府の答辯に依れば、使用見合額なるものは、嚴格に申しますと、其の實使用を必要とするものであつて、其の實行上見合せむとするものは單に現金の支拂を猶豫するの意に過ぎないのである、斯かる事項は豫算としての問題ではない、經常臨時の區別さへしない、款項の區別は之を決定しない、斯う云ふ豫算と云ふものは、あるべきものでない、憲法上の豫算でもなければ、行政法上の豫算とも言へないのである、實際豫算と云ふ様な言葉で云々

するのは更に不可解のことである、是が爲め實際使用に必要なものを豫算に計上したる如き疑を生せしめ、憲法上、會計法上各種の紛議を生じたのは頗る遺憾に堪へないことであります苟も政府が勅命を奉じ、帝國議會に提出したる豫算に懸値をするとか、或は不要の金額を含ませると云ふが如きことは、許すべからざる事態である、我が陸海軍當局が不必要なる豫算を要求したと云ふとは斷じて信する能はざる所であるが、今回の如き其の已むべからざる國防上の必要の爲に、重大なる負擔を國民に課せむとする場合に於て尙更然りと思ふのである、今回の事たる陸海軍豫算の如き、所謂實行上使用見合額と云ふものは、他の各省豫算に於て修正減額せられたるものと、其の關係を全く異にして居り、眞に國防上避くべからざる經費である、是が要求を阻止することが出来ない、唯兩省豫算の實行上、毎年度相當多額の繰越のある實際に鑑みて他省と協力して、其の財政上の重壓を緩和するが爲、各々二千三百萬圓の程度に於て成るべく支拂を猶豫せむことを約束したものはなからうか、是ならば甚だしく國防計畫の遂行を妨げることなくして實行し得るであるかも知れない、併しながら之は單に自然に生ずべき繰越を見合せた機宜の處置に過ぎないのであります、斯う云ふことは、軍部當局と財政當局との間に於ける政府部内の了解事項たるに止り、豫算案提出に關する對帝國議會の直接交渉事項ではない、然るに政府は當初より正式の豫算を提出すると同時に、實際豫算なるものを提出して、兩々相對して恰も不可分的に形影相伴ふ姿を成し、人をして常に一は實際上の豫算、一は假

裝的の豫算であるかの如き感を懐かしめ、爲に疑惑と議論を生ぜしめたのは、眞に遺憾であること云ふのが大體の意見でありまして、是が即ち提出方法竝に其の處置妥當を缺くものと認むと云ふことの内容であります。

以上御報告申上げました通り、豫算委員会は昭和十二年度の總豫算案竝に追加豫算案を原案通り全会一致を以て可決致しました、何卒御賛成を願ひます。

本會議に於ては二三の賛成演説ありて豫算委員長の報告通り満場一致を以て可決せり。

第二節 決算及國有財産

一、昭和十年度決算

昭和十年度の歳入歳出總決算に計上する所の歳入の收入濟額は、經常部十四億五百四十二萬六千七百九十七圓十九錢、臨時部八億五千三百八十九萬四千五百九圓十七錢九厘、合計二十二億五千九百三十二萬一千三百六圓三十六錢九厘にして之に對する歳出の支出濟額は、經常部十二億六千八百九十九萬二千二百五十圓四十九錢五厘、臨時部九億三千七百四十八萬五千六百八十二圓八十三錢八厘、合計二十二億六百四十七萬七千九百三十三圓三十三錢三厘なり、故に歳入歳出差引五千二百八十四萬三千三百七十三圓三錢六厘の剩餘を生じたり、該剩餘金は、大正十年法律第四十二號會計法第二十六條に依り之を昭和十一年度の歳入に編入せり。

イ、歳入

昭和十年度に於ける歳入の收入濟額二十二億五千九百三十二萬一千三百六圓三十六錢九厘を以て、歳入の豫算額二十二億一千五百四十一萬三千八百九圓に對比すれば、四千三百九十萬七千四百九十七圓三十六錢九厘を増加せり、今之を經常臨時に區分すれば、歳入の收入濟額は經常部十四億五百四十二萬六千七百九十七圓十九錢、臨時部八億五千三百八十九萬四千五百九圓十七錢九厘、合計二十二億五千九百三十二萬一千三百六圓三十六錢九厘にして、歳入の豫算額、經常部十三億三千五百五十八萬七千八百四十四圓、臨時部八億七千九百八十二萬五千九百六十五圓、合計二十二億一千五百四十一萬三千八百九圓に對比すれば、經常部は六千九百八十三萬八千九百五十三圓十九錢を増加し、臨時部は二千五百九十三萬一千四百五十五圓八十二錢一厘を減少するを以て差引四千三百九十萬七千四百九十七圓三十六錢九厘を増加せり。

ロ、歳出

昭和十年度に於ける歳出の支出濟額二十二億六百四十七萬七千九百三十三圓三十三錢三厘を以て、歳出の豫算額二十二億一千五百四十一萬三千八百九圓に對比すれば、八百九十三萬五千八百七十五圓六十六錢七厘、を減少せり今之を經常臨時に區分すれば、歳出の支出濟額經常部十二億六千八百九十九萬二千二百五十圓四十九錢五厘、臨時部九億三千七百四十八萬五千六百八十二圓八十三錢八厘、合

計二十二億六百四十七萬七千九百三十三圓三十三錢三厘にして、歳出の豫算額經常部十三億一千三十三萬二千五百二十八圓、臨時部九億五百一十一萬壹千二百八十一圓、合計二十二億一千五百四十二萬三千八百九圓に對比すれば、經常部は四千百三十一萬二百七十七圓五十錢五厘を減少し、臨時部は三千二百三十七萬四千四百一圓八十三錢八厘を増加するを以て差引八百九十三萬五千八百七十五圓六十六錢七厘を減少せり、昭和十年年度の歳出豫算額は二十二億一千五百四十一萬三千八百九圓なるも豫算決定後に於て、大正十年法律第四十二號、會計法第二十七號、第二十八號及明治四十四年法律第二號に依り前年度豫算殘額を本年度に繰越したるが爲七千九百十六萬八千五百四十七圓二十二錢三厘、國庫豫備金外に臨時支出をなしたるものありしが爲一千四十七萬五千七百五圓、合計八千九百六十四萬四千二百五十二圓二十二錢三厘を増加せり、故に右歳出豫算額及豫算決定後増加額を合計すれば、二十三億五百五萬八千六十一圓二十二錢三厘にして、同年度支出濟額は二十二億六百四十七萬七千九百三十三圓三十三錢三厘、同年度に於て支出を終らずして翌年度に繰越したる金額は六千五百一萬六千參百七圓七十一錢五厘なるを以て差引三千三百五十六萬三千八百二十圓十七錢五厘の不用額を生せり。

決算委員會に於ては昭和十年年度歳入歳出總決算中

一、昭和十年年度歳入歳出總決算歳入經常部第三款官業及官有財産收入第九項刑務所收入中大阪刑務所の收入未済に係る三萬九千六百三十六圓四十錢

一、昭和十年度各特別會計歳入歳出決算鐵道省所管帝國鐵道資本勘定歳入第一款資金收入第二項公債金中鐵道省の收入に係る四千百十八萬七百五十圓

一、昭和十年度各特別會計歳入歳出決算拓務省所管臺灣總督府歳出經常部第十四款專賣品補償及購買費中臺灣總督府專賣局の支出に係る百二十二萬六千五百九十四圓六十六錢

右三件は政府の措置適切ならざるものと認め、其の他の八十九件は政府に對し將來の注意を促すべきものと認め其他は異議なきものと議決せり、本會議に於ては委員長の報告通り可決せり。

二、豫備金及豫算外支出

昭和十年度第一豫備金支出の件

昭和十年度特別會計第一豫備金支出の件

昭和十年度特別會計豫備費支出の件

昭和十年度滿洲事件第一豫備金支出の件

昭和十年度豫備金外に於て豫算超過及豫算外支出の件

昭和十年度第二豫備金支出の件

昭和十年度特別會計第二豫備金支出の件

昭和十年度特別會計豫備金外に於て豫算超過及豫算外支出の件

昭和十一年度第二豫備金支出の件

昭和十一年度特別會計第二豫備金支出の件

昭和十一年度特別會計豫備金外に於て豫算外支出の件

昭和十年度に屬する第一豫備金の支出總額は六百萬圓にして、其の主たる事項は檢丁及新兵旅費、軍事救護費、及刑務所收容費なり、特別會計に於ては、第一豫備金の支出總額は二百四十三萬四千九百四十一圓にして其の主たる事項は健康保險、勞働者災害扶助責任保險、專賣局、關東局等なり、豫備金の支出總額は三百三十四萬三千三百九十四圓にして、其の主たる事項は通信業務費なり、滿洲事件第一豫備金の支出總額は五百萬圓なり、豫備金外に於て豫算超過及豫算外支出總額は一千四十七萬五千七百五圓にして其の主たる事項は應急土木事業助成費、風水害應急及復舊施設費、冷害應急施設費なり、第二豫備金の支出總額は二千三百萬圓にして、内昭和十一年一月二十四日及同年二月一日支出したる金額は三百九十七萬九千四百四十四圓にして、其の主たる事項は衆議院議員總選舉諸費補足、災害地方尋常小學校費臨時補助、冷害應急施設費なり、特別會計第二豫備金の支出總額は十五萬圓にして其の主たる事項は滿洲事件費補足なり、特別會計豫備金外に於て豫算超過及豫算外支出の總額は三百七十一萬四千四百三十二圓にして、其の主たる事項は專賣品賠償及購買費、專賣局事業費なり、第二豫備金支出の主たる事項は軍事費なり、昭和十一年度第二豫備金の支出總額は九百三十九萬五千

五百十九圓にして其の主たる事項は水陸整備費補足、艦船損傷其他復舊費なり、昭和十一年度特別會計第二豫備金の支出總額は四百十五萬圓にして其の主たる事項は朝鮮總督府の風水害應急費、臺灣總督府風水害復舊費なり、昭和十一年度特別會計豫備金外に於て豫算外支出の總額は五百十六萬八百二十一圓にして、其の主たる事項は朝鮮總督府風水害復舊及改良並善後費、風水害復舊費補助なり。以上の支出に對して承諾を求められたるにより九名の特別委員に附託して之を審査せしめ總て承諾を與ふべきものと議決せり。

三、國有財産

昭和十年度國有財産増減總計算書

昭和十年度に於ける國有財産の増加額は十億千五百六萬四千四百六圓六錢一厘にして、其の減少額は、七億三千百七十七萬五千八百四十六圓五十六錢七厘にして、差引二億八千三百八十八萬八千五百五十九圓四十九錢四厘の純増加となり、國有財産の總額は、九十二億六千三百二十一萬七百十六圓となり。

一、昭和十年度國有財産増減額調

本表中土地鑛業權數量は町以下、立木竹數量は石竹は束以下、建物數量は坪以下、價格は圓以下を省略せり從て内譯と計とは符合せず。

(一) 各種財産別増減

種別	昭和三十年 三月三十一日現在	昭和十年度増減 △	昭和十一年 三月三十一日現在
公用財産	六、九〇三、五八六、〇八七	二八〇、一四四、六四二	七、一八三、七三〇、七二九
營林財産	一、三七一、九〇六、六九一	四、一九二、一七七	一、三七六、〇九八、八六八
雜種財産	七〇三、八二九、三七八	四四八、二五九	七〇三、三八一、二八
計	八、九七九、三三三、一五七	二八三、八八八、五五九	九、二六三、二二〇、七二六

内譯

(イ) 一般會計所屬

種別	昭和三十年 三月三十一日現在	昭和十年度増減 △	昭和十一年 三月三十一日現在
公用財産	二、八九六、一八九、九五六	一三九、八二八、〇一〇	三、〇三六、〇三三、九六六
營林財産	一、三七一、九〇六、六九一	四、一九二、一七七	一、三七六、〇九八、八六八
雜種財産	七〇三、四五〇、四七九	四六八、二九〇	七〇二、九二一、一八九
計	四、九七一、五四三、一三七	一四三、五四一、八九七	五、一一五、〇八五、〇五五

(ロ) 特別會計所屬

種別	昭和三十年 三月三十一日現在	昭和十年度増減 △	昭和十一年 三月三十一日現在
公用財産	四、〇〇七、四〇〇、一三二	一四〇、三三六、三二二	四、一四七、七三六、七六二
營林財産	三七八、八九八	二〇、〇〇〇	三九八、八九八
雜種財産	四、〇〇七、七七九、〇二九	一四〇、三四六、六六一	四、一四八、一二五、六九二
計			

(二) 各省別増減

省別	昭和三十年 三月三十一日現在	昭和十年度増減 △	昭和十一年 三月三十一日現在
外務省	二五、二五一、七六四	一〇五、〇七五	二五、三三六、八三九
内務省	六〇二、七五七、〇二六	一、六三二、〇三五	六〇四、三八九、〇五二
大藏省	九一八、五九四、三七七	三九七、四五二	九一八、一九六、八七六
陸軍省	八七五、四二一、三三七	四一、九八四、六三八	九一七、三九五、八七六
海軍省	一、七六六、二八一、八二九	九四、八五一、七六三	一、八六一、二三三、五九三

省別	司 法 部 省	文 部 省	農 林 省	商 工 省	遞 信 省	鐵 道 省	拓 務 省	計
昭和三十一日現在	九二、三七、九三九	三六〇、七三三、三三六	九三一、五七〇、三八四	一六、九〇八、四〇四	六二七、七二三、八三五	二、七六〇、六六九、九五五	一、一九三、三三六	八、九七九、三三二、一五七
昭和三十一年度増減	五五四、一七九	九、五〇六、九一九	四、九七六、七二四	二二九、〇二八	二九、三七七、五八三	一〇一、〇七七、五八二	四八〇	二八三、八八八、五五九
昭和十一年三月三十一日現在	九二、七九二、一九	三七〇、二三九、一四五	九三六、五七、一〇八	一七、二七、四三三	六五七、〇九一、四一九	二、八六一、七四七、五三七	一、一九三、七二六	九、二六三、二〇、七二六

内 譯

(イ) 一般會計所屬

省別	外 務 省	内 務 省
昭和三十一日現在	三三、〇二八、八五五	六〇二、七五五、四七二
昭和三十一年度増減	一〇五、〇七五	一、六三二、〇三五
昭和十一年三月三十一日現在	三三、一三三、九三〇	六〇四、三八七、五〇八

省別	大 藏 省	陸 軍 省	海 軍 省	司 法 部 省	文 部 省	農 林 省	商 工 省	遞 信 省	鐵 道 省	拓 務 省	計
昭和三十一日現在	八八、七八九、五三〇	七三、四三三、八一九	一、七四一、四八一、〇二八	九二、三三七、九三九	一九、六五二、四五八	九二六、三〇二、六五五	一六、九〇八、四〇四	一七、七五九、七五六	一、一九三、三三六	四、九七二、五四三、二二七	
昭和三十一年度増減	二、〇四〇、六六三	三九、五〇二、九六二	九四、七八七、九三九	五五四、一七九	四〇一、〇七四	四、五九四、八七二	二二九、〇二八	五〇五、七三六	四八〇	一四三、五四一、八九七	
昭和十一年三月三十一日現在	八〇、八三〇、一九四	七六一、九三五、七九二	一、八三六、二六九、九五七	九二、七九一、一九	一九、二五一、三八四	九三〇、八九七、四六八	一七、二七、四三三	一八、二六五、四九二	一、一九三、七二六	五、一五、〇八五、〇二五	

(ロ) 特別會計所屬

省別	昭和三十一日現在	昭和三十一年度増減	昭和十一年三月三十一日現在
----	----------	-----------	---------------

外務省	三、三三三、九〇八 ^円		三、三三三、九〇八 ^円
内務省	一、五四三		一、五四三
大藏省	九九、八〇四、七九七 [△]		九七、三六六、六八二
陸軍省	一五二、九七八、四〇八	二、四三八、二一五	一五五、四六〇、〇八三
海軍省	二四、七九九、八二〇	二、四八一、六七五	二四、八六三、六三五
司法省		六三、八四四	
文部省	三四一、〇七九、七六七	九、九〇七、九九三	三五〇、九八七、七六一
農林省	一五、二六七、七五八	三八一、八五三	一五、六四九、六一
商工省			
逓信省	六〇九、九五四、〇七八	二八、八七一、八四七	六三八、八五、九六
鐵道省	二、七六〇、六六九、九五五	一〇一、〇七七、五八二	二、八六一、七四七、五三七
拓務省	四、〇〇七、七七九、〇二九	一四〇、三四六、六六一	四、一四八、二五、六九一
計			

第五章 法律案

第一節 貴族院及衆議院に於て可決したる法案

樺太市制案

本案は政府の提案にして、樺太は領有以來既に三十年を閲し各方面に目覺しき躍進を遂げ町村自治亦向上し其の形態及實質に於て内地の都市に比し何等遜色なき都邑を生ずるに至れるを以て此の趨勢を助長し樺太開發の進展に寄與する爲樺太市制を制定するの必要を認め本案を提出せりと云ふ。

本院に於ては九名の特別委員に付託して之を審査せしめ、委員會に於ては審議の上異議なく原案を可決して之を、議長に報告せり、本會議に於ては委員長の報告通り可決せり。

北海道舊土人保護法中改正法律案

本案は政府の提案にして、北海道舊土人保護法は制定以來茲に三十有餘年を経過し舊土人生活の現況及其の環境に照し適當ならざるものあるに至りたるを以て時勢の推移に應じ舊土人保護に關する制度をして一層適切ならしむる爲同法中改正を要するものありて之を提案せりと云ふ。

本院に於ては九名の特別委員に付託して之を審査せしめ、委員會に於ては其の改正の趣旨誠に時宜に適したるものと認め滿場一致原案を可決せり。

本會議に於ては委員長の報告通り可決確定せり。

日本無線電信株式會社法中改正法律案

本案は政府の提案にして、日本無線電信株式會社をして無線電信以外の電氣通信の設備をも爲さしめ我國對外電氣通信施設を整備する等の爲日本無線電信株式會社法中改正を要するものありて之を提出せりと云ふ。

本院に於ては九名の特別委員に付託して之を審査せしめ、委員會に於ては全會一致原案を可決せり本會議に於ては委員長の報告通り異議なく議決せり。

軍事救護法中改正法律案

本案は政府の提案にして、軍事救護法は施行以來相當の實績を收め來れるも現下の社會情勢に鑑み其の適用範圍の擴張其の他に付改正を加へ以て軍事扶助の徹底充實を期するが爲同法中改正を要するものありて之を提出せりと云ふ。

救護法中改正法律案

本案は政府の提案にして、近時要救護者の増加に伴ひ益救護の普及徹底を期する爲國庫補助率に關する規定を改めて公共團體の費用負擔を容易ならしめ併せて從來の實績に鑑み規定を整備する爲救護法中改正を要するものありて之を提出せりと云ふ。

母子保護法案

本案は政府の提案にして、子女を擁する母にして自ら生活を維持すべき地位に在るもの貧困の爲生活すること能はず又は其の子を養育すること能はざる事例極めて多し仍て速に我が國情に適合せる母子保護制度を確立し母をして安んじて子女の養育に従はしめ以て兒童の健全なる成長を期せざるべからざるを以て之を提出せりと云ふ。

本院に於ては以上の三案を一括して十五名の同一特別委員に併託して之を審査せしめ、委員會に於ては詳細なる質疑應答並に意見の陳述ありて三案共全會一致を以て原案を可決して其旨議長に報告せり。

本會議に於ては委員長の報告通り可決せり。

絲價安定施設法案

本案は政府の提案にして、繭絲價の異常なる騰落は輒近に於ける蠶絲業不況の主因にして絲價の暴騰は競争纖維の進出に依り生絲消費の減退を招來すると共に繭及生絲の増産を誘致して需給逆轉の素因と爲り繭絲價の暴落は蠶絲業の基礎を危殆ならしめ、延て國民經濟に影響する所甚大なるを以て速に繭絲價の激變を防止するの方策を講ずることは繭絲業の更生刷新上喫緊の要務たるを以て之を提出せりと云ふ。

絲價安定施設特別會計法案

本案は政府の提案にして、絲價安定施設法に基きて爲す政府の施設に關する歳入歳出は之を一般會計と區分し特別の會計を立つるの必要ありて之を提出せりと云ふ。

本院に於て本以上の二案を一括して十五名の同一特別委員に併託して之れを審査せしめ、委員會に於ては兩案の目的は生絲の價格の異常なる騰貴又は低落の防止を圖り、以て蠶絲業の安定及發達を期するにあるを以て其の目的を達する爲に、製絲業者をして絲價安定施設組合を組織せしめ、生絲の賣買又は共同保管を行はしめ而して現在政府が所有する所の生絲五萬俵と金七千萬圓を合して特別會計を設置して之を援助せしむるにあるを以て慎重審議質疑應答を重ねて

希望決議

一、本法施行に際し特別會計の運用に關し深甚の注意を要すると共に絲價低落に依る損失を専ら養蠶者に轉嫁せしめざるやう善處すべし。

一、政府は速に普通蠶種の國家管理並に桑園調整に對し適當なる施設を行はれむことを望む。

右二項の希望決議を付して滿場一致原案を可決せり。

本會議に於ては委員長の報告通り異議なく可決確定せり。

一般會計歳出の財源に充つる爲特別會計より爲す繰入金に關する法律案

本案は政府の提案にして、一般會計歳出の財源に充つる爲當分の内毎年度豫算の定むる所に依り通信事業、帝國鐵道、關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府、樺太廳及南洋廳の各特別會計より一般會計へ繰入金を爲すの必要ありて之を提出せりと云ふ。

對支文化事業特別會計法中改正法律案

本案は政府の提案にして、對支文化事業特別會計の資金運用方法を擴張し且一般會計の保有する膠濟鐵道國庫證券を對支文化事業特別會計に歸屬せしむる等の爲對支文化事業特別會計法中改正を要するものなりて之を提出せりと云ふ。

一般會計歳出の財源に充つる爲大藏省預金部特別會計より爲す繰入金に關する法律案

本案は政府の提案にして、一般會計の社會政策的施設の財源に充つる爲毎年度六百萬圓を限り大藏省預金部特別會計より一般會計に繰入金を爲すの必要ありて之を提出せりと云ふ。

本院に於ては以上の三案を一括して、九名の同一特別委員に併託して之を審査せしめ、委員會に於ては何等の意見もなく全會異議なく原案を可決して之を議長に報告せり。

本會議に於ては委員長の報告通り議決せり。

郵便法中改正法律案

本案は政府の提案にして、郵便事業の現狀に鑑み其の施設改善の財源に充つる目的を以て郵便料金

の引上を行ふ等の爲郵便法中改正を要するものありて之を提出せりと云ふ。

本院に於ては十五名の特別委員に付託して之を審査せしめ、委員會に於ては本案の目的たる郵便料金の値上げは現下の情勢に於ては已むを得ざるものと認むるも、郵便料金の性質竝に通信事業特別會計の實狀に鑑み次の希望決議を付して、全會一致原案を可決せり。

希望決議

通信事業の施設改善竝に従業員の優遇は一日も忽諾に附す可らざる喫緊の要務たり、然るに政府は通信事業特別會計より年々一般會計に納付せし金八千餘萬圓の外明年度に於て更に一千二百六十餘萬圓の追加繰入を行ひたるは當然施設改善に充當すべき郵政改正に因り得たる財源を一般會計の爲め犠牲に供したるかの觀なき能はず如斯は國民多年の期待に副はざるの甚しきものと謂はざる可らず仍て政府は今次の追加繰入金は可及的本年度限りとし次年度よりは之を以て施設の改善及従業員の優遇費に充當すべく努力せられんことを望む。

本會議に於ては委員長の報告通り可決せり。

漁業保險法案

本案は政府の提案にして、漁船保險の制度を樹立し以て漁業經營の安全を圖り延て漁業の改良發達を促進するは漁村振興上喫緊の要務たり仍て漁船の所有者をして漁船保險組合に依り相互保險を行は

しめ政府其の再保險を管掌して漁業に適切なる保險制度を樹立せんとして之を提出せりと云ふ。

漁船再保險特別會計法案

本案は政府の提案にして、漁船保險法に基きて爲す漁船再保險事業に關する歳入歳出は之を一般會計と區分し特別の會計を立つるの必要ありて之を提出せりと云ふ。

森林火災國營保險法案

本案は政府の提案にして、火災に因る森林の被害は巨額に達し就中幼齡林の被害激甚なり仍て幼齡林に對する國營火災保險の制度を樹て其の被害を填補して再造林を容易ならしめ、林地の荒廢防止竝に林利の保續を圖るは林業振興上極めて緊要なるを以て之を提出せりと云ふ。

森林火災保險特別會計法案

本案は政府の提案にして、政府の經營する森林火災保險事業に關する歳入歳出は之を一般會計と區分し特別の會計を立つるの必要ありて之を提出せりと云ふ。

本院に於ては以上の四案を一括して十五名の特別委員に併託して之を審査せしめ、委員會に於ては審議の上漁船保險法案、漁船再保險特別會計法案には

希望決議

一、海難防止の諸施設を整へ竝に漁撈従事者遭難救護及遭難者遺族扶助に關する施設を講ずべし。

- 一、本法は速に之が運用を汎く全國に亘らしめ且中小漁船を主とし普く漁船に及ぼすべし。
 - 一、漁船保険は適當なる時期に於て之を國營の制度に改むべし。
 - 一、漁業組合等に金融を爲すべき中央金庫を速に特設すべし。
- 森林火災國營保險法案、森林火災保險特別會計法案には

希望決議

- 一、森林愛護の思想を涵養し火災警防の施設を擴充すべし且之に伴ひ保険料の低下を圖るべし。
 - 一、本法は適當なる範圍に於て漸次壯齡林にも之を適用するに至らしむべし。
 - 一、本法を府縣に限定することなく速に北海道にも施行すべし。
- を附して全會一致原案を可決せり。

本會議に於ては委員長の報告通り異議なく可決したり。

朝鮮事業公債法中改正法律案

本案は政府の提案にして、朝鮮總督府特別會計に於ける昭和十二年度以降の繼續費として計上したる鐵道建設及改良費並に港灣修築改良費追加額の一部の財源は同特別會計の現下の財政狀況に鑑み之を公債に依るの必要あるに付公債發行限度を増加する爲朝鮮事業公債法中改正を要するものありて之を提出せりと云ふ。

朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案

本案は政府の提案にして、朝鮮國有鐵道に關聯し經營する自動車交通事業の用品の購入貯藏等を朝鮮鐵道用品資金會計に於て爲さしむる爲朝鮮鐵道用品資金會計法中改正を要するものありて之を提出せりと云ふ。

本院に於ては右の二案を一括して九名の同一特別委員に併託して之れを審査せしめ、委員會に於ては本案の實施は朝鮮に於ける福利民福に重大なる關係あるを以て十分なる注意を以て事に當られんことを望み兩案とも異議なく原案を可決したり。

本會議に於ては委員長の報告通り可決せり。

地方鐵道補助法中改正法律案

本案は政府の提案にして、陸上交通の現狀に鑑み地方鐵道の普及發達を目的とする現行補助制度を改め地方鐵道の運営を保持し效用を増進せしむることを目的とする新補助制度を設くる等の爲地方鐵道補助法中改正を要するものありて之を提出せりと云ふ。

横莊鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買收の爲公債發行に關する法律案

本案は政府の提案にして、横莊鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買收の爲公債を發行すると五分利附國債證券の借換に應じて其の價格の算定方法に付特例を設くるとの必要ありて之を提出せりと云ふ。

本院に於ては右の二案を一括して十五名の同一特別委員に併託して之を審査せしめ、委員會に於ては何れも妥當なるものと認め全會一致原案を可決せり。

本會議に於ては委員長の報告通り議決せり。

鐵道敷設法中改正法律案

本案は政府の提案にして、鐵道系絡上豫定鐵道線路を追加する爲鐵道敷設法中改正を要するものありて之を提出せりと云ふ。

本院に於ては九名の特別委員に付託して之を審査せしめ、委員會に於ては妥當なる改正案と認め全會一致を以て原案を可決したり。

本會議に於ては委員長の報告通り議決せり。

輸出補償法中改正法律案

本案は政府の提案にして、國際通商情勢の變化に對應し補償の範圍を擴張し以て輸出補償法の積極的活用を圖り輸出貿易の伸張に資せんが爲同法中改正を要するものありて之を提出せりと云ふ。

本院に於ては九名の特別委員に付託して之を審査せしめ委員會に於ては異議なく原案を可決したり本會議に於ては委員長の報告通り議決せり。

大正九年法律第五十六號中改正法律案

本案は政府の提案にして、北海道に於ける地方鐵道及軌道の經營の實績に鑑み補助年限を延長する爲大正九年法律第五十六號中改正を要するものありて之を提出せりと云ふ。

本院に於ては九名の特別委員に付託して之を審査せしめ委員會に於ては何等異議なく全會一致を以て原案を可決したり。

本會議に於ては委員長の報告通り議決せり。

昭和十二年度一般會計歳出の財源に充つる爲公債發行に關する法律案

本案は政府の提案にして、政府は昭和十二年度一般會計歳出及同年度歳出豫算翌年度繰越額の財産に充つる爲他の法律に依り起債し得る金額の外昭和十二年度及同十三年度に於て公債を發行するの必要ありて之を提出せりと云ふ。

昭和七年法律第一號中改正法律案

本案は政府の提案にして、滿洲事件に關する經費支辨の爲昭和七年法律第一號に依り起債し得る金額の外更に二億六千五百五十萬圓を限り公債の發行限度を増加する爲同法中改正を要するものありて之を提出せりと云ふ。

昭和七年法律第十二號中改正法律案

本案は政府の提案にして一般會計の現狀に鑑み昭和七年法律第十二號に依り造幣局資金より拂出し

たる銀地金の補填を延期する爲同法中改正を要するものありて之を提出せりと云ふ。

日本銀行條例中改正法律案

本案は政府の提案にして、日本銀行に新に參與理事を設置し同行の機能を一層發揚せしむる等の爲日本銀行條例中改正を要するものありて之を提出せりと云ふ。

日本銀行參與會法廢止法律案

本案は政府の提案にして、日本銀行に參與理事を設置するに伴ひ日本銀行參與會法は之を廢止するの要ありて之を提出せりと云ふ。

東京農業教育専門學校創設に伴ふ帝國大學特別會計及學校及圖書館特別會計の關涉に關する法律案

本案は政府の提案にして、東京帝國大學農學部附屬農業教員養成所は昭和十二年度より之を獨立せしめ東京農業教育専門學校と爲す爲帝國大學特別會計及學校及圖書館特別會計の關涉に關する法律を制定するの必要ありて之を提出せりと云ふ。

帝國の滿洲國に於ける治外法權の撤廢及南滿洲鐵道附屬地行政權の調整乃至移讓に伴ひ退官退職したる者等に交付する公債發行に關する法律案

本案は政府の提案にして、帝國の滿洲國に於ける治外法權の撤廢及南滿洲鐵道附屬地行政權の調査乃

至移讓に伴ひ退官退職したる者等に特別の賜金又は手當として交付する爲公債を發行するの必要ありて之を提出せりと云ふ。

本院に於ては以上の七案を一括して九名の同一特別委員に併託して之を審査せしめ、委員會に於ては日本銀行に參與理事を設置するの案につき二三質疑應答の上異議なく原案を可決したり。

本會議に於ては委員長の報告通り決議せり。

アルコール專賣法案

本案は政府の提案にして燃料國策に應じ揮發油混入用アルコールの供給を確實豊富ならしむる爲政府に於て其の製造販賣を爲すと共に工業用等のアルコールに付ても之を專賣と爲すの必要ありて之を提出せりと云ふ。

揮發油及アルコール混用法案

本案は政府の提案にして、本邦に於ける揮發油需給の實狀に鑑み揮發油消費の節約及液体燃料の自給促進を圖らんが爲揮發油にアルコールを混入使用せしむるの制度を設定せんとして之を提出せりと云ふ。

本院に於ては二案を一括して十五名の同一特別委員に併託して之を審査せしめ、委員會に於ては二三希望意見の開陳ありて全會一致原案を可決したり。

本會議に於ては委員長の報告通り可決せり。

小運送業法案

本案は政府の提案にして小運送業の健全なる發達を圖り利用者の便益を増進せんが爲小運送業を免許營業とし之に對し適當なる監督取締を行ふの必要ありて之を提出せりと云ふ。

日本通運株式會社法案

本案は政府の提案にして小運送業の健全なる發達を圖る爲日本通運株式會社を設立し之をして小運送業の助長改善に當らしむるの必要ありて之を提出せりと云ふ。

本院に於ては右の二案を一括して十五名の同一特別委員に併託して之を審査せしめ此の兩案は先に衆議院に於て一、二修正を加へられ本院に送付せられたるを以て委員會に於ては慎重審議の上衆議院の修正通り全會一致を以て可決せり。

本會議に於ては委員長の報告通り議決せられたり。

保健所法案

本案は政府の提案にして國民體位の向上を圖る爲都鄙を通じて保健所を創設し普く衛生思想の啓發を圖ると共に衣食住其他日常生活をして衛生の規範に即せしむるの外疾病豫防の爲健康相談を爲す等保健上適切なる各般の指導を行はんが爲め之を提出せりと云ふ。

結核豫防法中改正法律案

本案は政府の提案にして結核蔓延の現状に鑑み結核豫防法の範圍を廣め、醫師に對し命令の定むる所に依り結核患者届出の義務を課し、公立結核療養所に入所せしめ得る患者の範圍を擴張する等の爲同法中改正を要するものありて之を提出せりと云ふ。

本院に於ては此の二案を一括して九名の同一特別委員に併託して之を審査せしめ、委員會に於ては熱心なる質疑應答を重ね或は懇談會を開き慎重審議の上全會一致原案を可決せり。
本會議に於ては委員長の報告通り議決せり。

臨時租稅增徴法案

本案は政府の提案にして財政の現況に照し租稅收入の増加を圖るが爲、臨時租稅增徴法を制定するの必要ありて之を提出せりと云ふ。

法人資本稅法案

本案は政府の提案にして法人の資本に對し課稅し國庫の增收を圖ると共に負擔の衡平を期するが爲法人資本稅法を制定するの必要ありて之を提出せりと云ふ。

外貨債特別稅法案

本案は政府の提案にして外貨債所有者の負擔力に適應する課稅を爲さんが爲、外貨債の利子に對し

外貨債特別税を課するの必要ありて之を提出せりと云ふ。

揮發油税法案

本案は政府の提案にして揮發油に課税し燃料國策の遂行に資するが爲揮發油税法を制定する等の必要ありて之を提出せりと云ふ。

有價證券移轉税法案

本案は政府の提案にして有價證券の移轉の場合に於ける擔稅力に適應する課税を爲さんが爲、有價證券移轉税を創設するの必要ありて之を提出せりと云ふ。

明治四十年法律第二十一號中改正法律案

本案は政府の提案にして内地に於ける新規の創設に伴ひ樺太に於ても之に對應する必要ある等の爲明治四十年法律第二十一號中改正を要するものありて之を提出せりと云ふ。

本院に於ては以上の六案は同一趣旨の法案なるを以て之を一括して二十五名の同一特別委員に併託して之を審査せしめ、委員會に於ては此の法律案が二億六千九百餘萬圓の増税を實現するものなるが故に非常なる熱意を以て慎重に審議を重ね殆ど全委員より質疑續出せるを以て今其の主なるものを上げれば

質問、政府は次の税制改革を如何なる方針で行ふか

答辯、今回の増税は臨時的のものなり、更に次の機會に於て中央、地方を通ずる根本的税制の改正をすする意圖を有し、更に其の際には主として税制の改革に主眼を置き、此の上負擔を加重するやうな改正をするものではない。

質問、増税の結果、物價騰貴を招來するのではないか、

答辯、物價の騰落は各種の原因より起るものにして、今度の増税の爲に物價が騰るものとは思はぬ質問、今回の増税は急激に過ぎ、殊に法人に重課したるのみならず、株主配當にも増徴をなし、延

いては産業の發達を妨げ、企業心を萎縮せしめ生産力の低下を來すものではないか、

答辯、總て經濟界のことは急激なることは禁物である、今度の程度の増税は産業の發展を阻害しないと思ふ、又一方に於て生産力の擴充に依つて産業は發展するのであるから心配はないと思ふけれども次の改正の時には是等の點を能く注意する。

質問、今回の増税は株式に重壓を加へ、國債を優遇して居るから、資金は産業界に行かなくなるのではないか、

答辯、國債と株式とは自ら投資者の心持が違ひ、株式の價格の高低は利廻り計算ばかりでは行かない、今回は國債にも課税し、株式にのみ殊に重課して國債を優遇したのではない。

質問、都市と農村及動産と不動産との間の負擔の均衡に關して都市は軍需景氣に惠まれるが、農村

は其の恩恵を受くること薄く、一方間接税の増徴に依る影響は都會地同様に受ける、是は餘程考へねばならぬではないか、又地方交付金の問題は如何、

答辯、政府は十分検討して眞の負擔の均衡を圖りたい、地方交付金は今回は應急的の措置を採つたのであるが、此の次は根本的に能く考へ、交付金の制度で行くべきか、他の方法と併せ行ふべきものか十分研究する。

質問、動産と不動産との負擔の均衡に關し、不動産に對する登録税をなせ引下げなかつたか、農村の土地に對する課税に付き、殊に考慮する積りはないか、

答辯、登録税の引下は地方に於ける不動産取得税と併せて考へなければならぬから次の税制改正の際に能く考へる。

質問、歳出の膨脹を抑へる爲には、國防費以外の經費は出来るだけ緊縮を圖らねばならぬと思ふが如何、

答辯、政府は無駄を排除し、儉約を圖り事の緩急を能く考へ出来る限り緊縮を計りたい。次に各税に關する質疑應答に付簡単に述べれば

質問、相続税は我が國の獨特なる家族制度を維持せねばならぬ觀點より見る時は、今回の増税は行き過ぎではないか、又相続税を納むる爲に財産を處分せねばならぬ場合に、不動産は税務官

廳の評價の如く高くは處分が出来ない、時に依ると相続税を課せられた爲に家の維持が出来ぬやうになる、政府は不動産殊に最も困難を感じる山林の如きものに付ては物納を認める意思はないか、又不動産の評價は處分の出来る程度に評價するのが適當ではないか、

答辯、家族制度の維持に付ては全く同感である、我が國の相続税は、諸外國の相続税とは自ら異なるものなることは認める、今回の増徴はそれ程過重とは思はないが、尙篤と考へて見る、物納はなか／＼困難な問題であるが、相続税が自然不動産に重くなることは認めるから其の評價の問題と共に十分に研究する。

質問、法人の配當所得に對する課税と、個人の配當に對する課税とは重複するのではないか、

答辯、會社に對する課税と個人の配當に對する課税とは重複する性質のものとは考へない。

其他法人資本税、外貨債特別税、酒税、取引税、揮發油税等に付ても論議せられたり。

委員會は此の法律案を如何に取扱ふべきかを慎重に協議し、今回の案は現内閣が組閣早々短時日の間に作成せられたるものなるが故に我々の意に満たざる點多々あれども財政の現況に照らし増税の已むを得ざることは之を認めなければならぬ、今回の案は暫定的、應急的のものにして政府も更に中央地方を通ずる根本的の税制の整理を實現すると明言せらるゝ故暫定的に此の案を認め、又衆議院の修正も政府の原案に比較して必ずしも適當とは言ひ得ざる點もあれど此の際再修正する程のことな

いと考へ、次ぎの希望決議を附して衆議院の修正案を可決したり。

希望決議

臨時租税増徴法の施行は昭和十二年度限り之を止め中央地方を通ずる税制改正案を次の通常議會に提議すべし租税の徴収に當りては税務官吏に特に訓戒を加へ苛斂誅求の弊に陥らざることを期すべし。

本會議に於ては委員長の報告通り満場一致可決せり。

昭和十二年度一般會計歳出の財源に充つる爲公債追加發行に關する法律案

本案は政府の提案にして政府は他の法律に依り起債し得る金額の外昭和十二年度一般會計歳出の財源に充つる爲同年度に於て更に五千百二十萬圓を限り公債を追加發行するの必要ありて之を提出せりと云ふ。

會計検査院法中改正法律案

本案は政府の提案にして會計検査院に於ける検査事務激増の爲現在の三部制に對し一部を増設して検査能力の擴充を圖るの必要上會計検査院法中改正を要するものありて之を提出せりと云ふ。

日本銀行金買入法中改正法律案

本案は政府の提案にして日本銀行金買入法に依る金買入額の増加に伴ひ政府の日本銀行に對する債

務負擔の限度を増加し、又日本銀行に對し同行が同法に依り買入れたる金を處分すべきことを命じ得るの途を拓く爲同法中改正を要するものありて之を提出せりと云ふ。

神戸商業大學移轉改築費に充用したる金額の補填に關する法律案

本案は政府の提案にして昭和三年度に於て施行したる元神戸高等商業學校の移轉改築の經費及昭和四年度乃至昭和十年度に亘り施行したる神戸商業大學の移轉改築の經費に充用したる金額を補填する爲官立大學資金の一部を一般會計に繰入るゝの必要ありて之を提出せりと云ふ。

本院に於ては右の四案を一括して九名の同一特別委員に併託して之を審査せしめ、委員會に於ては質疑應答の後賛成意見の開陳ありて全會一致原案を可決したり。

本會議に於ては委員長の報告通り可決せり。

海外移住組合聯合會對する政府貸付金の出資等に關する法律案

本案は政府の提案にして海外移住組合聯合會の事業を恒久化し海外に於ける自作農創設並に移住者の經濟的活動の指導助成特に生産物の加工販賣及金融事業等を行ふべき中樞機關たらしむる爲同聯合會對する政府貸付金を以て政府の出資に充て之に民間資本を加へて同聯合會の事業を承繼すべき株式會社を設立するの必要ありて之を提出せりと云ふ。

本院に於ては九名の特別委員に付託して之を審査せしめ委員會に於ては一、二質疑の後全會一致原

案を可決せり。

本會議に於ては委員長の報告通り可決したり。

防空法案

本案は政府の提案にして戦時又は事變に際し陸海軍以外の者の行ふ防空を完璧ならしむるが爲には防空法を制定し以て防空の責に任ずる者を定め豫め計畫を樹立し防空の實施、設備、資材の整備防空の訓練等を行ひ之に關する國民の權利義務を明にし且必要なる費用に付ては其の負擔の區分を定むるの要ありて之を提出せりと云ふ。

本院に於ては十五名の特別委員に付託して之を審査せしめ委員會に於ては慎重審議時勢に適應せる法案なりとして全會一致原案を可決したり。

本會議に於ては委員長の報告通り議決せり。

第二節 貴族院にて可決し衆議院にて審議未了の法案

- 一、商法中改正法律案
- 一、肥料取締法中改正法律案
- 一、酒造組合法中改正法律案
- 一、軍機保護法中改正法律案

- 一、兵役法中改正法險案
- 一、特許法中改正法律案
- 一、商標法中改正法律案
- 一、不正競争防止法中改正法律案
- 一、裁判所構成法中改正法律案
- 一、大正十年法律第百二號中改正法律案（定年に因る退職判事檢事の恩給に關する件）
- 一、産業組合中央金庫法中改正法律案
- 一、産業組合自治監査法案
- 一、百貨店法案
- 一、刑事訴訟法中改正法律案
- 一、外國裁判所の囑託に因る共助法中改正法律案
- 一、辨理士法中改正法律案
- 一、議院法中改正法律案

第三節 衆議院にて可決し貴族院にて審議未了の法案

政府提出案

法律案

- 一、國民健康保險法案
- 一、農村負債整理資金特別融通及損失補償法案
- 一、帝國燃料興業株式會社法案
- 一、人造石油製造事業法案
- 一、船員法改正法律案

衆議院提出案

- 一、大正十二年法律第五十二號中改正法律案（司法官試補及辯護士の資格に関する件）（衆第一號）
- 一、大正十二年法律第五十二號中改正法律案（司法官試補及辯護士の資格に関する件）（衆第五號）
- 一、衆議院議員選舉法中改正法律案
- 一、辯護士法中改正法律案（衆第三號）
- 一、辯護士法中改正法律案（衆第四號）
- 一、護國共同組合法案

以上の如く多數法案の審議未了となりたるは衆議院が解散を命ぜられたるによるものなり。

第六章 建議案

明治神宮神苑擴張に関する建議案

明治天皇を奉祀する明治神宮神苑の現状を観るに未だ不十分なるもの多し是を以て明治神宮の内外苑を擴張整備し以て彌々國民景仰の念を深からしめ且國民體育向上の中心たらしむるの緊切なるを認め。

仍て政府は速に之が具體的方策を樹立し實施せられんことを望む。

本案は伯爵二荒芳徳君の發議にして、公爵鷹司信輔君外百六十四名の賛成に依り提出せられたるものなり。

本會議に於て發議者伯爵二荒芳徳君提案の趣旨を説明し全員一致を以て可決したり。

第七章 決議案

永年勳績議員表彰に関する決議案

議長（公爵近衛文麿君）

御諮りを致します、公爵徳川家達君、侯爵黒田長成君、侯爵山内豊景君、男爵山本達雄君、子爵松平

直平君、子爵青木信光君、子爵伊集院兼知君、子爵前田利定君、木場貞長君、男爵千秋季隆君、三宅秀君、室田義文君の諸君は、本院議員としまして何れも既に在職三十年以上に達せられ、常に精勵恪勤克く議員たるの職責を盡されまして、我が國憲政發達の爲に貢献せられたることが誠に尠くないのであります、仍て本院は茲に同君等多年の功勞に對しまして、院議を以て之を表彰することに致したいと存じます、且表彰文案の起草は之を議長に御一任を願ひたいと存じます。

以上議長の發議は被表彰者を除き全會一致を以て可決せられたり。

被表彰者の氏名、勤續年數並に表彰文は次の如し。

氏名	勤續年限
公爵 徳川 家達君	四十七年
三宅 秀君	四十六年
侯爵 黒田 長成君	四十五年
子爵 松平 直平君	三十九年
子爵 青木 信光君	三十九年
侯爵 山内 豊景君	三十六年
室田 義文君	三十五年

男爵 山本 達雄君	三十三年
子爵 伊集院兼知君	三十二年
子爵 前田 利定君	三十二年
男爵 千秋 季隆君	三十二年
木場 貞長君	三十一年

表彰文

正二位勳一等公爵徳川家達君貴族院議員の任に在ること四十七年精勵恪勤力を憲政の濟美に效せり貴族院は君が積年の功勞を憶ひ茲に院議を以て之を表彰す。

(同一文案なるを以て以下畧す)

公爵徳川家達君 表彰を受けたる一同を代表して謝意を表せらる。

第八章 請願

第七十回帝國議會に於て貴族院に提出せられたる請願は其の總數四百九十七件にして此等の請願は四十五名の請願委員に付託してその審査を遂げしむ、請願委員會は總會及分科會を開くこと二十六回審査の結果議院の會議に付すべしと議決したるもの二百十七件會議に付するを要せずと議決したるも

の六十六件其の他二百八件は審査未了に終りたり、本會議に於て之を採擇して政府に送附したる請願二百八十三件は左の如し。

- 一、官幣大社阿蘇神社國費造營の件
- 一、財團法人日本少年指導會に對し國庫補助の件
- 一、公文書平易化の件
- 一、所得調査委員優遇に關する件
- 一、北海道空知郡瀧川町に區裁判所設置の件
- 一、函館本線瀧川驛、濱益村間鐵道敷設の件
- 一、函館本線砂川、瀧川兩驛間に複線敷設の件
- 一、石狩川架橋の件
- 一、北海道幌泉漁港修築の件
- 一、贈位申請に關する件
- 一、東北本線尻内驛又は三戸驛より花輪線毛馬内驛に至る鐵道敷設の件
- 一、能登鐵道買收に關する件
- 一、映畫對策確立實施に關する件

- 一、七尾線能登三井、能登鐵道三明の兩驛間鐵道敷設の件
- 一、静岡縣榛原郡下川根村に登記所設置の件
- 一、北海道高島漁港築設の件
- 一、吳線安藝阿賀、藝備鐵道志和口の兩驛間鐵道敷設の件
- 一、室蘭港修築に關する件
- 一、漁業經營改善に關する件
- 一、鱈の洄游及棲息狀況調査に關する件
- 一、海洋漁業振興に關する件
- 一、水産物の利用に關する件
- 一、漁村金融改善に關する件
- 一、漁村指導機關の整備に關する件
- 一、沿岸漁業の調整並資源培養に關する件
- 一、漁船保險制度創設の件
- 一、水産行政機構改革に關する件
- 一、建武元勳千種忠顯の神社創立の件

- 一、狩獵法中改正に關する件
- 一、豫定線金澤、樽見間鐵道速成の件
- 一、官幣中社水無瀬宮昇格の件
- 一、甲種防火地區建築補助金交付期間延長の件
- 一、防火地區内假設建築物除却期間延長の件
- 一、北海道苫前郡苫前村に増毛區裁判所出張所設置の件
- 一、北海道苫前郡苫前村に航路標識設置の件
- 一、幌加内線添牛内、羽幌線古丹別の兩驛間鐵道敷設の件
- 一、鹿兒島本線小倉、鳥栖の兩驛間鐵道敷設の件
- 一、茨城縣幸久郵便取扱所を三等郵便局に改定の件
- 一、中央線木曾福島、高山本線久々野兩驛間を鐵道豫定線に編入の件
- 一、穀類搗精及製粉取締法制定の件
- 一、北海道江差、瀬棚間鐵道敷設の件
- 一、無線羅針局増設の件
- 一、利根川治水工事施行の件

- 一、荒川改修に關する件
- 一、第二期森林治水計畫樹立に關する件
- 一、災害防止の林業施設計畫樹立に關する件
- 一、林道網計畫樹立實施に關する件
- 一、町村特別稅段別割に關する法律改正の件
- 一、横莊鐵道買收の件
- 一、長倉線長倉、茨城鐵道御前山の兩驛間鐵道敷設の件
- 一、宮崎縣東臼杵郡門川町に區裁判所出張所設置の件
- 一、濟生會診療機關用地免租に關する件
- 一、擇捉島の漁業保護に關する件
- 一、佐賀縣三養基郡鳥栖町に區裁判所設置の件
- 一、兵役義務者及傷殘軍人待遇改善の件（三件）
- 一、七尾、蛸島間航路補償に關する件
- 一、戰役並事變從軍軍人優遇に關する件
- 一、舊帝國議事堂跡に國體館建設の件

- 一、山陽本線麻里布、山陰本線萩の兩驛間鐵道敷設の件
- 一、山村住民救済に關する件
- 一、官公立吃音矯正所設置に關する件
- 一、國民負擔均衡に關する件(百三十件)
- 一、鳥取縣天神川改修工事繰上施行の件
- 一、社會事業の擴充助成に關する件
- 一、吉備高島官趾に施設を爲すの件
- 一、門川港修築に關する件
- 一、口之津鐵道買收の件
- 一、北海道留萌郡留萌町、同郡小平藥村川上間の鐵道敷設の件
- 一、廣尾線大樹、日高線浦河の兩驛間鐵道敷設の件
- 一、北海道廣尾郡大樹村に帶廣區裁判所出張所設置の件
- 一、茨城縣猿島郡生子菅村に郵便取扱所設置の件
- 一、茨城縣戶多郵便取扱所を三等郵便局に改定の件
- 一、岡山縣久米郡加美村に津山區裁判所出張所設置の件

- 一、國立海洋觀測所設置に關する件
- 一、鯨ヶ澤漁港修築の件
- 一、書道振興獎勵に關する件
- 一、私立十四大學國庫補助金に關する件
- 一、裝飾師法制定の件
- 一、愛知縣南設樂郡海老町に登記所設置の件
- 一、千葉縣幕張郵便局に電信、電話及集配事務開始の件
- 一、北海道常呂川及武華川の治水工事實施に關する件
- 一、北海道野付牛町に無水酒精工場設置の件
- 一、國道四號線改修に關する件
- 一、國號の稱呼に關する件
- 一、家事調停裁判所設置の件
- 一、徳島縣沼江郵便局に集配事務開始の件
- 一、高山本線下呂、北惠那鐵道下付知の兩驛間鐵道速成の件
- 一、常磐線平驛北側に乗降口新設の件

- 一、油津港に臨港鐵道敷設の件
- 一、山陽本線周防高森、山口線徳佐の兩驛間を鐵道豫定線に編入の件
- 一、柳井線柳井驛、岩日線渡里間に省營自動車運輸開始の件
- 一、根室本線新得、幌内線幾春別の兩驛間鐵道敷設の件
- 一、公共圖書館費國庫補助法制定の件
- 一、豫定線本郷、今福間鐵道速成の件
- 一、紀勢東線の始發驛に關する件
- 一、小名濱線鐵道敷設に關する件
- 一、國民負擔均衡に關する件（五〇件）
- 一、高知刑務所移轉の件
- 一、鬼怒川流域に貯水池設置の件
- 一、北海道様似漁港修築の件
- 一、富山縣庄川改修促進の件
- 一、澱川低水工事繼續施行の件
- 一、青森縣西津輕郡水元村に登記所設置の件

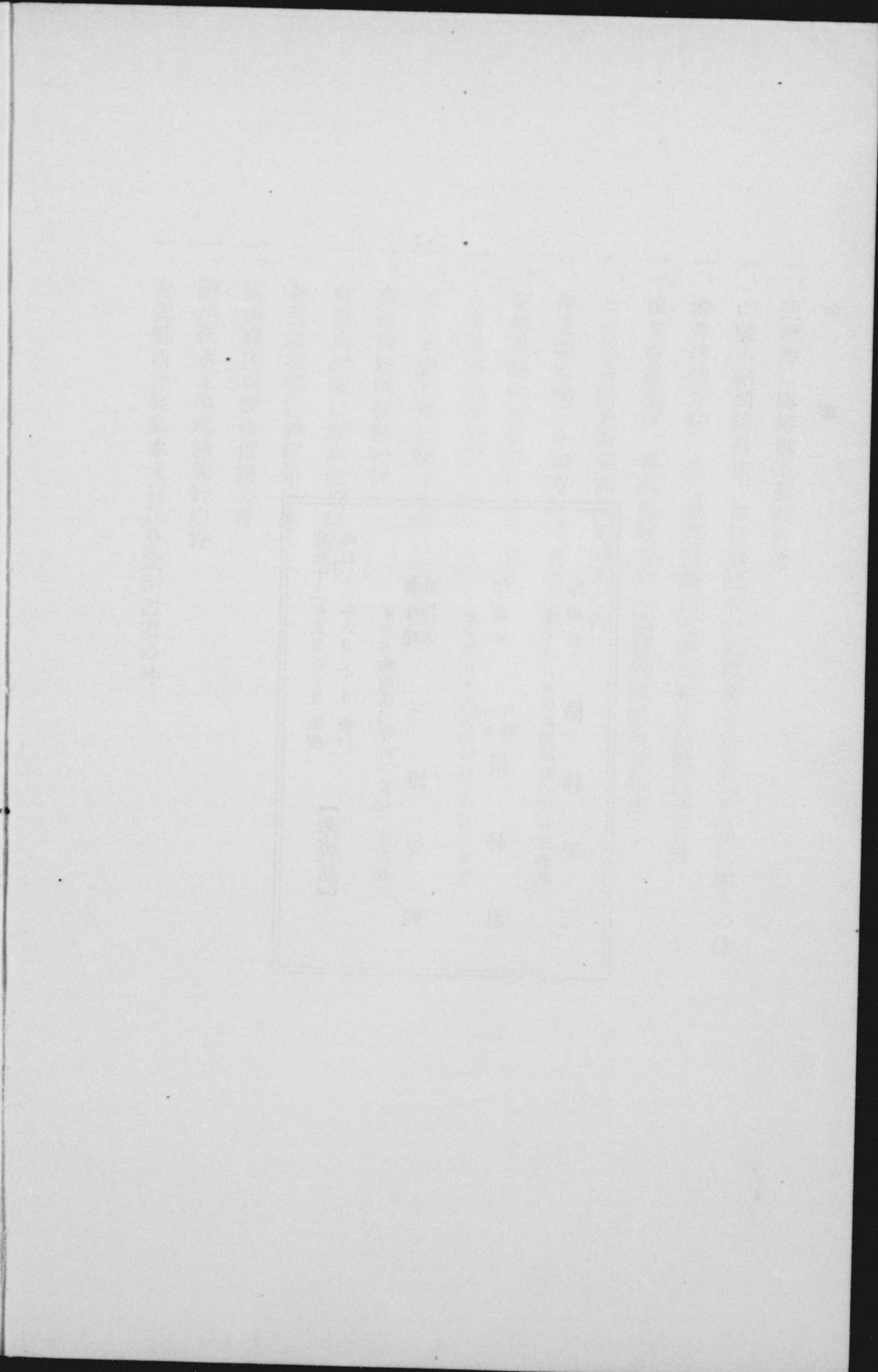
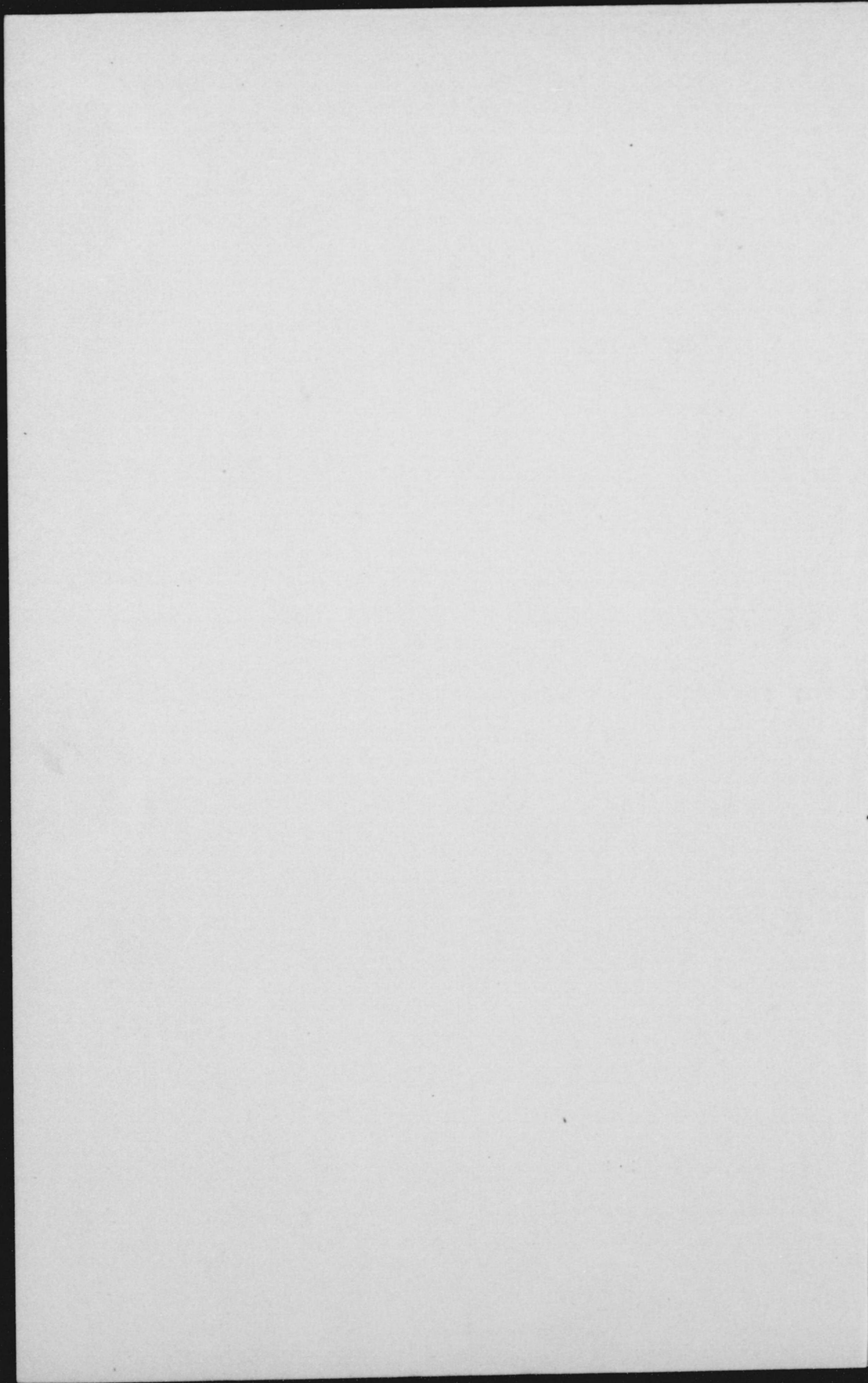
昭和十二年五月三十日 印刷
 昭和十二年六月十日 發行

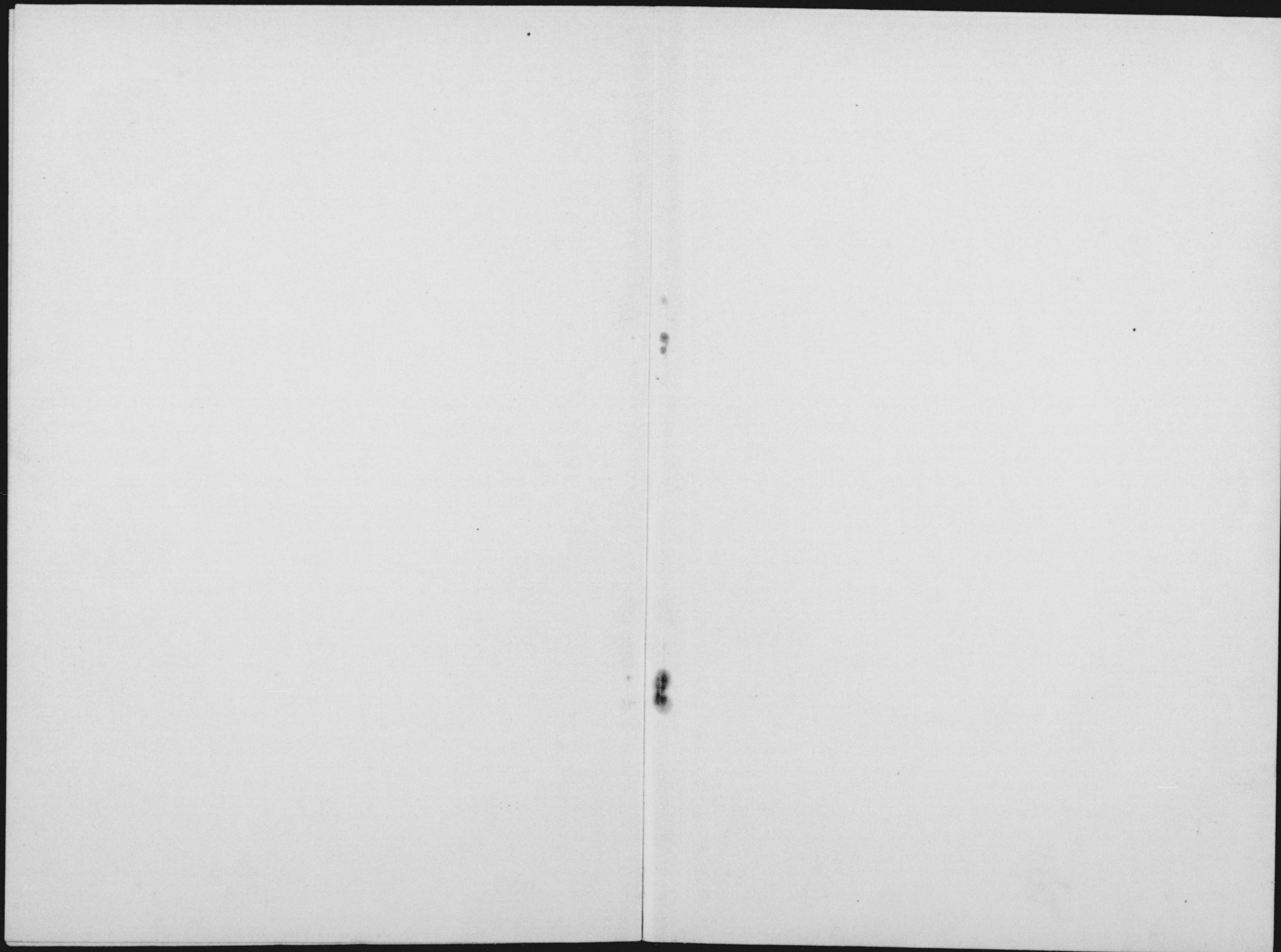
【非賣品】

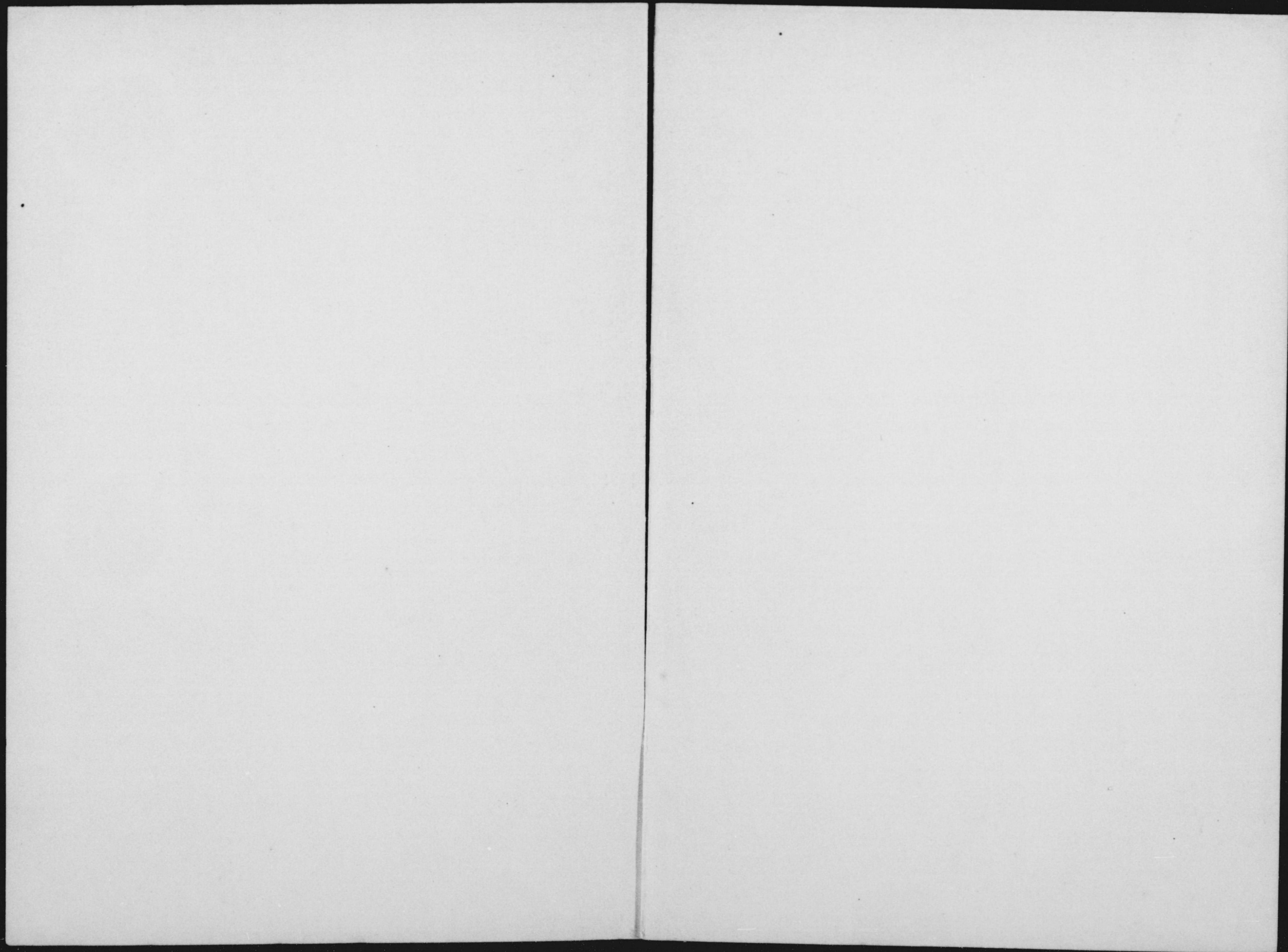
著作兼 發行者 三 浦 安 藏
 東京市麴町區三年町一番地 幸俱樂部

印刷所 合名 會社 横 林 社
 東京市日本橋區箱崎町三丁目三番地

印刷者 横 林 平 三
 東京市日本橋區箱崎町三丁目三番地







373
2
446

